静藥學友會報

静岡県立大学薬学部同窓会報

2023年（令和５年）No.91

魚のある卓上　藤井尚子（昭和40年卒）

特集　４年制薬科学科と６年制薬学科：卒業生の活躍～在学生へのメッセージ

県大卒業生も多数活躍中！

静岡で就職なら メディスン

静岡市内に薬局６店舗
健康食品・OTC 専門店１店舗展開

静岡県立大学薬学部連携薬局
株式会社 静岡メディスン
静岡市駿河区宮竹１丁目４番５号
TEL：054-237-5316
E-mail：soumu@e-medicine.co.jp

SHIZUOKA MEDICINE
薬局メディスン
ふうちゃんとくうちゃん®

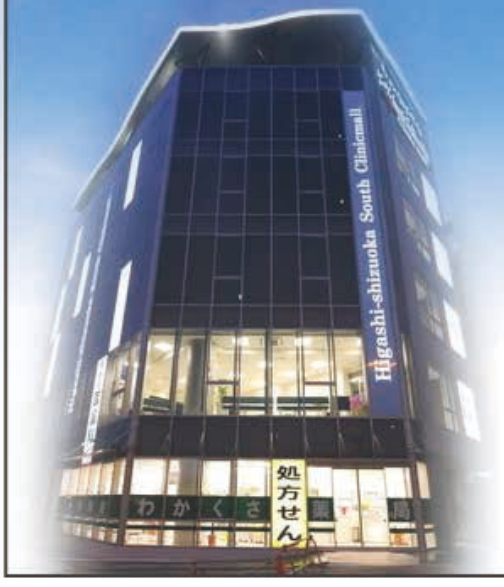
わかくさ薬局グループ

「良き仕事は良き社員から、
良き社員は良き会社から」

これを信念に、
わかくさ薬局グループでは社員教育に力を注いでいます。

それは職場だけにとどまらず、経験を活かし、己を高め、
自己研鑽が楽しくなるような場の提供をしています。

いつでも、高きを仰ぐ気持ちを忘れずに。
日々を過ごすことに誇りを持ち、実践できるように。



わかくさ薬局グループ
代表　高橋　千恵子

つづきはWebで。
http://www.stcy.co.jp

静藥學友會報

2023　No.91

目　次

静薬学友会会長挨拶 …… 安倍道治 2
薬学部長就任挨拶 …… 石川智久 3
瑞宝中綬章の受章にあたり …… 木苗直秀 4
特集「4年制薬科学科と6年制薬学科：卒業生の活躍～在学生へのメッセージ」
歴史ある静岡県立大学薬学部での経験を基盤として …… 福田達也 5
「チーム医療」への貢献とは？ …… 須山由佳子 6
知っているようで実は知らない“薬剤師の仕事” …… 内田貴啓 7
変化が激しい調剤薬局業界で生き残る薬剤師になるために …… 松尾宗一郎 8
好奇心を大切に …… 清川千秋 9
人の歩みと共に社会に根付いた薬の存在 …… 稗田蛍火舞 10
密度の高い学生生活を …… 鵜飼理絵 11
地区同窓会だより
関東地区 …… 本島玲子 12
東海地区 …… 星野有吾 12
関西地区 …… 松田通明 13
中国地区 …… 池田潔 14
九州・沖縄地区 …… 志賀幸子 15
薬学生涯研修講座報告 …… 13
会員だより
小菅卓夫同門会クリスマスパーティーを開催しました …… 木下俊也 16
第３回（昭和34年３月卒）からのお知らせ …… 山添節子　安藤圭子 16
昭和37年卒（６回生）同期会 …… 河村信弘 17
ワクワク感がたまらない ミニミニ同期会　溝口雅子 18
湯けむり温泉・伊勢志摩ツアー記（昭和49年入学） …… 木下俊也 19
静薬植物研究部ＯＢ会報告 …… 美﨑英生 20
薬剤師免許とシダ図鑑 …… 桶川修 21
大学だより
新任挨拶 …… 大橋若奈　清水聡史 22
渕上壮太郎　児玉昌美 23
渡邉桂佑　河本小百合 24
渡邉正悟 25
薬学部教員の人事異動 …… 25
研究室だより　生化学　衛生分子毒性学 26
薬理学　医薬生命化学 27
身体運動科学　生体機能分子分析学 28
医薬品製造化学　生薬学 29
薬剤学　創剤科学 30
分子病態学　生体情報分子解析学 31
臨床薬剤学　臨床薬効解析学 32
医薬品情報解析学　実践薬学 33
医薬品化学　生命物理化学 34
医薬品創製化学　統合生理学 35
免疫微生物学　創薬探索センター 36
薬学キャリアデザイン近藤寄附講座 37
科学英語 38
薬学部教室名および教員一覧 …… 39
令和４年度成績優秀者賞・岩﨑賞受賞
荻野加奈子　山口和馬 40
加藤光貴　又吉克樹 41
在学生だより …… 田代大翔　藤井可怜 42
生川誉紹　室伏琢磨 43
菅野裕一朗先生を偲んで …… 吉成浩一 44
本部だより
理事会報告・総会報告 …… 45
会計報告 …… 54
各種お知らせ
中国地区同窓会総会・講演会開催のお知らせ …… 56
関東地区同窓会主催「懇親とネットワーキングの集い」開催のお知らせ …… 57
第３回静薬学友会賞候補者募集について …… 58
静薬学友会代議員・役員一覧 …… 59
編集後記 …… 賀川義之 60
寄付のご報告／訃報 …… 60
正会員の皆様へ 会費納入のお願い …… 61
令和４年度会費納入者一覧 …… 64
会員専用Webサービスご利用の手引き
令和５年度薬学生涯研修講座のご案内

秋を待つ

年齢（とし）を重ねるにつれて、季節の変わり目、気候の変化、日々の寒暖の差に付いて行けず願わくは、年中温暖かつ穏やかな気候の処！と思うのですが、春の桜、秋の紅葉を観るにつけ、やはり四季がある由の折々の楽しみは他に代えがたいものがあります。

とはいえ、地球温暖化によるものか、夏の暑さは年毎に増し、今年の夏は、猛暑、異常気象という言葉が毎日のように報じられ、〝異常〟が〝異常でなくなる〟日が来るのではないかと懸念される程長い夏に辟易しています。

さて今回の表紙の絵は「魚のある卓上」という題名です。魚をモチーフに取り入れた静物画は何枚か描きましたが、この絵はその描き始めで二十五年程前の作品です。

新たなモチーフに対し、どのように描こうか模索しながらの一枚で後の作品を較べると色数（いろかず）は少なく、線を使って、全体すっきりした色調で仕上げています。

処暑を過ぎても日中の暑さは衰えませんが、夜になって吹く風や其地此地（そちこちち）から聞こえる虫の音に秋の気配が感じられます。

秋の便りと共に、そろそろサンマ漁の季節です。塩焼きにして、レモンを添えていかがでしょうか？　八月末日

今年の夏の暑さは二〇一〇年を上回り、一二六年ぶりということで敢えて八月のコメントにしました。

藤井尚子（旧姓 宮崎）昭和40年卒

静薬学友会会長挨拶

一般社団法人静薬学友会　会長　静岡県立大学客員教授　安倍道治（昭和46年卒）

学友会員の皆様におかれましては、日頃より学友会の活動に対して、ご理解とご支援をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、静薬学友会は、２０１８年に社団法人化をして6年目を迎えました。法人化して2年目が経とうとしたときに、思いもよらず新型コロナウイルスによるパンデミックの発生が起こり、地区活動を含む学友会活動もリモートでの会議開催となるなど活動が大きく制限されました。しかしながら、会員の皆様のご協力により、学生代議員の学友会の意思決定への参画や寄附講座の開設による学生支援など法人としての新たな実績も徐々にではありますが積みあがっているところであります。

法人化の目的は、単に同窓会としての活動にとどまるのではなく、県大薬学部や地域の医療機関などとの連携を通じて、人材育成や地域医療向上を支援することにより、県大薬学部の発展に少しでも寄与することであります。

ここでは、その具体的な検討状況についてご報告させていただきます。

法人化後、相当に時間をかけて静薬学友会の会員有志の方と相談させていただき、その結果、静岡県内を中心に薬局経営を行い、長年地域医療に貢献されている、わかくさ調剤薬局の代表である髙橋千恵子さん、彼女は学友会の副会長でもありますが、彼女と静薬学友会が協力して、２０２１年7月に、新規事業の受け皿となる組織として、「(株)ＳＹＧコーポレーション」を立ち上げました。

新会社設立にあたっては、私どもが地域とのかかわりが持てるツールは、薬学の知識であり、薬剤師資格であることから、具体的な事業展開をはかるにあたっては、その専門性を生かすとすれば、「薬局経営」が柱の一つになるのではないかと考えました。

しかしながら、静岡県内には、すでに十分な薬局があることから、新たな運営会社のもとで開設する薬局のコンセプトは、一つは、「拠点薬局となり、地域の薬局と連携しながら、ともに成長できる薬局」であり、二つ目は「在宅を含めた多職種連携による患者、家族への支援ができる薬局」であり、三つめは、「県立大学、医療機関などとの連携による人材育成（学生、卒業生）と薬物療法に関する共同研究が実施可能な薬局」とし、その実現を目指すことにしました。

そのような薬局の実現を念頭に具体的な開設時期、開設場所について検討を行っている状況の中で、今年1月に静岡県立がんセンターが処方箋を全面的に発行することとなり、薬局誘致にかかる公募を行うことになりました。ＳＹＧコーポレーションとしては、大変チャレンジングな課題ではありますが、応募することを決断し、審査の結果、幸いにも私どもの主張が評価され、第一位の優先交渉権をいただくことができました。

あくまで、交渉権を確保したまでのことですので、今後、実現に至るまでには、契約書締結のほか、必要な人材や設備などの初期費用の確保など解決すべき課題が山積しています。

学友会としましては、この事業を実現するため、引き続き全力で支援する所存ですので、会員の皆様におかれましては、この新たな取組に対しても、ご理解とご支援をお願い申しあげる次第です。

薬学部長就任挨拶

薬学部長就任にあたって

静岡県立大学　薬学部長　石川智久

静薬学友会会員の皆様には、日頃より本学薬学部にご支援いただき、厚く御礼申し上げます。令和5年4月より、薬学部長を拝命いたしました、薬理学分野の石川です。伝統ある薬学部の長という大役に大きな責任と重圧を感じておりますが、微力ながら少しでもお役に立てるよう精進を重ねていく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は平成10年4月に、筑波大学基礎医学系より、当時、中山貢一教授が主宰されていた薬理学教室の助教授として、本学に着任いたしました。そして、平成18年4月に教授に昇任し、薬理学教室を主宰しております。本学に着任してから、早いもので四半世紀が過ぎてしまいました。研究では、筑波大学及び留学先であるネバダ大学での経験を活かして、循環薬理学研究、特に微小循環制御に関する研究を行うとともに、本学への着任を機に新たに開始した、糖尿病の薬理学研究を展開しています。現在では後者が当教室の主要な研究分野となっています。また、2型糖尿病との関連から、肝線維化にも研究範囲を広げています。

さて、本学薬学部では、6年制が始まって以来採用してきた一括入試を、平成30年度入試から薬科学科・薬学科の分割入試へと変更しました。4年制学科でも6年制学科と同じ単位を取得すれば、薬剤師国家試験受験資格が認められるという特別措置が平成29年度入学生で終了することを受け、メリット、デメリットを十分に精査した上での判断でした。デメリットとして、薬学科学生の学習モチベーションが下がるのではという懸念がありました。3年次後期に学科配属が決定する一括入試下では、学科配属の決定に成績が加味されたことから、学生の学習モチベーションは入学後も維持されていたように思います。現6年生が平成30年度入学で、新システムの一期生であり、今年度の薬剤師国家試験の結果がひとつの指標になると考えられます。ただし、皆様ご承知の通り、令和2年からの新型コロナウイルス感染症の蔓延により、大学教育も大きな影響を受けました。そのため、入試制度変更による影響の適切な評価には、もうしばらく時間が必要かもしれません。一方、メリットとしては、特に、薬科学科学生の高い研究マインドの涵養が挙げられます。研究室配属を3年次後期からと早め、2年次に「ラボ訪問」の時間を設けて研究室での最先端研究に触れさせるなど、種々の方策を実施しています。学生の研究への取り組み姿勢も明らかに向上していると感じています。今後、博士課程に進学する学生が増え、本学薬学部の研究レベルがより一層高まることを期待しています。

コロナ禍がもたらした大きな変革として、大学でもＩＣＴの普及が挙げられるでしょう。コロナ禍当初、講義や実習をオンラインで実施する必要に迫られたことから、多くの教員がＩＣＴの基本的な操作スキルを身につけました。中には、高度なＩＣＴ機器を使いこなして、講義や実習に活かしている教員もいます。今では、講義や実習のほとんどは対面に戻っていますが、学内外の多くの会議では、引き続きオンライン会議が利用されています。会議出席に要する時間の短縮や出張の回避等により、教員の負担軽減に繋がっているようにも思います。急速に発展しているＩＣＴに乗り遅れることなく、さらに有効活用していければと考えております。

薬学部長に就任してから、この原稿を執筆している時点で5ヶ月が経過しました。予想以上の学部長の業務量の多さに、正直、面食らっています。今は単に業務をこなすだけになっていますが、要領を早く掴み、本学薬学部のさらなる発展に向けたプラスアルファを少しでも積み上げられるよう、精進して参ります。静薬学友会会員の皆様におかれましては、今後ともご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

瑞宝中綬章の受章にあたり

静薬学友会への感謝と更なる発展に期待

静岡県立大学名誉教授　元静岡県立大学学長　木　苗　直　秀
（昭和40年卒）

学友会の皆様方におかれましては健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。

私は静岡薬科大学の9回生で学友会には長い間お世話になっております。

この度、令和5年春の瑞宝中綬章を拝受致しました。コロナ禍のためしばらく式典が中断されていましたが、3年半ぶりに東京で執り行われ、国立劇場の伝達式と皇居での拝謁式に出席することが出来ました。当日は、晴天に恵まれ、清々しい気持ちで式に臨むことが出来、心に残る1日となりました。

この様なご褒美を頂戴できたのはご指導を賜りました先生方、先輩を始め皆様方のお陰と心より感謝致しております。

ここで、足跡を振り返ってみたいと思います。私は5人兄弟の次男として沼津市に生を受け、経済的な理由もあり大学は自宅から通える所と定め、静岡市小鹿にあった静岡薬科大学に入学しました。単科大学で1学年が80人という小さな大学でしたが、その分家庭的な特色のある学部で、学生も少数精鋭と申しましょうか、個性的な人が多かったように思います。今でも同期生とは交流が続いております。4年時は衛生化学教室に所属し、今は亡き小澤樹夫先生や長岡達先生に厳しくも愛情のある御指導を頂きました。主たる研究テーマは「食品及び生体内におけるアミノ・カルボニル反応」（Maillard反応）でした。最終便で帰宅する毎日で、研究室が生活の場とも言えましたが、今思えば楽しく充実した日々でした。博士課程を終了後、教員として、衛生化学、裁判化学、農薬学等の講義と実習を担当しました。授業初めに、各自が新聞の科学ニュースを紹介して意見交換する等、解りやすく活気ある授業を心掛けました。

昭和62年に静岡県立3大学（薬科大学、女子大学、女子短期大学）が統合され静岡県立大学が創設されました。私は食品栄養科学部の助教授に着任し、研究室の発展を目指して教育、研究に精を出しました。幸い、1期生が好奇心豊かな学生であったので、熱気に満ちた楽しい研究室が誕生したと感じておりました。大学教員は、研究は勿論ですが、個々の学生と真剣に向き合い、成長を手助けする極めて重要な仕事であり、彼等から教えて貰うことも多いと思っております。

平成21年から6年間は静岡県立大学学長の職を拝命され、大学の発展を思い、私が在籍していた薬学部と食品栄養科学部の連携のもと「薬食融合」と銘打ち、共同研究や発表を行いました。多くの先生方のお力添えを頂けたからこそ成果を導き出せたものと深く感謝しております。私の学長時代に理事長として本庶佑先生が就任され、京都と静岡を行き来しながら情熱的に研究に向き合う姿勢に感銘を受けました。その後、先生がノーベル賞を受賞なされた事は皆様ご存じの通りです。

コロナ騒動で経験したように今後、益々グローバル化が進み、未知の疫病が増え、薬学への期待が高まるものと考えられます。視野を広げ、学部更に大学間の垣根を越えての研究が必要になるものと思っております。

学長退官後は、川勝県知事のご推薦により静岡県の教育委員会委員長を拝命され、7年間職務に邁進しました。同じ教育畑ではありますが大学と義務教育、高校教育では、異なる事も多く、戸惑うことが多々ありましたが、ここでも教育委員会の皆様と話し合い、協力し合って生徒諸君のより良い教育の為に、努力したつもりです。現場主義を大切にし、各学校に足を運び生徒たちと意見交換する中で若者たちの力を感じ、明るい未来を確信いたしました。

振り返ってみますと、どのステージでも周りの皆様に支えられ、教育や研究を進める事が出来たのは本当にありがたい事だと感謝の気持ちで一杯です。

現在、静岡県立大学の名誉顧問という立場におりますので、微力ではありますが健康に留意しつつ、皆様方に恩返しをしたいと考えております。

まだ、十分に言い尽くせない部分もありますが皆様への感謝の気持ちをお伝えしたいと思い寄稿させて頂きました。

結びに、皆様に改めて心よりのお礼と共に静薬学友会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

特集

4年制薬科学科と6年制薬学科・卒業生の活躍～在学生へのメッセージ

歴史ある静岡県立大学薬学部での経験を基盤として

和歌山県立医科大学薬学部　薬剤学研究室　講師　福田達也
（平成25年卒）

私は、平成25年に本学薬学科（6年制）を卒業、平成29年に本学大学院薬学研究院博士課程（4年制）を修了し、博士（薬学）の学位を取得しました。奥　直人先生が主宰されていた医薬生命化学教室（医薬）に、学部・大学院と合わせて7年間在籍しておりました。学位取得後、徳島大学薬学部助教（4年間）を経て、令和3年4月より、新設の和歌山県立医科大学薬学部（和医大薬）に薬剤学研究室講師として在籍しております。この間、令和4年9月から1年間、ハーバード大学工学応用科学科に海外留学をしておりました。

初めに、この度は静薬学友会報への寄稿の機会を賜り、関係者の皆様方に御礼申し上げます。私は6年制薬学教育がスタートしてからの第2期生となります。本稿が在学生の皆さんの学生生活の何かのご参考になれば大変嬉しく思います。

本寄稿のご連絡を頂いた際に、「自分はなぜ6年制薬学科を選択したか？」と改めて考えましたが、恥ずかしながら特別な理由はなく、研究室生活を送りながら薬学研究者または薬剤師のどちらとして働くかを選択できる6年制に進もう、という理由でした。その他にも様々な進路が広がる薬学部生にとって、将来の職種に関する悩みは、多くの皆さんが抱くものだと思います。私は、学部2年時に祖母が抗がん剤治療の副作用に苦しんだ姿を目にし、その後亡くなったことを契機として、生体内での薬の体内動態を制御するDrug Delivery System（ＤＤＳ）の概念に興味を持ち始めたこと等を理由に、医薬を希望しました。実際に従事した研究は抗がん剤に関するものではなく、「日本で（当時）この研究をやっているのは医薬しかない」という浅井知浩先生（現教授）のお言葉に惹かれ、脳梗塞治療を目指したＤＤＳの研究を選択しました。先輩・同期・後輩に恵まれ、日夜問わず研究に勤しむことが楽しく、研究室での時間はあっという間に過ぎました。その中で、6年制の最大のイベントとして病院薬局実務実習があり、薬学卒業生が関連する多くの職種を見て学ぶ機会がありました。私は、5年生までの研究室生活と実務実習を経て、「もう少し研究を極めてみたい」と思えたこと、また「人より長い時間、学校で自主的に学ぶことは誰もができることではなく、人生の財産になる」というお言葉をとある恩師に頂き、博士課程への進学を決めました。博士課程では、自身の研究以外にも学部生の指導等、多くの経験をさせて頂き、その中で後輩が成長し研究室を巣立っていく姿を見て楽しい、と感じることがありました。大学院修了後は、研究室の先輩に尊敬の念を抱き、研究を含め色々挑戦したいという思いから海外留学の道を始めは考えていましたが、博士課程での経験から大学教員という選択肢も頭をよぎりました。その後、突然のご縁からアカデミアの道に進むことになり、さらなるご縁とタイミングから、和医大薬への異動、ハーバード大学での留学の機会を得て、現在に至っております。振り返ると、新しいことを学ぶことや研究が楽しい、というきっかけを本学で得られたことが今の自分を築いていると思います。また、本学で得た経験や教育に関する考え方、研究スキルは国内ではもちろん海外でも通用する、ということを実感しており、本学での学びが私の薬学教員・研究者としての基盤となっており、ご指導頂いた先生方には感謝の念に堪えません。

私が6年制薬学科を経て現在に至るまでの経緯を紹介しましたが、本稿をもとに在学生へ残せるメッセージとしては、「仲間と切磋琢磨して得た経験は卒業後必ずどこかで活きる財産になる」、「経験を得るためにがむしゃらにトライする」、の2点です。科学が関係ない根性論のようなメッセージで大変恐縮ではございますが、ぜひ本学において様々なことに挑戦し、色々なことを吸収しながらエンジョイして頂ければと思います。

最後になりますが、現所属の和医大薬は、本学と同様に公立大学の薬学部であり、ご縁を感じております。歴史ある本学の先生方やＯＢ／ＯＧの皆様方からのご指導をもとに、新設薬学部の発展のために尽力する所存です。静薬学友会の皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

「チーム医療」への貢献とは？

静岡県立総合病院　薬剤部　須山　由佳子（平成24年卒）

私は、現在急性期の病院で病院薬剤師として働いております。大学を卒業後、現職に就きました。その後、感染制御認定薬剤師、抗菌化学療法認定薬剤師を取得し、感染制御チーム、抗菌薬適正使用支援チーム、集中治療室の病棟薬剤師等チーム医療の一員として活動しています。

近年、COVID－19の世界的パンデミックにより、未知の感染症から既知のものへの変遷を間近で感じることができました。特に、感染対策、ワクチン接種、新薬導入等、厚生労働省、保健所、製薬会社、医療機関が一丸となってウイルスに立ち向かっていく一部を担えたこと、また、病院内では職種を超えた協力体制が非常に大切となり、困難も多くありましたが、チーム医療の一員となれたことは大変貴重な体験となりました。

チーム医療は、10年前に比べるとかなり浸透し聞きなじみの言葉となっています。しかし、実際に何をしたら「チーム医療」なのかは不透明で、明確なものはありません。先日、職場の本棚を整頓していたところ、現在の職場に入職したばかりの時に書いた「5年後どのような薬剤師になっていたいか」という目標シートが出てきました。そこには、「他職種と適切な意見交換ができチーム医療に貢献できる薬剤師」と記載してありました。果たして、どのように行動したら「チーム医療」に貢献できたと言えるのでしょうか。

実際にあった例で考えてみると、大腿の筋肉痛を訴える入院患者さんがいました。心不全で入院中のため、強度なリハビリをしているわけではありません。医師は、対症療法として湿布剤を処方しました。しかし、筋肉痛の症状が一向によくならず痛みは増す一方です。そこで、看護師とリハビリスタッフからおすすめの鎮痛薬はあるかと相談を受けました。この時、患者さんに処方されている薬剤を見直すとカテーテル関連血流感染でダプトマイシンを使用しており、さらに持参薬でスタチン系の薬剤を内服していました。私は、ダプトマイシンとスタチン系の併用による筋障害の可能性を考え、医師へクレアチニンキナーゼの測定を提案しました。クレアチニンキナーゼが上昇していることを確認し、ダプトマイシンを他剤へ変更、スタチン系は中止となり、患者さんの筋肉痛の症状は改善しました。

このように、薬剤の副作用、相互作用、薬物動態等、薬剤師ならではの視点を大切に他職種と意見交換を行うことは非常に重要な薬剤師の役割となります。さらに、チーム医療の一員を担うために大切なことは、様々な職種と顔を合わせて気軽にコミュニケーションをとることに尽きると考えています。急性期病院で働いていると、薬剤師は大人しい・引っ込み思案な職種だと他職種に言われることが多いのですが、医師、看護師など他職種とは違う目線で患者さんのことを「診る」ことができます。他職種との気軽なコミュニケーションから生まれた提案で患者さんの症状改善に繋がることが「チーム医療」への貢献だと考えています。

静岡県立大学薬学部で学んだ、自分で課題を見つけて解決への道筋をたてる力は、どの道に進んだとしても、必ず役に立つと思います。また、日々の研究やサークル活動、薬学部や他学部の友人とのコミュニケーションは社会人になった時の糧となります。ぜひ、静岡県立大学薬学部で、少しでもやりたいと思ったことに挑戦し、全力投球の毎日を送ってください。

知っているようで実は知らない〝薬剤師の仕事〟

静岡県環境衛生科学研究所　医薬食品部　内田貴啓（平成25年卒）

私は大学卒業後、行政薬剤師として静岡県へ入庁しました。「行政薬剤師」と聞いても、どのような仕事を行っているのか知らない方も多いかもしれません。今回、学生へのメッセージとのことですが、私の入庁後の経歴から、静岡県の行政薬剤師の仕事についてご紹介することで、皆さんの将来の参考になればと思います。

入庁してから最初の2年間は下田市にある賀茂健康福祉センターでの勤務でした。主に担当したのは浄化槽使用者に対する適切な維持管理の指導、水道事業者の監視指導、海水浴場の水質調査、PCB廃棄物の適正な保管・処理の指導といったところです。〝薬剤師の仕事〟という一般的なイメージからはだいぶかけ離れているかもしれませんが、これが行政薬剤師（特に静岡県）の特徴なのだと思います。

2か所目は県庁廃棄物リサイクル課に勤務しました。ここでの主な担当は一般廃棄物処理施設の許認可業務でした。廃棄物処理施設には、焼却施設や処分場だけでなく、木くずの裁断施設、食品トレイや紙くずを圧縮する施設など様々なものが含まれます。施設の設計図などから処理能力を確認するところから始まり、最後は出来上がった処理施設が図面通りになっているか確認するところまで、とても長期に亘る業務です。

3か所目は県庁危機政策課で、主に国民保護（ミサイルやテロなどに対する対応）に関する情報伝達（Jアラートなど）や、鳥インフルエンザ発生に備えた体制整備を担当しました。いずれも何かが起こったときに混乱なく対策が取れるよう備えるものですが、この頃から北朝鮮によるミサイル発射が頻繁になったことで、テレビでもJアラートが取り上げられるようになったり、全国各地の養鶏場で鳥インフルエンザが発生したりといった状況だったため、社会的にも重要な業務であったと思います。

4か所目は県庁薬事課で医薬品や医療機器の製造販売業・製造業等の許認可、薬機法に関わる広告監視を主に担当しました。製造販売業者や製造業者に対する監視指導は保健所が行うのですが、保健所間での指導内容に差が生じないようにバランスをとったり、指導に対する是正内容が適切か確認したり、現場をイメージしながら業務を行いました。薬機法はこれまで私が扱ってきた法令の中で最も複雑な構成になっていて、法令以外にも重要な通知文書が多数あることから、個人的には最も難しいジャンルだと感じましたが、1つ1つ法令等と照らし合わせながら課題に対する解決策を考えました。

そして現在、環境衛生科学研究所で医薬品等の試験検査を担当しています。検査の結果が保健所による指導や行政処分につながるものなので、細かな点まで気が抜けない業務です。静岡県の医薬品・医療機器の合計生産金額は全国2位（令和3年）であるように、県内では多くの医薬品等が生産されています。これらの品質を確保していくことは、日本の医療を支えていくことに繋がると考えています。

長々と経歴を記載してきましたが、異動する度に業務内容が変わり、〝プチ転職〟をしているような感じです。異動の度に覚えなければならないことが出てくるため、大変な一面もありますが、知識や経験を得ることの喜びも感じられると思います。

薬学で培う「科学的に考える力」は様々な分野で必要とされており、行政薬剤師に限らず〝薬剤師の仕事〟とは皆さんが考えている以上に幅広いのだと思います。薬学の世界に飛び込んできた皆さんには、多かれ少なかれ「知りたい！」という探求心があるのではないでしょうか？将来の姿を考える際も、その探求心を大切に、早い段階から選択肢を狭めず、ぜひ広い視点で様々な〝薬剤師の仕事〟に接してみてください。

私が現在勤務する静岡県環境衛生科学研究所
令和2年7月に静岡市葵区北安東から藤枝市谷稲葉へ移転しました

変化が激しい調剤薬局業界で生き残る薬剤師になるために

株式会社杏林堂薬局　調剤営業本部薬局運営部　浜松北地区調剤エリア長
松尾　宗一郎
（平成26年卒）

私は、在学中は生命物理化学研究室に所属し藤井教授と橋本教授の御二人にお世話になり、２０１４年に薬学部６年制を卒業しました。卒業後は、静岡県内でドミナント展開している株式会社杏林堂薬局に入社し、今年で就職して10年目となります。

入社後は勤務薬剤師、管理薬剤師、敷地内薬局運営担当部長といった役職を経て、現在はエリア長という役割を担い、浜松市14店舗のエリア単位での運営を担当しております。

現在の役職では現場から離れ、マネジメントに重きを置いた仕事をしており、ドラッグストアの調剤薬局で働いているからこそできることは何か、患者のメリットになる事は何かを考え、その強みを生かした価値を患者へ提供できるように担当エリアの業務改善について日々取り組んでいます。

エリア単位の店舗運営以外にも、杏林堂薬局全店の対人業務担当として、かかりつけ業務、服薬後フォローアップ、医療機関への情報提供、慢性疾患の治療継続をはじめとした薬剤師の対人業務に係る様々な業務の推進も担当し、薬剤師の職能の発揮について様々な全店施策を行い全社的な数値改善にも努めています。

話は少し変わりますが、私自身が考える、『自分の強み』は、薬剤師としての能力だけではなく、情報技術に関する能力が「薬剤師業界」の中では、やや高い部分ではないかと思っています。この技能のおかげで、現状を定量的に的確に素早く捉えることができ、その分析の結果から様々な施策の立案につなげることができてきた（勿論不発に終わった施策も多くありますが）ので、現在のキャリアにつながっているのではないかと思っています。

６年制の皆様は、薬剤師免許を取得し、その免許を活かせる『病院』『調剤薬局』『ドラッグストア調剤』など、薬剤師免許を持っている人が大多数の職場に就職される方は多くいるかと思います。

その中で、薬学的知識は前提として何かそれとは別の武器があると、社会的にも自身の希少価値を高めることができると私自身働いて肌で感じております。

例えば、『プログラミングが出来る』という技能について、プログラマー本職の業界で考えればお金になるレベルでなくても、薬剤師業界で業務に活かせるレベルの技能さえあれば、『薬剤師免許』×『プログラミング』という掛け算で希少価値はとても高まります。『薬剤師免許』×『何か』という視点で、学生時代から薬学だけでなく、様々なことに取り組むことは、未来に何か役に立つことがある可能性が高いです。その『何か』が、何がいいのかはあまり打算的に考えず、自身の興味で色々と幅を広げていけばいいのではないかと思います。

振り返ってみると、私が就職してからのこの10年でも調剤薬局業界には色々と変化が起きております。ＡＩの発展により薬剤師不要論も巷では出てきている中、今後もその業界変化の波は激しさを増していくことが予想されます。

薬剤師としての素養も高くあり、尚且つ、それに自分の『強み』を複数掛け算ができる、希少性が高い薬剤師になることができれば、今後どのような変化が起きても生き残れる薬剤師となれるのではないでしょうか。

好奇心を大切に

PMDA　医療機器審査第二部　審査専門員　清川千秋（平成29年卒）

高校生の時、私は薬剤師を志し、静岡県立大学薬学部薬学科に進学しました。しかし、いざ卒業後の進路を考えたとき、薬剤師としての自分を疑問視する瞬間がありました。そのきっかけは、病院・薬局研修の中で、私が手渡すこの薬がどのような審査を受けて患者さんのもとに届くのか、好奇心を抱いたことでした。その時から新たなキャリアの選択肢を模索し始めた結果、私はPMDAでの勤務を決断しました。今では、この選択が間違っていなかったことを確信しています。

授業で聞いたことがあるかもしれませんが、PMDAは医薬品や医療機器等の健康被害救済、承認審査、安全対策の3つの役割を一体として行う日本の薬事規制当局です。レギュラトリーサイエンスに基づき、より安全でより品質のよい製品をより早く医療現場に届け、医療水準の向上に貢献しています。

PMDAに入職後、私はまずジェネリック医薬品の審査部に配属されました。当初の希望どおり、薬がどのような評価や審査を経て世の中に出るのかを学ぶことができました。一方、業務を続ける中で、薬では対処しきれない領域を治療できる医療機器に好奇心を刺激され、約2年ジェネリック医薬品の審査に携わった後、医療機器の審査部に異動しました。

現在私が所属するチームでは、末梢領域の血管内治療から呼吸器、精神神経系など、幅広い領域に使用する医療機器の審査を担当しています。医療機器の審査において、まずは製品を正しく理解することが重要です。そのために、対象疾患、既存治療と課題、その製品による治療が革新的又は類似機器が存在するか等を把握します。そして、製品を理解した上で、有効性と安全性を確保するために要求される性能を考え、必要な評価が実施されているか、申請者の説明と試験レポートを確認しながら審査を行います。

配属された当初は製品を理解するのも一苦労でしたが、大学の研究活動でなかなか結果が出せなかった経験をばねに鍛えられた不屈の精神により、周辺知識を獲得することで壁を乗り越えることができました。審査の中で確認する試験レポートは、引張強度といった物理的評価から動物を用いた安全性評価など様々ですが、大学で身に着けた科学的な基礎知識と分析能力が確実に役立っています。また、最近は薬剤コーティングバルーンといった医薬品とのコンビネーション製品も開発され、薬学部出身者が活躍できる場面が増えています。

この仕事のやりがいは、私達の判断によって新しい医療を患者さんに提供し、社会に貢献できることです。特に新しい医療を世の中に出すにあたっては、使用者である医師、開発者である企業、そしてPMDAが連携する必要があります。審査は大変なことも多いですが、異なる組織とのコミュニケーションは非常に刺激的で、最終的に製品が患者さんのもとに届いた時には大きな達成感を感じます。

私が今自分の好奇心に従って後悔のない選択ができているのは、大学で全力で学んだおかげだと考えています。薬学部の学業は確かに多忙で、必修科目も山ほどありますが、これらの経験は将来において必ず役立つと思います。だからこそ、目の前の課題には全力で取り組むことをお勧めします。そして、皆さんも自身の好奇心を大切にし、未来の選択肢を探求してみてはいかがでしょうか。

最後に、PMDAでの業務は患者さんに製品を届ける前の最後の砦でもあり、常に緊張感や判断に対する責任が伴いますが、PMDAからしか見えない景色があります。私達は新しい仲間を歓迎しますので、少しでも業務に興味をもってくださった方は、お気軽にお問合せいただけると幸いです。

人の歩みと共に社会に根付いた薬の存在

科研製薬株式会社　新薬創生センター　薬理部　研究主査　稗田　蛍火舞
（平成28年卒）

深遠な森と澄んだ天空を仰ぎ、県大で学べたことは幸せだったと今でも感じています。

私は3年時に森本達也教授の分子病態学研究室に入り、柑橘類に含まれるノビレチンという天然化合物の心臓への作用について研究しました。その中で、京都医療センターとの共同研究、オーストラリアでの学会発表、総説の投稿など貴重な経験をさせてもらいました。6年制薬学科に在籍しながら製薬会社の研究職を希望した私を多岐にわたり御指導くださった先生方のご厚情に感謝しております。

企業に就職後は主に感染症研究に従事しています。感染症創薬の難易度が高い要因の一つは、ヒトには作用せず菌に対してだけ選択的に毒性を示す化合物を作る必要があるという点です。化合物ライブラリーのスクリーニングから、菌の発育を阻害する化合物を見つけ出しても、それらはヒト細胞にも同様の毒性を示すことがほとんどです。この打開策として、例えば、ヒトには存在しない菌の細胞壁を標的とすることや、菌とヒトに共通して存在する代謝経路・酵素を標的とする場合であっても、結晶構造解析を用いて菌に高い選択性を示す化合物をデザインする手法が挙げられます。しかし、新薬開発の成功率は約2万5千化合物分の1であり、新薬の誕生には10年以上の歳月がかかります。この難事業に、様々な分野の専門家が集まり創薬プロジェクトチームを結成しています。創薬初期のスクリーニングにおいては、化合物を作る合成部門、活性を評価する薬理部門、薬物動態評価部門が主に関与します。開発候補化合物が選定されると安全性・分析・製剤・原薬製造などの部門も加わり、臨床試験を始める準備を進めることになります。

創薬研究を開始する標的分子の探索は、アカデミアの基礎研究が基盤となることも多く、みなさんが手掛ける基礎研究から治療薬の芽生えが生まれます。基礎研究は、成果が上がるかわからない研究を粘り強く続けていく中でしか道は開けません。誰もが持っている潜在能力を引き出すには、基礎研究と同様、うまくいくか分からないことに挑戦することです。みなさんが持っている秘めた可能性を社会は待ち望んでいます。

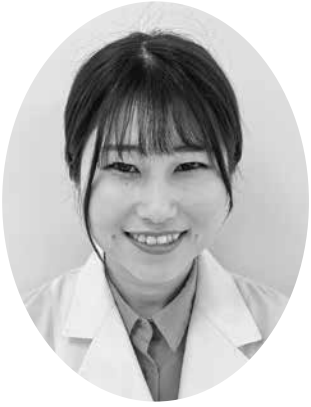
普段飲んでいる薬の恩恵を考えたことがありますか？例えば、普通の風邪であれば薬を服用しなくても、休養を取って安静にしていれば一週間前後で治りますが、薬を飲めば早ければ1日2日で症状は治まります。発症から日常生活に復帰するまでの時間を薬が短縮してくれます。わずか数日ですが、その時間の蓄積は生涯の単位で考えれば相当な時間の節約になります。

時間を生み出す薬にはもう一つ恩恵があります。病気になり、免疫による自然治癒を待とうとすれば、仕事や学業だけでなく趣味やスポーツも我慢を強いられ、自分が輝ける活動の場から遠ざかり、大切にしている日常生活が失われる期間が長くなります。症状が出るとすぐ薬を飲むのは、日々の生活の質を下げたくない切実な気持ちに薬が応えてくれるからです。

時間に追われる競争社会にあって、個のスキルと社会の成長に時間を集中させ、豊かな生活を求めてきた人々を支えたのが『くすり』という薬学の成果の結晶でした。薬は、人の歩みと密接につながりながら社会に根付いてきました。

グローバル化が加速する一方、温暖化による気候変動がもたらす未曽有の災害、ウクライナ戦争によるエネルギーや食糧の争奪戦、ウイルス蔓延による地球的危機と一人では立ち向かうことが困難な時代を私たちは生きています。『くすり』が世界の平和と人々の安心に寄与することを祈ります。

今後一層、薬学が私たちの生活を支え豊かにする存在になっていくことを、これからの薬学を牽引していく県大の若いみなさんに期待しています。



密度の高い学生生活を

大覚寺薬局薬剤師　鵜飼理絵（平成31年卒）

今回若輩者の私に他人に何かを伝えるという恐れ多い依頼がありましたので、大学時代のことを改めて思い返してみました。学生生活を通して私は大きな成果をあげたり、優秀な成績を修めたりなどということはなく、たくさんの仲間たちとただただ明るく元気に楽しい日々を過ごしたと思います。元々好奇心旺盛で人に対して苦手意識がなく、いろいろな輪やグループに入っていける性格だったため、年齢、性別、学部、場所問わず、多くの人と関わっていました。無我夢中で遊びすぎてしまい、親から勉強を疎かにするなと大学へ退学届を出されたほどです。その後は人に心配をかけないよう遊びましたが、この多くの人と関わった経験が、現在の様々な価値観や考え方を持った方との交流に生かされています。

現在はスタッフ10名ほどの調剤薬局で店長として勤務しています。その中でも特に頑張っていることは終末期の在宅医療です。終末期在宅医療では、病院から緩和医療を目的とした患者が退院され、最期をご自宅で迎えます。病院から自宅へ戻った際に、本人や家族が安心して過ごせるよう薬学的観点から携わらせていただいています。実際の業務としては、退院時カンファレンスに参加し、退院後の計画について医師、看護師、ケアマネジャー、福祉用具スタッフ等で検討します。退院後はご自宅に伺い、患者の状態、薬の服用状況、残薬等を確認し、適宜、他の医療スタッフに情報提供を行います。終末期在宅医療では刻一刻と状況が変化するため、迅速な情報共有、判断が必要となってきます。迅速に連携していくために日頃から他の職種の方と積極的にコミュニケーションを取り、信頼関係を構築しておくことが大切です。患者の健康を第一に考え、チーム医療のスタッフがそれぞれの職能を活かし、連携しています。大学の講義で学んだ「チーム医療」が実際に現場で行われていることを体感しています。

コミュニケーションの観点では、医療スタッフだけでなく、患者や家族とどう接していくかも非常に重要であります。在宅業務は生活の場にお邪魔するのに加え、特に終末期では最期を迎えるまでの貴重な時間を頂戴する形となり、患者や家族は精神的に張り詰めた状態であることが多いです。また最期をどう過ごしたいかは患者によってさまざまです。そのため、薬剤師としての薬の管理等の業務はもちろん、患者にとって大切なこと、好きなことは何かを把握することも意識しています。小さなことですが、一つ終末期在宅の方のお話をさせていただきます。最初にお宅に訪問した際は全く口を聞いていただけず、家族も塞ぎ込んだ本人の様子を見て、悲しんでいるようでした。何度か訪問している中で何時に伺ってもテレビでプロ野球の中継を見ていることに気づきました。そこで私も野球が好きだったこともあり、「野球お好きなんですか。」と聞いたところ、「好きだよ。」とお答えいただき、その後野球のお話で盛り上がり、初めて笑顔を見せていただきました。野球の話をきっかけに、薬に関する相談もしてくれるようになりました。また、久々に嬉しそうにしている本人の様子を見て、家族がとても喜んでくれました。

薬剤師としてできることは何かと考えた結果、患者が少しでも明るく幸せな最期を迎えられるよう、1人の人間として寄り添えたらと思い行動していますが、自己満足なのかもしれません。それでも患者や家族に感謝されると、考えて行動して良かったと心から思います。学生の時の役に立つかわからないその小さな経験も、今後関わる方の大きな支えになるかもしれません。

薬剤師という仕事は専門職であり、薬剤師としての知識は言わずもがなで必要ですが、人と人との付き合いである以上、人としての魅力が重要になってくると思います。私も日々勉強中でありますが、それは様々なことに挑戦し、多くの人と関わることで養われていくものではないかと思います。学生の特徴として、長期休暇などまとまった時間を含め自由な時間があり、また一人の成人として大きな縛りがなく行動できると思います。人に迷惑をかけない程度に多くのことに挑戦し、可能性や視野を狭めず、無我夢中で6年間を駆け抜けていただきたいと思います。

地区同窓会だより

関東地区

地区同窓会の活動について議論

代議員・地区同窓会代表　本島玲子（昭和58年卒）

関東地区では今年2月、久々に対面での幹事会を開催。リモートを含めて18名中12名が参加し、今後の活動に関する議論を行いました。幹事は30代1名、50代と60代が各5名、70代が7名。ほぼ同じメンバーで、2年に一度の対面行事（総会、講演会、懇親会の同時開催）と薬学系就職説明会のお手伝いを中心に活動してきました。

当地区では、コロナ禍前から幹事を含め、より若手の参加促進を課題としてきました。とはいえ、50代までの現役世代が地区活動を担うことは現実的ではありません。一方で、60代以降は自身や家族の健康問題が生じやすい年代でもあり、頭を抱えています。

幹事会での議論の焦点は、「従来型の活動を今後も継続する意味があるのか」「本部と地区の活動をどう整理するか」の2点。特に講演・セミナーについてはオンライン形式が主流になってきた現在、参加動機にはなりにくいとの意見が大勢を占めました。

当地区は製薬企業の本社と本社勤務者が多いという特色があるので、「学生や若手の同窓生に具体的・実務的なサポートをしてあげたいという気持ちはある。それが実現できていないので同窓生がメリットを感じていないのでは」との反省も聞かれました。

本部との役割分担については、「学生の就活・キャリア支援は本部（と大学）／セカンドキャリア支援は地区」「講演会主催は本部／手伝いは地区」などの例が挙げられました。

「いっそ独自の地区活動は返上して本部の手伝いに徹しては」との声もありましたが、「同窓会活動を負担とばかり考えず、同窓生との情報交換等の機会を得る権利と捉え、まずはネットワーキングを通じて互いにちょっと得をした感覚を持てる機会づくりを目指してみては」との意見も出され、地区会活動の維持をいきなり断念するのではなく、継続可能な方法を考えていくことで概ね同意を得ました。

具体的には、2024年3月の日本薬学会学術総会（横浜）と時期を合わせて薬学会に参加されている現役教員や旧教員、あるいは関東在住の退職された先生方にも広く参加をお願いし、恩師や研究室の仲間と旧交を温めるとともに、新たな出会いの場ともなるよう準備を進めています。観光・商業施設に近い会場を準備中ですので、皆さま奮ってご参加ください。

30代の幹事からは「子育て中だと子ども同伴か託児可能なイベントでないと参加しにくい」「子育てと仕事の両立について先輩と話せるなら参加動機になるかも」との意見がありました。このアイディアについては具体化を図ってみたいと思います。協力可能な方がいらっしゃいましたら、次の宛先にぜひご連絡ください。

kantouchiku@mbr.nifty.com

地区のイベントについては学友会のホームページを通じてお知らせしてまいりますので、ときどき覗いていただければ幸いです。

☆関東地区同窓会主催「懇親とネットワーキングの集い」のお知らせをP57に掲載しています。

東海地区

代議員・地区同窓会代表　星野有吾（平成13年卒）

静薬学友会員の皆様におかれましては、コロナの影響で様々にご苦労・ご活躍のことと思います。自身の環境がこの1年激変したこともあり、色々と雑務に追われている毎日でした。この1年で学術大会、研修会などオンライン開催から、ハイブリッド開催そして、現地開催という動きもあり、東海地区同窓会総会、薬剤師セミナーの開催について考えさせられることが増えてきました。忙しい毎日の中でオンデマンド配信、ハイブリッドの良さを実感しながらも、増えてきた現地開催の報告を眺めていたのも事実です。来年こそは是非、開催できるように計画していきたいと思いますので、ご参集いただきますようにお願い申し上げます。

実際にお会いする事で感じられる空気感は何事にもかえがたいと思います。地区同窓会の繋がりの維持拡大、その意思を次世代に更に引き継いでいくという大きな課題に立ち向かうためにも今後ともご協力をお願いいたします。日々の活動で感染に関する不安は引き続きあるとは思いますが、くれぐれもご自愛専一にてお過ごしくださいませ。

関西地区

代議員・地区同窓会代表　松田通明（平成2年卒）

静薬学友会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素は地区運営にご理解・ご協力頂き、ありがとうございます。

当地区の活動として、令和5年6月4日（日）に、現体制となって初めてとなる関西地区同窓会総会を開催いたしました。当初は、学友会のＺｏｏｍを利用したＷｅｂ形式による総会を予定していました。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染症分類が5類感染症に引き下げられたことから、一部の会員様にはＺｏｏｍ配信のために事務局が借りた神戸市の貸会議室でもご参加頂けることになり、Ｗｅｂとのハイブリッド形式での開催となりました。総会では、安倍道治会長（一般社団法人静薬学友会会長・昭和46年卒）にも参加頂き、静薬学友会の近況についてのお話を頂きました。また、講演会として、澤下仁子さん（平成4年卒）より「保健機能食品の世界　～元気な毎日を過ごすために保健機能食品がお手伝いできること～」との演題で、保健機能食品（特定保健用食品（トクホ）や機能性表示食品）の定義や期待される機能に関するご講演を頂きました。私たちの身近にある保健機能食品の現状と私たちの健康に対して期待されることに、興味深く拝聴させて頂きました。また、懇親企画として、会員間での近況報告や意見交換を行いました。総会への参加者は、安倍学友会会長含め10名強と、決して多くはありませんでしたが、今回参加できなかった会員の方からもメッセージを頂け、また皆さんの笑顔に会え、有意義な時を過ごすことができました。

これからも地区会員の皆様とのつながりの輪を広げていきたいと考えております。皆様のお声や連絡先情報など、以下の連絡先にお寄せいただければ幸甚です。

連絡先：松田通明
E-mail：shizuyaku.kansai@gmail.com
（注：shizuyakuとkansaiの間に.（ピリオド）が入っています）

関西地区同窓会総会　2023年6月4日

令和４年度薬学生涯研修講座報告

近年の感染症の実態と、その予防および治療の課題
－薬学が果たす役割－

令和４年度薬学生涯研修講座が令和５年２月19日（日）静岡県立大学小講堂にて行われました。今回は会場で行われた講演を同時にオンラインで配信するハイブリッド形式とし、会場参加／オンライン参加合わせて200名の方に聴講頂きました。

（日本薬剤師研修センター研修認定　２単位）

基調講演　「感染性ウイルスの動向とワクチンと治療薬開発の実態
－新型コロナウイルスを中心に－」
静岡県立大学客員教授　鈴木　隆（Ｓ54卒）

一般講演

「新型コロナウイルスに対応する薬剤師、臨床検査技師の役割」
行政／静岡県健康福祉部感染症対策局新型コロナ対策推進課機動第３班　専門主査　鈴木孝典
臨床検査／修文大学医療科学部教授　涌澤伸哉（Ｓ51卒）
病院薬剤部／静岡県立総合病院薬剤部　須山由佳子（Ｈ24卒）
保険薬局／焼津市薬剤師会理事・わかくさ薬局大富店
管理薬剤師　渡邉啓子（Ｈ７卒）

主催／一般社団法人静薬学友会・静岡県立大学薬学部

中国地区

代議員・地区同窓会代表　池田　潔
（昭和54年卒）

静薬学友会会員の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素、地区同窓会の運営にご協力頂き心より感謝申し上げます。

中国地区同窓会総会を令和5年11月12日（日）、広島ガーデンパレスで3年ぶりに対面で開催します。総会では、安倍道治会長（一般社団法人静薬学友会会長）（昭和46年卒）による「静薬学友会の活動」、山田静雄先生（静岡県立大学薬学研究院付属薬食研修推進センター長／特任教授）（昭和46年卒）による「静岡県立大学の近況」、「中国地区の活動」の紹介を行います。講演会は次の2演題を予定しています。

1. 「統合医療と機能性食品」山田静雄先生（静岡県立大学薬学研究院付属薬食研究推進センター長／特任教授）（昭和46年卒）
2. 「1時間でわかる漢方ー天気病は漢方で素人でも治せるんだ！知らなかった」（家族親戚に、友人に、薬局で、病院で使える知識）中島正光先生（広島国際大学薬学部教授）

前回（令和3年11月）の地区同窓会はZoom開催でした。会員の生活スタイルに合わせて視聴できるので時間と費用、さらに運営費等を節約できるなど利便性も多々ありましたが、メール、ネット環境が整わない会員への対応が課題となりました。今回、地区同窓会の通知は、学友会のメールやHPを活用して周知しますが、今後、コロナ禍の教訓として、対面とオンラインとのお互いの利点を生かしたハイブリッド開催が望ましいかと思います。

現在、地区同窓会が抱える問題として、同窓会の認知度の向上、若手への引き継ぎ、後継者への世代交代が緊急の課題です。地区同窓会が、単に親睦の場となるだけでなく、会員のために直接役立つ情報交換の場となることが大事だと思います。そのためには、SNSを活用しながら同窓会の活動を幅広く知ってもらい、地元に根付いた会員に加わってもらうことが地区同窓会の継続的発展のためには重要だと考えます。

静岡から広島への転勤に伴い2009年4月より中国地区同窓会代表を務めてまいりましたが、2024年3月セカンドジャニーを終えて静岡に戻ります。在任中、多大なご支援をいただいた中国地区同窓会幹事ならびに会員の皆様、学友会本部、事務局の皆様に心より感謝申し上げます。

2019年秋オープンした広島国際大学の呉ローズガーデンをご紹介いたします。1年中季節の草花が咲き、地元の方と一緒に花木を育てるサークルもあり、学生だけでなく地域の憩いの場となっています。呉においでの折には、是非お立ち寄りください。

皆様のご健康を心より祈念しております。

☆中国地区同窓会のご案内をP56に掲載しています。

広島国際大学の呉ローズガーデン　一年中季節の草花が目を楽しませる（筆者撮影）

九州・沖縄地区

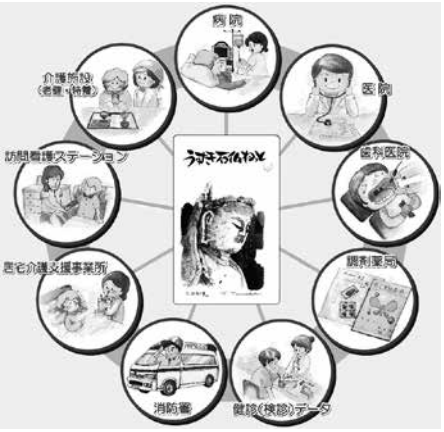
地区同窓会幹事　志賀幸子
（平成8年卒）

私は、平成8年に県大卒業後、静薬大の先輩である淵野恒雄先生が当時会長をされていた大分県薬剤師会の薬事情報管理センターに1年半ほど勤務した後、臼杵市医師会立コスモス病院に就職しました。

臼杵市は大分県の南部に位置する高齢化が進んだ地域で、国宝の石仏（せきぶつ）、ふぐ屋の娘さんでｇｌｏｂｅ（小室哲哉との音楽ユニット）のボーカルＫＥＩＫＯ、が有名です。

当院は臼杵市の中核病院で、ＤＰＣ病棟と療養支援病棟を有しています。医師会立病院のため紹介率は約90％と高く、かかりつけ医との連携診療は以前より行われております。臼杵市をはじめ行政、医療、介護職による協働の取り組みも様々行われておりますので、一部ご紹介致します。

臼杵市では、平成24年より患者情報を加入施設間で共有できる臼杵市地域医療・介護情報連携システム「うすき石仏ねっと」の運用を開始しております。このシステムは医師だけでなくコメディカルやケアマネージャーも利用可能であり、検査値や病院・調剤薬局の調剤情報の他、各施設のスタッフが発信する情報を、必要に応じて随時、直接閲覧できます。石仏ねっとには、臼杵市が重点的に取り組んでいる糖尿病・透析予防、心疾患、認知症、骨粗鬆症の専用画面があり、情報共有に役立っています。



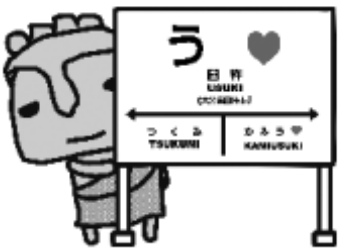
「うすき石仏ねっと」のネットワーク

私は、大分県糖尿病療養指導士と日本心臓リハビリテーション指導士の資格を有しており、コロナ禍になる数年前までは、当院の糖尿病・心臓病チームの一員として患者の療養支援に携わり、地域活動として医療介護スタッフ向けの勉強会（臼杵糖尿病ネットワーク）の企画・開催や、市民向けのうすき糖尿病イベントでの糖尿病啓発活動などをしておりました。

大分県には、糖尿病療養指導士から構成される県薬剤師会・病院薬剤師会の合同委員会の大分県薬剤師糖尿病研究会があり、病院と調剤薬局の薬剤師が月1回ミーティングをしています。コロナ禍以前は、症例検討や研修会企画の他、介護施設への出前出張講座や糖尿病イベントでのお薬相談コーナーなどの活動を行っていました。コロナ禍では、Ｚｏｏｍを使用して、メーカーの訪問規制から新薬の情報が得られにくいとの声をもとに、糖尿病関連の新薬の製品説明を一度に聞ける説明会を企画したり、〝顔見知りだと相談しやすい〟との声をもとにＷＥＢ座談会「薬剤師のしゃべり場」を開催するなど、ニーズに合わせた新たな取り組みも行っています。座談会は県内外問わず参加可能ですので、ご興味のある方は大分県薬剤師会・病院薬剤師会のＨＰをチェックしてみてください。

卒業後20数年経ちますが、九州内で同窓生にお会いしたのは淵野恒雄会長、後輩の旧姓後藤さんのお二方のみで寂しく思っておりました。九州・沖縄地区同窓会を通じて先輩・後輩の方々と新たな顔見知りの関係が広がることを期待しております。

地区同窓会開催の際は、ぜひご参加ください。皆様とお会いできる日を楽しみにしております。



会員だより

小菅卓夫同門会クリスマスパーティーを開催しました（2022・12・3）

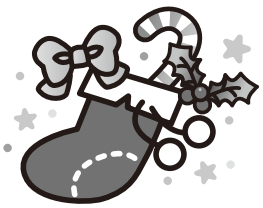
幹事役　木下俊也（昭和53年卒）

昭和42年に開講された薬剤製造学教室（小菅卓夫教授）時代から引き継がれている恒例のクリスマスパーティーを3年ぶりに令和4年12月3日（土）ホテルグランヒルズ静岡で開催しました。

今年の参加者はまだコロナ禍のため、25名と例年よりかなり少なかったです。クリスマスパーティーは辻先生のご発声で始まり、しばらく歓談の後、若林先生から始まり、続いて坂下さんと卒業順に参加者全員に近況報告をしていただきました。今回、最も遠方からの参加者は佐賀県から来た福山さんでした。あっという間に3時間が過ぎ、最後は全田浩先生から受け継いだ日本万歳協会推奨の『万歳三唱』で荻野さんが、締めくくりました。今回二次会はなく、午後9時に御開きになりました。

次回は令和5年12月2日（土）午後6時から同会場で開催します。卒業生の皆様や関係者の皆様、是非、ご参加下さい。なお、今回の参加者は辻、田中、若林、坂下、荻野、山本啓、木下、東山、吉田昌、山田、稲岡、勝山、山崎、福山、山口、夏山龍、夏山浩、熊澤広、松浦大、石綿、多田、神野、中安、野澤、西坂（敬称略）の25名でした。

小菅卓夫同門会クリスマスパーティー　2022年12月3日　於ホテルグランヒルズ静岡



第三回（昭和34年３月卒）からのお知らせ

山添節子（旧姓 河原）（昭和34年卒）
安藤圭子（昭和34年卒）

若い人でも八十七歳になりまして、会員の集合は難しくなりました。取りあえず同期会の開催はあきらめ、繰り越し金を静薬学友会に寄付することに致します。

中退された高木文子さん（旧姓 朝比奈さん）からも御寄付頂き再会を楽しみにしていたところで残念でなりません。

中には子息の医院で調剤している伊藤玲子さん（旧姓 山本さん）伊藤典子さん（旧姓 佐野さん）も元気で管理薬剤師をされています。スマホで長電話を楽しんでいた幹事からの報告でした。

令和５年７月

昭和37年卒（六回生）同期会

河村信弘（昭和37年卒）

開催日：２０２３年５月26－27日
場　所：クラウンパレスホテル浜松
参加者：池田　明、大久保好子、亀井　興、河村信弘、工藤弘子、桑原伊玖子、小西一宏、笹田庸子、佐藤朝子、鈴木智彦、大長美穂子、平良武男、田中恒夫、豊田　満、松岡千恵子、松下玲子、村松きよみ、山本俊子、吉岡　乃、吉岡はま、渡辺　忍　以上21名

前回の同期会（２０１９年11月29－30日）からコロナで延期が続き、３年半後にようやく開催の運びとなった。その間、幹事の笹田さん、吉岡はまさん、佐藤さん、小西さんには開催日設定等に苦労されたことに感謝したい。

○５月26日：懇親会

懇親会は同ホテルの和食料理店・四季で17時半より21名の出席で行われた。先ず全員の元気な姿を撮影したあと、吉岡はまさんの開会のことばに続き、すでに亡くなられた方々のご冥福を祈った。次いで小西さんの音頭で乾杯し会食と歓談に入った。コロナの３年半の空白を埋めるようにそれぞれ近況など打ち解けて話し合った。その後美味しい料理を堪能したあと別室で二次会を行った。

二次会では会食で話し合えなかった方々との話でさらに盛り上がり、河村のオカリナ演奏により会の雰囲気も和んだ。

○５月27日：小旅行および次回予定

二日目は事情ですぐ帰られる方々もおられたが、８名のタクシーによる小旅行を行った。

ホテルを９時半に２台のタクシーで出発。シルバーラインと称する道路を雄大な遠州灘を眺めながら、まず「新居関跡」に向かった。当関所は慶長５年（１６００年）に設立。明治２年（１８６９年）の関所廃止まで続いた。その後長い年月を経て、昭和30年（１９５５年）に国の特別史跡に指定され江戸時代の関所を体感できる形になっている。特に、面番所、女改之長屋など興味をひいた。見学のあと、一路舘山寺ロープウェイに向かう。好天に恵まれた浜名湖を眼下に見ながら大草山山頂への４分は雄大で、山上からの眺めはさらに絶景そのもので一同歓声を上げた。しばらくこの絶景を堪能したあとタクシーが山上に来てくれ、８名は無事ＪＲ浜松駅に到着し、再会を約束して別れた。

なお、幹事より次回同期会の提案が出され、１年先の来年（２０２４年）５月10－11日ということに決まった。

「薫風や湖面に映る若き日々　信弘」

昭和37年卒同期会　2023年５月26～27日　於クラウンパレスホテル浜松

ワクワク感がたまらない ミニミニ同期会

溝口雅子（昭和48年卒）

タキヤ漁ってどうやってするの？
たくさんとれるの？
アイスボックス用意する？
舟は揺れるかなー
携帯落とさないようにしなくては
初めて経験する時感じる興奮と緊張
今回のミニミニ同期会のメインイベント、浜松グループ提供のタキヤ漁

暗くなってから行う漁、昔は火を焚いて漁をしたそうな、現在はLEDランプ
いざボートに乗り込む
ライフジャケットを身に付け船頭さんの指示のもと、座ってスタンバイする
年に2～3人落ちる人もいるらしい
漁場までボートはエンジン全開で湖面を滑るように走る
結構なスピード、せっかくの髪が台無し!!

浅瀬に着き、モリの突き方をレクチャーしてもらう
湖面を見つめる、モリはなかなか重い、立って練習してみる
右のお客さん、ホラそこに居るカニ見える？
ジッと見ても見えない
エッどこどこ？そこにまだ見えてるよ、試しにモリで突いてみる
アッ何か当たったみたい、上げたら足だけ付いてきた
チョットかわいそう
一気に突かないと、すぐ砂に潜っちゃうよだって
水の深さがわからない、水圧でモリが重い

今日は風が強いから濁ってよく見えませんねと
今年一番の条件悪い日かもとか船頭さんが言っている
ボクでも見つけるの難しいものだって
魚も少ないらしい
風が無ければ、魚が多い深いところにも行けるんだけど・・などとおっしゃる
それでも、まぐれでカニを2匹ゲットした
よその舟でも、クロダイ、舌平目などとっていた
泳いでいる魚を突くなんて至難の業、信じられなーい!!

杭の側にいる魚はとりやすいと舟を移動させたり
場所を色々変えて少しでもとれるように演出してくれるんだけれど
見えるのは、クラゲと、時々すばしこい小さなサヨリ（とてもとれない）、毒があるらしいエイ（やめる）、ウミヘビ（みるだけ）とかで、とれそうなものは、なかなか目の前に現れない
モリを両手に握り、水面に眼をこらして力を込めて降り下ろすこと90分余り、そろそろ帰りのお時間と声がかかった

漁を堪能した4隻の舟は、湖面に浮かぶ筏での宴会場に集合した
とれたての魚を調理してすぐ食す、これ以上の新鮮はない
美味しいにきまってる!!
器用な手さばきで漁師さんが調理してくれる
まずはエビ天、サクッと美味しい、ゆでたてのカニもたくさん運ばれてくる
案外とれたのかな？
タイの唐揚げガーリック風味やあんかけバージョン、カニの味噌汁などなど
次々と出てくるご馳走に舌鼓を打ち、皆の笑顔が止まらない
お母さん役の清美さんも大忙し、カニの甲羅を食べやすくはがしてくれる
食べる一方の我々は口を開けて待っているヒナ鳥の様
カニを食べている時だけは言葉少なになる

湖上での夕餉は13人の仲間に、時間が経つのも日常も忘れさせた
たまたま予定がうまくかみ合って集まった男性6名、女性7名の古き良き時代の学舎の友
中には半世紀ぶりの再会の人もいたが、このシチュエーションでは、打ち解けるのに何の抵抗も無かった
それぞれが色んな話をした、人生のこと、家族のこと、健康のこと

美味しいものを一杯食べた満腹感と、どこからともなく湧いてくる満足感は皆に少なからずのパワーをプレゼントしたに違いない

ホテルへの帰り道、ふと見た夜空には星がまたたいていた
明日も晴天かな？
今年の梅雨はどこへ行ったやら

昭和48年同期会　2022年6月26日　於浜名湖

湯けむり温泉・伊勢志摩ツアー記（昭和49年入学）

代表幹事　木下俊也（昭和53年卒）

昭和49年入学同期会は還暦を迎えた年から毎年、湯けむり温泉ツアーを各地の有名温泉地で開催しています。現役薬剤師がいつも参加するため、平日でなく、土日の開催。今年は令和４年11月12日（土）～13日（日）、伊勢志摩ツアーと称して伊勢神宮、英虞湾、鳥羽水族館を楽しみました。宿泊施設は賢島宝生苑。この賢島宝生苑は、２０１６年安倍晋三内閣総理大臣が主要国首脳会議（Ｇ７伊勢志摩サミット）の議長国会見を行った場所で有名です。

初日、静岡組は車で伊良湖岬からフェリーで鳥羽港に向かい、その後、伊勢神宮へ。一方、鹿児島、仙台、東京、名古屋からの全国組は名古屋駅構内の金時計前に早朝集合。その後、近鉄特急に乗車し、宇治山田駅下車後、お伊勢さん参り。静岡組と全国組は何と奇遇にも伊勢神宮内宮で再会しました。コロナ禍でしたが、伊勢神宮は多くの観光客で大変賑わって活気がありました。特におかげ横丁はお祭りのためか、通路が大混雑していました。その後、賢島に向かい、賢島宝生苑に到着後、ささやかな夕食会を行いました。夕食会には飛び入りで丹羽氏が参加。飛び入り参加は大歓迎です。

二日目は、少し雨模様でしたが、賢島遊覧船組合による「あご湾島めぐりクルーズ」に参加し、60以上の小さな島々の間を小回りの利く遊覧船で周遊しました。船長のアナウンスがとにかくユニークで1時間があっという間に過ぎました。下船後、鳥羽水族館に直行し、入場しようとしましたが、駐車場満車で30分待ち。鳥羽水族館内も若者や子ども連れ家族で大混雑。我々は要領よくアシカショー、ジュゴン、ラッコ、ワニ、ペンギンなどを観察・堪能し、退館。その後、鳥羽駅で現地解散し、無事に令和４年度の同期会は終了しました。

今回の参加者は計14名といつもより少なめでしたが、最も遠方は鹿児島から来た前田さん、次は仙台から来た佐々木さんでした。

来年の同期会は、『湯けむり温泉・有馬温泉ツアー』と称して令和５年９月17日（日）～18日（月）、兵庫県の有馬温泉を予定しています。同期の皆様、予定に入れておいて下さい。ちなみに、これまでの同期会は、大仁、浜名湖、下呂、松島、小豆島、熱海、石和で行っています。なお、今回の参加者は、静岡組として安達、寺田、竹本、篠原、山本啓、東山、木下、木下。全国組として前田（鹿児島）、佐々木（仙台）、宇野（東京）、藤井き（名古屋）、萩原（塩山）、丹羽（岡崎）の14名でした。

昭和49年入学同期会　2022年11月12～13日　於伊勢志摩

静薬植物研究部ＯＢ会報告

美嶋英生（昭和43年卒）

植物研究部（以下　植研とする）は静岡薬科大学開学当初から結成されたクラブであり、このクラブの解散は我々ＯＢにとっては寂しさを禁じ得ない。本ＯＢ会は植研部の顧問をされていた故斉木保久、故上野　明先生を囲む会として１９９６年に発足した。それ以来毎年開催しているので（２０２０－２０２１年はコロナのため休止）。27年も続いている。本ＯＢ会は必ず野外を歩き、植物の観察をし、夜はそれぞれの会員の撮影した植物、鳥、動物など、自慢のスライドを映写し、楽しみ、親睦を図ることを目的としている。今年は高齢者にも比較的登りやすい秋田駒ケ岳を7月11～14日の4日間の旅とした。しかし、メンバーも高齢化が進み、多い時は30名以上集まった参加者も今年は14名、常連のメンバーも加齢による体調不良で不参加、今回の参加者の最高齢者は85歳、最若者は74歳、平均年齢は78・2歳、この会もあと何年続けられるか不安である。今年の秋田は暴風雨、最悪の山行であった。山頂に辿り着いたのは13名中8名、5名は途中から小屋まで引き返す有様、それでも何種類かの高山植物を写真に収めた。秋田は温泉の豊富なところ、今回は田沢高原、乳頭温泉、玉川温泉の三か所をはしごした。特に玉川温泉の湯はｐＨ1.5の強酸性、〝美人の湯〟とのこと、結構印象に残る温泉であった。最後に今回観察できた植物と、各自持ち寄ったスライドを紹介する。

〈秋田駒ケ岳で観察出来た植物〉

ハクサンイチゲ、ニッコウキスゲ、ツルアリドウシ、エゾツツジ、ミヤマダイコンソウ、ウラジロヨウラク、イワブクロ、ヨツバシオガマ、オニシモツケ、マルバシモツケ、ズダヤクシュ、モミジカラマツ、エゾニュウ、ゴゼンタチバナ、オノエラン、ミネウスユキソウ、ノリウツギ、ミヤマキンバイ、トウゲブキ、オニアザミ、他。

〈スライド会〉

1．野草

ニューギニアの植物、スイスアルプスの植物、他。

2．昆虫

植相ウマノスズクサとジャコウアゲハの一生（秋山　信彦　撮影）。

3．野鳥（河村　信弘様撮影）

（茨木市サギコロニー）コサギ、ダイサギ、アオサギ、（琵琶湖）ヒシクイ、コハクチョウ、（北海道）シマフクロウ、エゾフクロウ、タンチョウヅル、ギンザンマシコ、（九州出水市）ナベツル、クロツラヘラサギ、ハマシギ、（東北くりこま高原）オオハクチョウ、マガン、ハクガン、シジュウカラガン、（立山）ライチョウ、（その他）カワセミ、オシドリ、アオバズク、ヤマガラ、キレンジョク、チョウゲンボウ、イカル、イソヒヨドリ、キセキレイ、エナガ、アトリ、カワウ。

植物研究部ＯＢ会　2023年7月11～14日（4日間）　於秋田駒ヶ岳

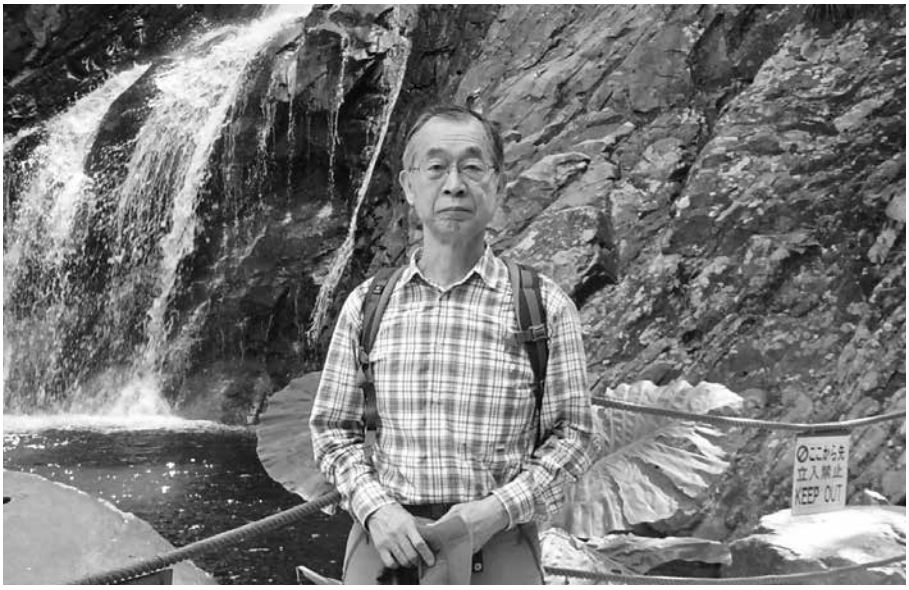
薬剤師免許とシダ図鑑

桶川　修
（昭和46年卒）

昭和46年卒の桶川です。研究室は生薬で、斎木先生のご指導を受けました。学生時代から山歩きが好きで、部活はバレー部と植物研究部に入っていました。現学友会会長の安倍君は高校時代からの友人で、先日彼から学友会報に何か書いてくれと依頼され、学生時代からの思い出を書いてみることにしました。

私は昭和48年に修士課程を修了し、当時伊豆の大仁町に本社があった東洋醸造に入社しました。最初は研究所の第一研究室に配属され、仕事は抗生物質の誘導体の合成でした。やがて有望な誘導体が合成でき、それの臨床開発が始まることになったのに伴い、東京の臨床開発部に転勤となりました。途中営業学術部門にしばらくいた期間はあったものの、結局60歳の定年まで臨床開発部門で働き続けることになりました。その間に2品目の製造販売承認を取得できたのは新薬開発に携わる者として幸運なことだったと思います。長い期間臨床開発部門で働いていましたので、60歳で定年になった時には別の仕事をしたいと思い、知人の紹介でSMO（臨床施設支援機関）に入社しました。残念ながらSMOでの仕事にはあまりなじめず、結局その会社は4年で退社し、次には理系専門の人材派遣会社で派遣社員の研修を6年程担当し、70歳になってから現在の医薬品医療機器卸の会社の管理薬剤師となりました。74歳の今もこうして現役で働いていられるのは正に薬剤師免許のおかげなのですが、実は私が薬剤師の免許を取得したのは学部卒業後25年も経ってからでした。卒業後の仕事は研究所や臨床開発でしたので薬剤師免許は必要とされなかったのです。そのため卒業時に国家試験は受かっていましたが、薬剤師免許は申請してありませんでした。卒業して25年も経った頃、何かの拍子に国家試験の合格証が出てきました。25年経った今でもこの合格証書は果たして有効なのだろうかと疑問に思い、念のため申請してみると薬剤師免許が交付されたのです。その薬剤師免許があったおかげで、現在も管理薬剤師として働くことができているわけですから、あの時申請しておいてよかったと心から思う次第です。

一方私の趣味についてですが、卒業後も山歩きと植物観察は続け、最近は日本植物友の会や日本シダの会に参加して、会の理事や幹事を引き受けています。日本各地の山を歩き、海外（中国、台湾、マレーシア、インドネシア等）にも観察旅行に行きました。そんな私に6年程前某出版社から初心者向けのシダ図鑑を出さないかとお誘いがありました。私程度の者がシダ図鑑などおこがましいとは思いましたが折角のお話ですので引き受けることとし、2020年4月に「くらべてわかるシダ」（山と渓谷社）を上梓しました。お陰様で色々な方にお使いいただいているようで、今年の2月ごろには出版社から初版が残り少なくなったので第2刷を出したいという連絡がありました。それを機に少し見直しましたところ、わずか3年の間にも研究が進み、隠蔽種が判明したり、今まで海外の種と同じだと考えられていたものが別種であることが判明したりして、学名を変更すべき箇所が何か所もありました。植物分類学は日進月歩の状況で、今や遺伝子抜きでは語れなくなってきています。自分では勿論そのような研究活動はできませんが、研究結果を読み学ぶことは私にとって興味の尽きないことです。山野を歩いて植物を観察することと合わせ、これからも是非続けていきたいと考えています。



沖縄　比地大滝にて

大学だより

草薙の地に着任して

免疫微生物学分野　准教授　大橋若奈

この度、2023年6月1日付けで免疫微生物学分野准教授を拝命いたしました大橋若奈と申します。この場を借りまして静岡学友会の皆様にご挨拶申し上げます。

私は神奈川県横浜市に生まれ関東側からの富士山を遠くに眺めながら育ちました。神奈川県立柏陽高等学校を卒業後、東邦大学薬学部に進学し、大学院は京都大学大学院薬学研究科生命薬科学専攻へと進み、京都府宇治市の京都大学化学研究所の生体反応設計研究部門Ⅱ（杉浦幸雄教授）にて、助教授（当時）の二木史朗先生の下、膜透過ペプチドに関する研究に携わりました。京都を皮切りとして、様々なラボ、土地、研究領域で過ごしてまいりました。京都の次は世界でも有数のNMR設備を持つ横浜の理化学研究所ゲノム科学総合研究センターの横山茂之グループディレクターのもと、溶液NMRによるタンパク質の立体構造解析に従事、次いで同じく横浜の理化学研究所の免疫アレルギー科学総合研究センターにて平野俊夫グループディレクターのもと、免疫学を背景とした基礎医学研究に従事致しました。その後、富山大学医学部分子医科薬理学講座（服部裕一教授）に助教として、慶應義塾大学薬学部生化学講座（長谷耕二教授）では特任講師として、粘膜免疫や腸内細菌叢、金属生物学を中心とした研究を続け多くの先生方よりご指導を頂いてまいりました。どの研究領域においても、新しく知ることの喜び、研究を通して国内外において多くの交流をする楽しさは共通していることを感じております。物事の本質を見極め、生命現象を一つずつ明らかにできれば望外の喜びです。新たな環境に胸を膨らませ着任してまいりました。

至らぬ点や慣れない点も多々あるかと存じます。皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

新任挨拶

新人のご挨拶

生体情報分子解析学分野　助教　清水聡史（平成28年卒）

令和四年九月一日付で薬学部 生体情報分子解析学分野の助教に着任いたしました、清水聡史と申します。静薬学友会の皆様にはこの場をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は神奈川県横浜市で生まれ育ち、本大学の薬学部に入学し博士後期課程修了まで、分子病態学分野（森本達也教授主催）に配属されました。博士前期課程一年時には、共同研究として本学生命物理化学分野（橋本博教授主催）で研究を行い、原幸大助教（現准教授）を中心に厳しくも優しい指導をしていただきました。修了後は東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座の永森收志准教授（現教授）の下でポスドクをしておりましたが、この度母校の生体情報分子解析学分野に教員として戻ってこられたことを非常に嬉しく思っております。

私は細胞の仕組み、特にタンパク質の働きに興味を持っており、現在は黒川教授の下で循環器系組織にどのような性差があるのか、またそれがどのように形成されているのかを研究しております。また、近年急速に発達してきているデータサイエンスを研究に取り入れようと考えており、バイオインフォマティクス技術者の資格も取得しプロテオームのような網羅的測定結果の解析に力を入れております。

静岡県立大学出身者として学生達の模範から外れないように気を張るとともに、学生の成長の手助けとなるように微力ながら教育にも携わりたいと考えております。学生には研究活動を通し、問題解決に向けた思考力・実際に行動に起こす実践力を身につけてもらいたいと思い、研究・教育と両立できるように日々努めております。教員としてまだまだ未熟な部分も多いですが、静薬学友会の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

霊峰富士が聳える新天地に赴任して

生命物理化学分野　助教　渕上壮太郎

令和5年4月1日付で薬学部生命物理化学分野の助教に着任いたしました渕上壮太郎と申します。静薬学友会の皆様にこの場をお借りしてご挨拶させていただきます。

私は、東京都立国立高校を卒業後、東京大学理科一類に入学しました。相対性理論や量子力学に興味があり、当初は理学部物理学科への進学を考えていましたが、一般教養の授業で化学、特に有機分子の化学反応の面白さを知り、物理と化学の両方が学べる教養学部基礎科学科第一に進学しました。研究室配属では分子の複雑な運動を理論的に解析していた染田清彦助教授の研究室を選び、自由奔放でカオスな研究活動を行いました。同大学大学院総合文化研究科広域科学専攻に進み、学位取得後は、神戸大学理学部の高田彰二助教授のポスドクとしてタンパク質の生物物理学的研究を開始しました。その後、横浜市立大学鶴見キャンパスに助手として着任し、木寺詔紀教授・池口満徳助教授とともにコンピュータを用いた生体分子の研究に取り組みました。続いて、京都大学大学院理学研究科に特定准教授として異動し、再び高田彰二教授のもと、高速原子間力顕微鏡とシミュレーションを融合させる情報学的なアプローチの研究を行いました。そして、現在に至ります。

静岡県立大学ではこれまでに経験のない薬学に携わることになりますが、これまでの物理・化学・生物・情報と多岐にわたる経験は、薬学の教育・研究にも大いに活かすことができると考えています。所属分野の橋本博教授・原幸大准教授・菱木麻美講師と協力して、創薬科学・生命薬学分野で活躍できる人材の育成に邁進するとともに、タンパク質の機能発現機構の解明や創薬・医療産業への応用展開を目指した研究に、霊峰富士のような泰然自若の境地で励む所存です。静薬学友会の皆様には、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

再びの静岡の地で、決意を新たに

生体情報分子解析学　助教　児玉昌美

令和5年4月1日付で、静岡県立大学　薬学部　生体情報分子解析学の助教に着任いたしました、児玉　昌美と申します。静薬学友会の皆様には、この場を借りてご挨拶を申し上げます。神奈川県横浜市の生まれですが、小学校入学から高校卒業まで静岡県浜松市で過ごしました。この度、再び静岡の地にご縁を頂き、静岡県立大学で研究および教育に携わる機会を頂きまして誠にうれしく思います。

高校卒業後は、東京大学　理学部生物化学科、同大学院　理学系研究科生物化学専攻に進学しました。利根川進博士が抗体の多様性が免疫グロブリン遺伝子の組換えによって生まれることを見出し、1987年にノーベル賞を受賞されましたが、私の最初の研究テーマはこの後続研究で、組換え時期を制御する遺伝子領域の探索や、組換え酵素が組換え配列を認識し、組換えに至るまでの過程の再構築から始まりました。その後は国立がんセンター研究所　放射線研究部で研究員として、がん抑制遺伝子産物p53が細胞傷害の程度に応じてアポトーシスを選択的に誘導する仕組みについて研究し、それまでの経験から、生物相手の研究の面白いところは一見、複雑に見える事象も解き明かしてみると、実に合理的な機構によって成り立っているところ、と思うに至りました。

出産を機に、研究の現場からは離れておりましたが、黒川　洵子先生とのご縁で、東京医科歯科大学　難治疾患研究所　生体情報薬理学で学振特別研究員RPDとして研究生活を再開する機会に恵まれました。この時が「薬」との出会いで、これ以来、東京大学　医学部　薬理学で特任研究員として、AMEDの創薬等先端技術支援基盤プラットフォーム、創薬ブースター事業に従事しながら、不整脈の発症機構などを研究し、今に至ります。

着任より早や半年が過ぎましたが、薬学部の、特に教育におきましては、初めての事柄ばかりで戸惑うことの多い毎日です。一日も早く皆様のお役に立てるよう努めてまいります。静薬学友会の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新任挨拶

故郷静岡に赴任して

薬剤学分野　助教　渡邉桂佑

令和五年四月一日付で薬学部薬剤学分野に助教として着任いたしました渡邉桂佑と申します。静薬学友会の皆様におかれましては、この場をお借りしてご挨拶申し上げます。夏は酷暑で冬は大雪である富山から故郷である静岡に戻り、温暖で過ごしやすい気候にありがたみを感じております。伝統のある静岡県立大学で教育および研究活動に携わる機会をいただき、大変うれしく思います。

私は静岡県沼津市で生まれ育ちました。子供の頃から高校生に至るまでに雄大な富士山から駿河湾まで多くの自然にあふれる伊豆で生物観察をよく行っていました。自然科学への興味・関心が高まっていた子供時代でした。高校卒業後、生物の多様性と仕組を学ぼうと、富山大学の理学部に入学しました。配属された研究室では脳内の情報伝達を担うペプチドである神経ペプチドの機能やそのメカニズムについて研究しました。大学院では脳と末梢器官との関わりについても興味が湧き、血中の生理活性物質と脳の関わりを探る研究を行いました。この頃はちょうど、消化管で分泌されるホルモンが脳内でも機能しており、ダイナミックに体循環を通じて情報伝達を行っていることが広く明らかにされつつありました。これらの現象を目の当たりにし、体循環の物質の動態について強い興味を持ちました。血中物質の動態を探る薬物動態学を知ったのが、私と薬学の出会いとなります。着任した薬剤学分野では難水溶性化合物の経口製剤をテーマに新たな研究をスタートしました。

大学教員としては未熟であり、薬学教育の難しさや奥深さを痛感しております。温かく迎え入れて頂いた先生方や学生さんに感謝しながら、教育・研究に邁進してまいります。至らない点も多いとは思いますが、静薬学友会の皆様方には、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

病院薬剤師だった私の新たなスタート

実践薬学分野　助教　河本小百合
（平成28年卒・旧姓 中嶋）

令和5年1月1日付で薬学部実践薬学分野の助教に着任いたしました河本小百合と申します。静薬学友会の皆様に、この場をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は、栃木県小山市で生まれ育ち、栃木県立宇都宮女子高等学校を卒業後、静岡県立大学薬学部に入学しました。大学を選択するにあたり、現所属先である実践薬学分野のグミ製剤や口腔内崩壊錠などの小児向け菓子用製剤に興味を持ち、自分も研究に携わりたいと、進学を決めました。1年次から研究室を訪問し実験に参加する変わった学生でした。在学中は生薬学分野で1年間基礎研究を学び、その後、実践薬学分野にて2年間臨床研究を学びました。卒業研究として、アリピプラゾール含有グミ製剤の服用感評価と小児向け製剤としてのファモチジンマイクロタブレットの処方検討及びマイクロタブレットの取り扱い性評価を行いました。

卒業後は東京女子医科大学病院で病院薬剤師として7年間勤務し、最後の3年間で小児病棟を担当しました。小児病棟担当中に感じたことは、薬を飲むということは小児にとって非常に苦痛を伴うもので、本人はもちろん家族や医療スタッフの負担も非常に大きいということです。薬が飲めないことにより、再発で入院を繰り返す患者もいました。服用しやすい薬があれば、再発を予防でき、日々のQOLも向上するのではないかと感じ、再び小児向け製剤の研究に従事したいと思うようになりました。研究者としては非常に未熟ですが、小児患者のために服用しやすい製剤を開発することを目的に研究に励んでまいります。

慣れないことも多く至らぬ点も多々あるかと存じますが、静岡県立大学薬学部、静岡学友会の益々の発展に貢献できるよう精進していく所存であります。皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

新任のご挨拶

生薬学分野　助教　渡邉　正悟

令和四年九月一日付で薬学部生薬学分野の助教に着任いたしました渡邉正悟と申します。静薬学友会の皆様にはこの場をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は愛知県尾張地方の出身で、清須市、津島市、一宮市で幼少期から高校卒業までを過した後に名古屋大学農学部に入学しました。その後、有機合成化学実習をきっかけに、目には見えない分子を反応させることで別の化合物を造ることができること、また、その反応機構を合理的に説明できることに強く感銘を受けました。研究室配属では西川俊夫先生が主宰する生物有機化学研究室に入室し、中崎敦夫先生（現在・岩手大学理工学部教授）に師事しながら強心ステロイド類の合成研究に取り組みました。そこから、座学だけでは気づけなかった有機分子内・分子間の電子の流れや化合物の性質を考える事の楽しさを知り、実験の傍ら分子模型を弄ったり反応機構や合成ルートを描いて議論したりを繰り返す日々を過ごしました。最近では、天然物合成だけではなく、有機合成を起点として活動領域を広げられないかと考えるようになりました。博士課程修了後、食品機能化学研究室の柴田貴広先生らにご紹介いただき、岐阜大学応用生物科学部の天然物利用化学研究室に博士研究員としてお世話になりました。天然資源からの新規化合物や機能性天然物の発見や、その利用を目指した研究の中で、自分がどんな関わり方ができるのかを考え得る良い機会となり、半年程でしたが天然物化学の面白さを再確認しました。そして令和三年九月に現在の所属研究室に研究員として移り、薬学部という新たな環境で悪戦苦闘することも多いながら、自身も学ぶことが多いと感じております。

何においても若輩者ではありますが、静薬学友会の皆様にはご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

薬学部教員の人事異動

退職

衛生分子毒性学分野	講師	菅野裕一朗	令和4年10月
免疫微生物学分野	講師	黒羽子孝太	令和5年3月
創剤科学分野	准教授	金沢　貴憲	令和5年6月

着任

実践薬学分野	助教	河本小百合	令和5年1月
生体情報分子解析学分野	助教	児玉　昌美	令和5年4月
生命物理化学分野	助教	渕上壮太郎	令和5年4月
薬剤学分野	助教	渡邉　桂佑	令和5年4月
免疫微生物学分野	准助教	大橋　若奈	令和5年6月
医薬品製造化学分野	助教	近藤　　健	令和5年9月

昇任

医薬品創製化学分野	准教授	稲井　　誠	令和5年1月
生薬学分野	准教授	佐藤　道大	令和5年4月
実践薬学分野	准教授	柏倉　康治	令和5年4月
衛生分子毒性学分野	講師	志津　怜太	令和5年7月

研究室だより

生化学分野

生化学分野では、核酸やタンパク質と並ぶ第三の生命鎖である糖鎖の機能解明と創薬応用を目指し、Notchシグナル、ウイルス、神経をキーワードに、竹内英之教授の統括の下、高橋忠伸准教授、南彰講師、紅林佑希助教がそれぞれ研究室を担当し、研究を進めています。また、異分野融合研究の革新的な展開を図るため、名古屋大学の岡島徹也教授、広島国際大学の池田潔教授（１９７９年静岡薬大卒）をはじめ、国内外の先生方との共同研究を推進しています。現在、当分野は大学院博士前期課程２年３名、同１年４名、学部６年４名・同５年３名・同４年６名の計20名の学生が所属しています。

学生は精力的に研究や勉学に取り組み、学会において多くの賞を受賞しました。ここ１年間の受賞は、日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会２０２２（荻野加奈子さん）、第27回静岡健康長寿フォーラム（中尾初音さん）、糖鎖科学中部拠点第18回若手の力フォーラム（塚本文汰さん）、日本生化学会中部支部第87回例会（若林佳輝さん）、日本薬学会第143年会（小山和さん、若林佳輝さん）、第69回日本薬学会東海支部総会・大会（若林佳輝さん、簇祥太さん、松本歩さん）、第38回ＳＡＭ学会学術大会（簇祥太さん、松本歩さん）、ＪＳＣＲトラベルアワード（中尾初音さん）です。また、学位記授与式においては、最も優秀な成績を収めて卒業した者に与えられる成績優秀者賞が荻野加奈子さん（薬学科）と加藤光貴さん（薬科学科）に授与されました。対面での学会発表が再開されつつあり、研究室においても新型コロナウイルス感染症の感染対策に万全を期しながら、国際学会への参加や研究室旅行を再開予定です。

その他、最近の研究内容や成果、トピックスについては、当研究室のホームページ（https://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/~biochem/index.html）でご覧頂けます。また、生化学分野同門生が集まるＯＢ・ＯＧ ＬＩＮＥグループがあり、情報交換を行っています。加入を希望される同門生の方は生化学教員までご連絡ください。

2022年12月　集合写真

衛生分子毒性学分野

衛生分子毒性学分野は、吉成浩一教授が２０１４年に着任して10年目を迎えました。本年７月より、志津先生が講師に昇任され、吉成教授、志津講師、保坂助教の教員３名体勢で、学生、研究補助スタッフの皆さんと研究室を運営しています。

当分野では、「化学物質からヒトを衛る」をメインテーマとして、化学物質による毒性発現機序や感受性要因等を同定し、またその予防法の開発に向けて実験動物や細胞等を用いたウェットな実験から、コンピューターを利用したドライ解析まで毎日精力的に研究を進めています。学生は週に１回の研究室セミナーにおける発表で、プレゼン能力を訓練し、また月に１回の教員３名と各研究グループによるグループミーティングで、各々の研究について深く議論し、グループ内での相互理解を深めています。

学生たちの日々の努力と共同研究者、関係者のご協力、ご支援により、毎年原著論文を報告し、国内外の学会において発表賞を受賞しています。昨年度は、日本毒性学会学術年会において佐藤拓海さんが学生ポスター発表賞、日本薬学会東海支部総会・大会において早川由真さんが学生優秀発表賞、フォーラム２０２２衛生薬学・環境トキシコロジーにおいて牧田夏希さんが実行委員長賞、日本動物実験代替法学会第35回大会において原川ゆうさんが学生優秀演題賞、日本薬学会第143年会において、佐藤拓海さんと菅原彩加さんがポスター発表賞を受賞、志津先生が日本毒性学会奨励賞、日本薬学会東海支部学術奨励賞を受賞、また、当研究室がJournal of Toxicological Sciences誌に発表した論文が日本毒性学会田邊賞を受賞しました。

研究の合間には、お花見、ボウリング大会、ＢＢＱを行い、親交を深めています。研究成果、学会発表、イベント等の教室員の活躍は当分野のホームページに随時掲載して参りますので、是非ご覧ください。

末筆ながら、静薬学友会の皆様には変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2023年３月　卒業生と

薬理学分野

現在、薬理学教室には、教員4名、秘書1名、博士・博士後期課程4名（内、学振特別研究員2名）、博士前期課程1名、研究生1名、学部学生（4～6年生）16名、研究員1名が所属しており、日々、研究に取り組んでいます。

当研究室では、血糖調節において中心的な役割を担っている膵β細胞、脂肪肝などにおける肝線維化の責任細胞である肝星細胞を主な研究対象とし、2型糖尿病や肝線維症の病態解明および治療法開発を指向した基礎研究を展開しています。世の中に貢献できる研究成果を輩出するべく、今後もユニークな薬理研究を推進していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

―お知らせ―

新型コロナウイルスの影響により、長らくOB・OG会等が実施できておりませんが、今年度こそは秋に、OB・OG会を盛大に開催する予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

4年ぶりにイベントが復活しました。6月に開催された3階研究室対抗ボウリング大会では、団体準優勝を獲得しました。また、9月23―24日には研究室旅行で知多半島に滞在しました。

今年度より、博士課程2年の渡邉直也さんが学術振興会特別研究員（DC2）に採用されています。

―受賞―

昨年度は、金子雪子先生の日本薬学会「女性薬学研究者奨励賞」受賞、髙橋亮汰さん（当時B6）の日本薬学会薬理系部会のポスター発表賞受賞に続き、渡辺雄太さん（当時B4）が第27回創剤フォーラムでポスター発表賞を、山下日菜子さん（当時B6）が第96回日本薬理学会年会で年会学生優秀賞を、柴田涼吾さん（当時B5）が病院・薬局実務実習発表会にて優秀発表賞を、土肥直貴さん（当時D4）が学長賞および成績優秀者賞を受賞しました。

今年度は、梶萌さん（現D3）が第148回日本薬理学会関東部会で優秀発表賞を受賞しています。

令和5年3月17日　学位記伝達式後、送別会会場にて

医薬生命化学分野

我々、医薬生命化学分野が専門とするナノ粒子を用いた薬物送達システム（DDS）は、創薬シーズや既存薬の価値を高めるいわば薬の理想を追求する研究分野です。現在ではがん、脳梗塞、および腎疾患などをターゲットにして、先駆的な基礎研究を展開しています。コロナ禍を経て、様々な変化を強いられてきましたが、着実に研究を前に進めるよう総数約30名の研究室一丸となって研究に取り組む毎日です。学生たちの成果としては2022年9月開催の高分子討論会、10月の生体膜と薬物の相互作用シンポジウムにおいて、それぞれ平田真也さんと高橋沙也加さんが優秀ポスター賞、学生優秀発表賞を受賞しました。さらに小出裕之准教授は「文部科学大臣表彰若手科学者賞（受賞テーマ「革新的な標的分子吸着モダリティ開発による疾患治療研究」）」を受賞しました。この賞は、萌芽的な研究、独創的な視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者に贈られるものです。これらの研究室メンバーの活躍はコロナによる制約が残る日常において、研究室を明るく前向きにしてくれる出来事でした。最近の研究成果ならびに教室の活動状況はホームページに掲載してありますので是非ご覧下さい（http://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/~radiobio/）。コロナ禍で自粛していたスポーツやイベントは少しずつ再開しており、今年から卒業生との懇親会を再開する予定です。

2022年11月7日　モニュメント下にて

身体運動科学分野

本学に赴任し身体運動科学分野を担当して9年目を迎えました。担当科目では、私の専門分野である健康管理学や健康運動心理学の観点を活かした授業を行っています。また研究室としては、健康の維持・増進を図り、社会環境と良好な関係を構築する上で必要な知識・スキルの習得や、運動実践による心理的効果などに関する調査研究及び教育を行っています。

私は、本学全体での身体運動科学の通年17・5本の授業運営に加え、体育関連の用具・施設の管理、非常勤講師のコーディネート、体育会部活動活性化のための支援活動なども一手に担当しております。

大学における体育授業は、身体活動を習慣化する最後の機会となります。日々の授業では、運動技術の習得のみならず、体育を一つのツールとして、学生が自信やライフスキルを身に付けられるような実践を行っています。授業の内容や進め方を工夫することで、体力向上・技術習得はもちろん、メンタルヘルス改善の効果も期待できます。また、特に1年次における体育授業は「仲間づくり」の場にもなり、大学生活への適応や良好な人間関係の構築のためにも必要不可欠な科目です。

ここ数年では、テニスコートの修繕や新たな部活動設立支援のほか、各施設の利用者説明会開催、施設毎に使用上の注意看板を作成することで、本学施設をより気持ちよく利用していただけるよう貢献して参りました。また夏期には、アーチェリーや乗馬、カヌー&サップなどの新しいスポーツ種目を体験できる機会を設けました。このような新しい取り組みを通じて、本学の学生・先生方に身体運動科学の考え方を広げられたと感じています。

身体運動科学分野は、今後もよりよい授業作りはもちろん、積極的なスポーツ環境整備に継続的に取り組むことで、地域に貢献し未来を担う学生が本学から羽ばたいてゆける環境づくりに努めて参ります。今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願いいたします。

テニス授業集合写真（2023年7月撮影）

生体機能分子分析学分野

当分野は今年度も轟木教授、杉山助教、古庄助教の3人体制で、名誉教授の豊岡先生、客員教授の水野先生にもご支援いただきながら、学生と毎日精力的に研究を行っています。

当研究室の主な研究テーマは、次世代バイオ医薬品の新規分析法の開発、質量分析イメージング用検出技術の開発、光学活性物質の高感度分離分析法の開発、単一細胞メタボロミクスのための新規分析法の開発です。また、企業・他大学との共同研究にも取り組み、A―SAP産学官金連携イノベーション推進事業による株式会社アマノとの共同研究が、成果事例として公開されました。研究室HPにリンクを追加しておりますので、ご覧いただけますと幸いです。

研究を支えてくれている学生諸君は、日々切磋琢磨しながら高いモチベーションで研究を行っています。その成果は専門誌への論文掲載のみならず、昨年度の学会での優秀発表賞受賞6件など、学生個人としても高く評価されました。また、研究以外の活動にも励んでおり、コロナ禍を経て3年ぶりに開催された学内ソフトボール大会では順調に勝ち進んでおります。

昨年度の修了・卒業生は、あすか製薬、大塚製薬、大塚製薬工場、科研製薬、さくら薬局、山梨大学医学部付属病院への就職や博士前期課程への進学を選択し、各々の道で活躍しています。詳しい研究内容、研究室行事、学生の活躍等は、研究室HPでご覧いただけます。

最後になりますが、静薬学友会の皆様には変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2023年4月　芝生公園にて（撮影時のみマスクを外しています）

医薬品製造化学分野

「科学」における「化学」の最大の特徴は「ものづくり」、すなわち「この世にないものを作り出せる」点です。わたしたちは、元素・結合・反応場の特性を活用する反応性開拓を土台として、創薬科学や生命科学に資する次世代分子設計基盤の構築を目標としています。特に、独自の設計による有機反応開発、実験と計算化学の両輪による分子機構の理解、生命科学・物質科学に波及する分子機能創製などを取り入れた研究展開を目指します。フェアリーケミカルズに関する研究や、独自の重水素化プロセスなどを基盤とする脂質・脂肪酸の分子化学など薬学分野における重要な課題に取り組んでいます。

２０２３年３月に１名の博士課程修了生と３名の修士課程修了生を含む７名の学生が社会へと羽ばたきました。２０２３年度は博士課程２名、修士課程５名、学部生13名という構成で活動しています。スタッフは本年１月には稲井 誠 講師が本学医薬品創製化学分野に准教授としてご栄転されました。現在、昨年７月に着任した滝田に加え、吉村 文彦 准教授、大内 仁志 助教にて活動しています。また本年９月には経験豊富な近藤 健 助教にも参画していただき、さらに研究教育活動を盛り上げていく所存です。

数年来のコロナ禍から落ち着いた状態を取り戻しつつあり、対面での学会活動など本来の姿の研究活動が増えてきました。それに伴い当研究室からも学生たちがたくさんの学会発表を行なっております。また学内においても昨秋、数年ぶりに研究室対抗ソフトボール大会が開催されました。「何事にも全力で」取り組む当研究室は強豪ひしめくトーナメントにて優勝しました！

引き続き、わたしたちは楽しみながら成長すべく、日々の研究活動やその他のイベントにおいて「何事にも全力で」取り組む所存です。皆様より一層のご支援・ご指導を賜れましたら幸甚に存じます。

2022年12月　集合写真

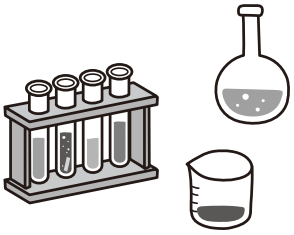
生薬学分野

生薬学分野では、渡辺賢二教授を中心として、天然物生合成メカニズム解明および医薬農薬となりうる活性物質の探索に取り組んでいます。佐藤道大准教授、岸本真治講師、渡邉正悟助教が中心となって各研究を進めております。当分野では現在、基礎研究のみならず、静岡県立大学発ベンチャーとして我々が設立した株式会社アデノプリベントをはじめ他分野の先生方との共同研究により、大腸がん原因物質であるコリバクチンの検出、さらにはコリバクチン産生菌の検出法の開発にも取り組んでおります。現在、当分野は大学院博士後期課程４年１名、３年２名（カナダおよび中国からの留学生）、大学院博士前期課程２年４名（中国からの留学生１名）・１年１名、学部６年３名・５年４名・４年６名の計20名の学生、長田特任教授、河岸先生、博士研究員の岡本君、永翁さん、株式会社アデノプリベント社員の周 博士と山本 博士が所属しています。

本年度も元気いっぱい研究に取り組み多くの論文を発表しています。学生は精力的に研究や勉学に取り組み、多くの賞を受賞しています。

https://sweb.u-shizuoka-ken.ac.jp/~kenji55-lab/

研究室のメンバー　2023年４月



末筆ながら、静薬学友会の皆様には変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

薬剤学分野

現在、薬剤学分野は、教員4名（尾上誠良教授、佐藤秀行准教授、山田幸平助教、渡邉桂佑助教）、博士課程5名、修士課程9名、学部生10名のメンバーで研究・教育活動に邁進しております。当分野における教育・研究活動の成果や各種イベント等に関しては、Webサイトにてタイムリーに報告しておりますので、定期的にご覧頂けますと幸いです。

薬剤学分野Webサイト（https://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/yakuzai/）

クスリを逆から読むと「リスク」（risk）となりますが、実際に薬効と副作用は表裏一体で、どのようなクスリでも副作用は発生してしまいます。そこで私たちは投薬後のクスリが体内でどのように動くのか詳細に把握し、そのクスリの体内動態制御による薬効改善・副作用回避を目指して次のような研究を推進しています。（1）薬物動態制御による副作用の回避、（2）ナノテクノロジーや物性制御を利用した薬物動態・薬効の改善、（3）病態下の薬物動態変化解析とその戦略的な回避方法探索、（4）薬物の物性・動態情報からの副作用リスク予測。

本研究室出身者は、薬剤学に関する基礎研究から臨床研究まで視野にいれた幅広い経験を活かし、医療機関、製薬・食品企業、行政機関や教育機関など様々な分野で活躍されています。今後も研究活動を通じて薬の専門家としての研究技能・知識とコミュニケーション能力を併せ持つ薬科学者を育成し、変化し続ける社会のなかでリーダーシップを発揮できる人材を輩出できるよう邁進して参ります。今後とも皆様からのご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

新年度の初日、桜の前での集合写真（2023年4月3日）

創剤科学分野

本年度の創剤科学分野（創剤工学講座）は、33名のメンバーで活動を開始しました。「モノづくりに繋がる理論を構築しよう」をキーワードに、経験則に頼っていた製剤学的事象を定量的に捉えること、再現性・予測性のある新規製剤技術の確立を目指し、学生一人一人が考え、仮説を立て、検証するサイクルを繰り返しながら課題提案型思考を醸成しています。製剤学はユーザーに最も近い薬学特有の学問領域の一つです。「自分が創った製剤を大切な人に投与することができますか」を常に問いながらメンバー一同、研究活動を進めています。

今回、皆様にご報告する事項がございます。２０２０年の４月より当分野で研究・教育活動に従事してくれた金沢先生が7月1日付で徳島大学・薬学部の教授にご栄転されました。新天地でのご活躍を祈念いたします。

薬学を取り巻く環境は常に変化しており、製剤に求められる機能も多様化しています。当分野では、従来からの粉体工学に関する研究に加え、ナノファイバー技術を利用した新規製剤開発、レオロジー解析に基づく製剤設計、生分解性ポリマーを利用した機能性粒子の検討、などの研究課題に取り組んでいます。現在の研究テーマや活動に関するトピック等については、当分野のＨＰ（https://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/pharmeng/）にて紹介しております。

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、大学生活が戻りつつあります。研究活動を通して薬学の楽しさを追求することに加え、大学生の時にしかできないことにチャレンジしてほしいと考えています。ゼミを毎週火・水・木の朝に開催し、午前中から研究活動に集中する習慣を身に着けるとともに、夕方以降はフリーとし、学生に有効的な時間の使い方を考える環境を提供しています。研究・教育活動を通して薬を創る（研究者）および薬を扱う（薬剤師）役割を担う人材を継続して育成して参ります。ご支援・ご指導のほど宜しくお願いします。

2023年5月　用宗海岸でのバーベキューにて

分子病態学分野

分子病態学分野は森本達也先生が２００９年に教授に着任してから今年で14年目になります。森本達也教授、刀坂泰史講師、砂川陽一講師、浜辺俊秀助教の教員４名、事務補助員１名、大学院生４名（博士３名、修士１名）、学部生15名にて、研究に学会発表、地域貢献イベントなど、日々慌ただしく過ごしております。

当研究室では心血管疾患の創薬を目指し「心不全発症に関わる心筋細胞内シグナル伝達機構の解析」をテーマに研究を行っています。最近１年間を振り返ってみますと、卒業生の川口正吾さんの研究成果（柑橘果皮成分Auraptenеの心筋梗塞ラットに対する効果検討）がPhytomedicine、博士課程の川瀬裕斗さんの研究成果（ショウガ抽出物6-Shogaolの圧負荷誘導性の心肥大に対する効果検討）がNutrientsに掲載されました。また、学会発表では、薬学部６年の茂木飛佑馬さんが第６回日本循環器学会基礎研究フォーラムで優秀演題賞、薬学部６年の山本みずほさんが第８回日本心血管協会学術集会で最優秀研究奨励賞をそれぞれ受賞しています。

研究以外にも、地域との交流の機会に恵まれた年でした。９月・11月には静岡市との事業で地域福祉共生センター「みなくる」で地域住民の方を対象に血圧や血管年齢測定などの健康イベントを行いました。また10月には藤枝市との事業で蓮華寺池公園にてモバイルファーマシー（薬局機能を搭載した車両）の展示・説明を行いました。

本年度より研究室の年中行事としてきました、お花見や研究室旅行などを順次再開しており、研究室の連帯感の醸成につながっております。研究成果や研究室行事については研究室ホームページ等で随時公開しておりますので、是非覗いてみてください。

最後になりますが、静薬学友会の皆様には今後も変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2022年度　研究室集合写真

生体情報分子解析学分野

生体情報分子解析学分野は、黒川洵子教授が着任してから今年で７年目となりました。研究室立ち上げ当初からご協力いただいていた山﨑祐子秘書が転出され、今年度より山口賢彦助教の後任として、順天堂大学医学部で特任助教をされていた児玉昌美先生が助教としてラボに加わってくださり、大学院生２名、学部生15名、黒川教授、坂本准教授、清水助教、渡邊客員教授の総勢21名で活動しています。当分野のミッション「性差（個別化）医療に貢献する薬理学研究を」は変わらずで、薬物療法の標的組織の生理学的特性に応じた薬理作用について、イオンチャネルなど膜タンパク質を中心に分子レベルで理解することを目指しています。具体的には、心血管病や骨格筋の炎症の性差機構解析、ヒトｉＰＳ由来心筋の創薬応用、そして腎臓排泄に関する性差がテーマです。失敗もあるけれど、着々と新しいデータが積み重なっています。１年間を振り返ってみますと、昨年11月の日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会２０２２では渡邉倫さんがベストプレゼンテーション賞（口頭発表）を、12月の第96回日本薬理学会年会で岩鶴果奈さんが年会優秀発表賞（英語口頭発表）、３月の日本薬学会第143年会で加地憲武さんが学生優秀発表賞（口頭発表）、６月の第148回日本薬理学会関東部会で服部希海さんと佐藤隆至さんが学生優秀発表賞（口頭発表）、７月の第69回日本薬学会東海支部大会で長田千尋さんが学生優秀発表賞（口頭発表）と、多くの学生が受賞しました。先輩の活躍を見て頑張ろうという空気が醸成されているのが頼もしい限りです。９月には、東海地区薬学系電気生理学研究会を名古屋市立大学と共催し、東海地区のパッチクランパー達と合宿形式で交流を深める予定です。今後とも、皆様からのご支援を賜りますようよろしくお願いします。

研究室のメンバーと　2023年４月

臨床薬剤学分野

臨床薬剤学研究室は、学部運営上、薬局管理学を含めて活動しています。研究インフラは草薙キャンパスと静岡県立総合病院内にあります。病院内の研究室は、２００２年に開設され、２００８年に循環器病センターに移設され、さらに２０１７年９月からは新築された先端医学研究棟内に再移設されました。地方自治体が設立した病院内に薬学部の研究室を設置することは極めて珍しく、内外から注目されています。

教育面の実習関係では、６年制課程の病院・薬局実務実習（５年次）を担当しています。本学では、病院内に専任教員６名を配置して、教員主導型臨床教育を行う、いわゆる米国型薬剤師養成教育を行っています。臨床薬剤学研究室では、その中核を担い、実務家教員３名（宮嵜靖則准教授、内野智信講師、大澤隆志講師）が臨床実習に携わっています。薬局実務実習では谷澤康玄助教が担当しています。病院・薬局実務実習の統括を賀川義之教授が行います。講義では、早期体験学習（１年次）、医薬品安全性学（３年次）、薬学と社会Ⅰ（３年次）、医薬品情報学Ⅰ（３年次）、薬学と社会Ⅱ（４年次）、調剤学（４年次）、薬物治療学特論（大学院）等を担当しています。薬学と社会Ⅰや調剤学の講義では、近藤記念薬学キャリア支援寄附講座との連携により、本学出身者を非常勤講師に迎えています。研究面では臨床現場の問題点を臨床薬物動態学、臨床薬理学的および臨床製剤学的アプローチで解決する研究を行っています。２０２１年度にLC-MS/MSやHPLCの機器更新がなされ、最先端の研究機器で臨床研究に取り組んでいます。当研究室では、学生、大学院生および教員が一丸となり、粘り強く、かつ質の高い薬学研究を通して、薬物治療成績の向上に取り組んでいます。これからも、当研究室は臨床薬学研究で社会に貢献できる卒業生や修了生を輩出できるよう精進しています。

2023年３月の集合写真

臨床薬効解析学分野

臨床薬効解析学分野は２００５年に開設され、本年で18年目を迎えます。現在は教員３名、大学院生７名、学部生18名の総勢28名で基礎研究と臨床研究の橋渡し研究に取り組んでいます。臨床薬効解析学分野では「医療現場からシーズを見つけて研究を展開し、その成果を現場や社会に還元する」ことを目指して、多種多様な研究を展開しています。

当分野は２０１７年に静岡県立総合病院内に新設された先端医学棟にも研究室が設置されており、循環器病センター６階から移動して５年が経過しました。このブランチ研究室を拠点として、県立総合病院をはじめ、県内外の医療機関等と連携し、臨床的な課題を解決することを目的とした共同研究を進めています。昨年は、３月に室伏琢磨さん（博士課程４年）、上原星輝子さん（博士課程３年）が日本薬学会第143年会にて学生優秀発表賞を受賞、６月には小林紗也さん（学部６年）が第６回フレッシャーズ・カンファランスで優秀演題発表賞を受賞するなど、日々の研究成果を積極的に各学会にて発表し、高い評価を受けています。また、２０２１年度博士後期課程修了の鈴木光路さん（現 浜松医科大学医学部附属病院）が２０２３年度 日本医療薬学会 Postdoctoral Awardを受賞することが決定しました。

教育面では、学部、大学院科目の講義の他、県立総合病院における実務実習指導という重要な役割を担っており、薬学教モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）に対応した実務実習が５年目を迎え、実習がより充実したものとなるよう日々取り組んでいます。

最近の研究内容や研究成果、研究室行事などは当研究室のホームページやFacebookに随時公開していますので是非ご覧ください。これからも精力的に研究活動を行いつつ、充実した研究室生活を過ごせるよう努めてまいります。静岡にお越しの際は研究室にお立ち寄りください。教室員一同、卒後生の皆さまに会えることを楽しみにしています。

2023年３月17日　学位記授与式

医薬品情報解析学分野

当研究室は２００５年に発足し、本年で19年目を迎えます。その間、多くのＯＢ・ＯＧを輩出し、病院・薬局を始め、製薬企業の統計解析・データマネジメント部門、行政機関等で幅広く活躍しています。２０２２年３月に山田が定年を迎え特任教授となりましたが後任の教授を募集しないことになったことに伴い、現在、在籍している大学院生と学部生の修了、卒業を待って、医薬品情報解析学研究室としての活動を閉じることになります。山田は並行して、今年度から薬学研究院に新設された、株式会社伊藤園の寄附金による寄附講座「茶健康科学講座」を公募中の特任助教と共に運営に携わることになりました。

当研究室は、薬学教育の中で重要な分野である新薬の臨床開発や臨床研究に必要な臨床研究方法論、生物統計学、疫学、ＥＢＭ等の教育ならびに研究を実践する研究室として、薬系大学では極めてユニークな、時代に先駆けた教育・研究を行ってきました。教育面では社会人にも門戸を広げた「ＣＲＣ／ＣＲＡ養成講座：創薬育薬基礎・応用特論、先端臨床薬学特論２」を毎年開講し社会的にも高く評価され、日本臨床薬理学会の認める「認定ＣＲＣ更新のための講習会」に認定されています。２０１０年からは静岡県立総合病院内に当研究室の分室が開設され、データマネジメントや統計解析機能を有する分室として活動してきました。

研究面においては、静岡県立総合病院ほか多くの医療福祉機関や大学間の連携で、多施設共同研究、企業との共同研究等を実施してきました。特に緑茶の感染症予防や精神機能への影響に関する臨床研究はマスコミでも大きく取り上げられています。また、健康食品の安全性評価に関する研究も継続しており、２０２２年12月に大学院生の論文が臨床薬理研究振興財団の学術論文賞を受賞しました。大学院生・学部生による研究成果も着実に積み重ねられ、国際誌への投稿も増え今後の活躍が期待されます。

2022年11月21日　研究室集合写真（草薙キャンパスにて）

実践薬学分野

実践薬学分野は、患者さんと医療スタッフから信頼され、患者ベネフィットを追求できる人材育成を目指しています。患者さんへの直接的な貢献を目標として、グミやフォームといった菓子を応用した実用化製剤の研究開発、基礎及び臨床研究から様々な薬物の血中濃度と効果の関係を解析し、最適な薬物治療を提供するための研究を、病院及び製薬企業と共同で実施しています。また新たな薬剤師業務の創出を目的とした薬剤師実務実践研究も行っており、薬局窓口やベッドサイド、患者宅での医療面談、フィジカルアセスメントを行っている様子をバーチャル・リアリティ（仮想現実、ＶＲ）を用いて、活用できるコンテンツを作成し、高度化する薬剤師業務への対応力や実践的な知識を身に付けた医療人育成も目指しています。

２０２３年は研究室に大きな変化がありました。柏倉康治先生が４月より准教授に昇任しました。さらに東京女子医科大学病院薬剤部より本研究室の卒業生である河本小百合先生が１月より助教として着任し、新体制となりました。

本研究室では「屋根瓦方式」をモットーにしています。重なり合うことで強度が増す屋根瓦のように、上級生が下級生を教えるだけでなく、卒業した学生ＯＢ・ＯＧ、そして社会人大学院生とその卒業生が手を取り合いながら協力しあっています。さらに毎年１回の実践薬学セミナーを開催し、在校生による研究発表や、講演会を行なっています。本年度は前教授である並木徳之先生の退官記念パーティーも開催する予定です。

また学生も勉学や研究に励んでいます。日本薬学会第143年会にて鈴木奈雄人さん（６年生）が学生優秀発表賞を、第38回日本薬剤学会で山崎柚香さん（６年生）が日本薬剤学会永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞を、それぞれ受賞しました。

今後も研究室へのご支援ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

2023年３月　学位記授与式の記念撮影にて

医薬品化学分野

医薬品化学分野では「安全かつ簡便な有機合成法を実現する化学の開拓」を目指し、様々な有機化学研究を行っています。これまでに「安全・簡便な化学合成を可能とする一酸化炭素等価体の開発」や「二酸化硫黄等価体を用いる新規触媒反応の開発」、「位置選択的反応を実現する新規触媒反応の開発」等をはじめとする成果を発表してきました。今後も引き続き、これらの研究をさらに発展させていきたいと思っています。

この一年間でのニュースとしては、パラジウム触媒を用いるクロロアレーンと2―フェニルフェノールのC―Hアリール化の論文を出すことができました。かなりの難産で、苦労がありましたが、論文として公表できたことは大変うれしく思っています。また、脱芳香族的アリール化によるピロロインドリン類およびピリドインドリン類の合成反応の論文も出すことができました。何人もの学生が関わった研究で、最後まで皆が頑張った成果です。形になった論文を見ると、何だか感無量です。

二〇二〇年度から、新型コロナウイルスの感染防止のため、多くの活動が制限されており、研究室でもこれまで毎年行ってきた楽しい行事が実施できない状態が続いてきました。ただ、今年あたりから学会参加などに関しては以前と同じようなレベルに戻ってきています。

この原稿を書いている七月末の時点で、全国的に激しい暑さが続いています。大学の実験室はドラフトの影響で、集中冷房があまり効きません。そのため夏の間は実験室内に長時間いるのがかなりつらい状況になっています。そのような状況でも研究室員たちは、研究を少しでも進めようと日々頑張っています。研究室員一同、化学の発展に少しでも貢献できるよう努力を続けたいと思います。今後も引き続きご支援くださいますようお願い申し上げます。

集合写真（2022年12月）

生命物理化学分野

熱中症アラートが連日発表されています8月上旬、恒例の「研究室だより」の執筆時期となりました。いつもは〆切を過ぎて大慌てしていますが、今年は少し早めに書き始めることができました。昨年の10月からの研究室の状況をお知らせいたします。10月上旬には新たに6名の薬学科3年生が研究室に加わりました。11月上旬には実務実習が終了し、5年生全員が研究室に戻ってきました。12月5日には5名の薬学科6年生が卒業研究発表、2月1日には薬学科4年生7名が卒業研究の中間発表、2月10日には1名の大学院生が修士論文発表を行いました。3月17日にはグランシップで全学の学位授与式、同日の午後には草薙キャンパス大講堂において、薬学部及び大学院の学位授与式が概ねコロナ禍以前の形式で開催されました。第108回薬剤師国家試験では、5名の薬学科6年生全員が合格することが出来ました。4月には博士前期課程1名が博士課程に進学し、学部生17名、大学院生4名で2023年度の研究活動を開始しました。また、4月1日付けで渕上壮太郎先生が助教として着任されました。渕上先生はタンパク質の分子動力学シミュレーションなどの計算科学がご専門で、実験科学と計算科学が連携した構造生物学的研究への展開を期待しています。4月から大学の新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた活動指針レベルが引き下げられました。感染防止に配慮は必要ですが、基本的には全ての教育研究活動が可能になりました。5月8日からは新型コロナウイルス感染症の位置付けが2類相当から5類感染症になりました。5月16日には用宗海岸で研究室のBBQを久しぶりに行い、コロナ禍以前の賑わいが戻ってきました。7月下旬より静岡県の新型コロナウイルス感染症の感染者数は県が独自に定めた基準を超え、8月に入り静岡県独自の感染拡大警報を発表しました。ウィズコロナ時代と言われていますが、コロナとの共存は未だ難しいのかもしれません。

用宗海岸での行ったBBQでの一枚（2023年5月16日）

医薬品創製化学分野

私たちの研究室は今年で11年目を迎えました。今年の1月には、稲井誠先生が准教授として着任されました。稲井准教授は医薬品製造化学分野で教員を務められていましたのでご存知の方も多いと思いますが、天然物合成や新規合成反応の開発を専門としています。当研究室にはなかった新たな視点から研究を展開し、今後も大いに活躍してくれると期待しています。また、今年度の研究室配属では女性1名を含む計5名の4年生が加わってくれました。教員4名の新しい指導体制のもと、「新しい化学の創製」と「新しい医薬分子の創製」を目指して、研究室をより一層盛りあげてくれると思っています。今年は2名が大学院入試に臨みますが、院試休み中の勉強の成果を当日の試験にぶつけると院試壮行会にて約束してくれました。

さて最近の社会活動はウィズ・コロナ体制となり、皆さまの生活も大きく変わったのではないでしょうか。研究室活動についても規制が緩和され、学会発表やセミナー、その他の研究室イベントが通常通り開催されるようになっています。対面でのプレゼンテーションが初めてという学生も多くいましたが、大変嬉しいことに、昨年度は教員、学生ともに学会で多くの優秀賞を受賞しました。その詳細および関連する研究論文については、研究室のホームページ（https://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/lsocus/index.html）で公開していますので、ぜひご確認下さい。

昨年は研究室創立10周年にあたる節目の年でしたので、同門会を企画していましたがコロナのため中止となってしまいました。卒業生の皆さまに会えることを楽しみにしていたので非常に残念でしたが、また新たな企画を考案中です。また、近いうちに皆さまと会えることを楽しみにしています。

2023年3月17日　学位授与式

統合生理学分野

統合生理学分野では、大目標である「神経・筋疾患発症機構の解明および治療法の開発」の実現に向けて研究活動を行っております。2022年3月には博士課程1名、修士課程3名、学部生4名が無事に学位を取得し、それぞれの道へと旅立ちました。一方で、2023年5月には平野航太郎博士が特任助教に、太宰美穂さんが事務補佐員に着任する等、心機一転、現在では教員4名、博士課程3名、修士課程5名、学部生14名に事務補佐員1名を加えた総勢27名で研究室生活を送っております。

昨年10月からの研究室の様子を振り返りますと、研究室メンバーの日々の努力が成果として実を結んだことが印象に残っております。例えば、日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2022では佐々木美紀さん（当時6年生）がベストプレゼンテーション賞を、2022年度薬学科卒業論文発表会では西島佑香さんが最優秀発表賞を獲得しました。これらを側で見てきた後輩たちも、良い流れに乗ってほしいものです。

また、喜ばしいことに、研究生活を充実させるために重要な課外活動も少しずつ実施できるようになり、2022年11月には研究室対抗のソフトボール大会に参加しました。さらに、翌年2月には研究室内を「Pax7」「MyoD」の2チームに分けたソフトボール大会も実現し、こちらも大いに盛り上がりました。チーム名は研究対象である骨格筋の機能に必須な遺伝子の名前に由来しており、筋肉愛に溢れた試合で親睦を深めました。

このように、研究室では原雄二教授の着任から3年、生活が様々な面で地に足をつけ、勢いが出てきたように感じております。これを継続するだけでなくさらに発展させることができるよう、研究室メンバーで切磋琢磨しながら毎日を大切に過ごしていければと思います。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

2023年2月の研究室内ソフトボール大会時の写真。
原先生も今度は一緒にプレーしましょう！

免疫微生物学分野

免疫微生物学分野では、梅本英司教授のもとで「生体環境を重視した免疫学」をテーマに研究を進めています。腸内細菌や食事などの環境因子に絶えず晒される腸管では、病原体を排除しつつ常在細菌に過剰に反応しないための独自の免疫制御機構が発達しています。当研究室では主に粘膜組織における免疫細胞の機能や、常在細菌や病原性細菌により産生される代謝分子が免疫系に与える影響を研究しています。研究室ホームページでも紹介しておりますので、是非一度ご覧ください。(https://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/immunol/)

令和四年度は、当研究室からは修士課程の学生が1名、薬学科（6年制）の学生が4名卒業し、試薬メーカー、病院、薬局、ドラッグストアに就職しました。卒業生の皆様のこれからの益々の活躍を祈念いたします。

黒羽子孝太講師は、令和五年四月より名城大学薬学部准教授としてご栄転なさいました。２００１年より長年に渡り助教、講師として研究室を盛り上げていただきました。これまでの感謝の気持ちを込めて、黒羽子先生に名前入りのタンブラーを贈呈してお祝いしました。

令和五年六月には、慶應義塾大学薬学部より大橋若奈准教授が着任されました。着任早々に各学生と個別にディスカッションを行うなど、教育、研究に精力的に取り組まれています。「新任挨拶」のページに大橋先生が執筆された記事も掲載されておりますので、そちらも是非ご一読ください。

現在、研究室では4年生6名、5年生4名、6年生5名、修士1年生3名、修士2年生1名の計19名の学生が所属し、研究に打ち込んでいます。コロナ禍も終息を迎えつつあり、より一層、研究室一丸となって研究活動に邁進してまいりますので、同窓生の皆様には、引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしく御願いいたします。

2023年6月　大橋先生の歓迎会にて

創薬探索センター

現代のがん治療を目的とした創薬では、新しい知識や仮説をもとにした分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬が次々に開発されています。しかし、その福音は一部のがん種に限定されており、多くの未解決セグメントを残しています。当研究室は２００４年に開設されて以来、国内研究機関や製薬企業と共同でこれまでにない新しい抗がん剤シーズの探索研究を進めています。例えば、転写制御因子ＳＴＡＴ３を標的とした経口投与可能な新規抗がん剤候補物質を創製しマウスモデルでその効果を実証してきました。既に欧米アジアなど各国で特許登録され、現在、国内製薬企業で実用化に向けた研究開発が進められています。さらに、従来の抗がん剤のようにがん細胞自体を攻撃するのではなく、生体にもともと備わる免疫細胞の力を利用する薬剤の開発を進めています。がんで高発現しているトリプトファン代謝に関わる酵素を標的としたユニークな化合物を複数発見しており、現在インシリコモデルを活用した構造最適化および動物モデルでの詳細な解析を進めています。また、企業と共同で免疫系に作用する抗ウイルス薬や新規診断法に関する研究にも取り組んでいます。当研究室では化学をベースにして、腫瘍学や免疫学について学生と共に学び理解を深めることにより、がんや感染症のアキレス腱を狙った新薬シーズの研究開発に取り組んでいます。有効な治療法の確立されてない疾患で苦しむ方々の「HOPE & HELP」を目指します。

令和４年度には、博士後期課程２年市田泰輝さんが日本薬学会第143年会にて学生優秀発表賞を、博士前期課程２年　河合佑里香さんが学内博士前期課程領域優秀賞（生物学領域）を受賞しました。また、社会人博士２名（協和キリン、ヤクルト）、修士２名（博士後期課程進学）、薬学科６年生２名（大正製薬、興和）、薬科学科４年生１名（博士前期課程進学）が修了／卒業し、それぞれの就職先や進学先で活躍中です。

2022年12月7日　静岡県立大学草薙キャンパスにて

薬学キャリアデザイン近藤寄附講座

当寄附講座は静岡薬科大学卒業生（昭和46年卒）近藤隆様からの寄附金によって運営されており、開設5年目を迎えました。メインスタッフは木下俊也客員教授と南彰客員講師（兼任）の二人です。

当寄附講座は、学生の将来進路に対する意識付けや薬学に対するモチベーションの熟成を目的として活動しており、①各分野で活躍する卒業生等による講義、②国内外の医療介護分野の実態調査及び卒業生の活動状況の調査、③就職等の進路相談、④国内外の短期留学・研修を希望する学生への学術研究支援等を行っております。

開設初年度は、卒業生による講義、進路相談会、学術研究支援（学会発表や短期留学等の旅費支援）等、多くの学生支援を実施することができました。初期の新型コロナウイルス感染症拡大の際には、学生との対面機会を設けることは難しく、卒業生等による講義は全てがＺｏｏｍを用いた遠隔形式講義となり、また、進路相談会や学術研究支援につきましては中止いたしました。

本年度におきましては、当寄附講座が担当する「薬学概論」・「調剤学」・「薬学と社会」では、製薬企業、薬局、病院、薬事行政等、各界で活躍する卒業生等延べ12名を講師として招聘し、対面形式による講義を行っているところです。また、進路相談会や学術研究支援につきましても再開しております。

卒業生の皆様には今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

寄附講座のスタッフ　南彰講師（左側）木下俊也客員教授（右側）

科学英語分野

准教授　ホーク フィリップ（Philip Hawke）

As both the world of science and Japanese society are becoming more and more internationalized, English is increasingly needed both by Japanese pharmaceutical scientists to communicate their research to foreign colleagues, and by Japanese pharmacists to speak to foreign patients and customers. These trends were recognized by the University of Shizuoka in 2007 when it established the Scientific English Program to train science graduate students as part of the Global COE Program. The Program was integrated into the School of Pharmaceutical Sciences as the 科学英語分野 in 2012, when it began providing courses to undergraduate students as well. The Program is taught by me, Philip Hawke, a Canadian who has taught at the University of Shizuoka since 1998.

The Program teaches graduate students the practical English skills that they need to successfully communicate about their research. It offers courses in **Academic Presentations, Academic Writing, Scientific Manuscript Editing, Oral Communication, Small Group Discussion**, and **Independent Listening**. After taking the Program's courses, many students have presented their work at international conferences and published it in international journals, and some have worked abroad as post-doctoral fellows or now work for international drug companies.

The Program teaches undergraduate students more basic English skills related to science. The **Pharmaceutical Science English** course introduces third-year students to the English that they will need after entering laboratories in their fourth year, such reading scientific journal articles. Students also develop practical English for communicating with foreign patients and customers in hospitals and drug stores. In the English section of the **Scientific Practice** course, first-year students have debates on scientific topics. The Research Presentations in English course gives 4th-, 5th-, and 6th-year students the opportunity to practice presenting their graduation research projects in English.

In recent years, an increasing number of foreign graduate students have been enrolling in the School, motivating faculty members to improve their own English skills. To help them do so, the Program offers weekly English Lunches for Science Faculty Members at a variety of skill levels. The Scientific English Program aims to help both students and faculty members to develop the English skills that they need to succeed as scientific research and Japanese society become increasingly internationalized.

Discussing research in Small Group Discussion class.

科学の発展や日本社会の国際化に伴って、日本の薬学研究者や薬剤師が外国人の研究者、患者、来店客と英語でコミュニケーションをとる必要性が増しています。こうした傾向を背景に、静岡県立大学で2007年にグローバルCOEプログラムの一環として科学系大学院生のためのScientific English Programが設立され、授業が行われてきました。2012年からは、このプログラムが薬学部の「科学英語分野」として統合され、同時に学部生に対しても授業が行われるようになりました。1998年より「科学英語分野」は私、カナダ出身のホークフィリップが担当しております。

大学院生を対象としたプログラムでは、研究について円滑なコミュニケーションを図ることを目的として、大学院生を対象に英語の実用的なスキルを磨くための授業を行っています。このコースではアカデミックプレゼンテーション、アカデミックライティング、科学原稿、オーラルコミュニケーション、スモールグループディスカッション、また自主的に行うリスニングなどのコースを提供しています。プログラム受講後は多くの学生が、国際会議での発表、国際学術雑誌への論文掲載、またポストドクターの一員として海外の大学で研究を行ったり、国際的な製薬会社に勤務するなど、多彩な経験を積んでいます。

学部生を対象としたプログラムでは、科学と関連した基礎的な英語を学ぶことができます。Pharmaceutical Science Englishでは学部3年生に対して、4年生になり研究室に配属されたのちに必要となる、科学に関連した英文記事を読むためのスキルを身につけるコースを用意しています。さらに学生は、病院や薬局で外国人の患者とのコミュニケーションを図るための実用的な英語を身につけます。Scientific Practice コースでは1年生が科学のトピックについて英語で討論を行っています。英語による研究発表のコースでは、4、5、6年生が卒業研究を英語で発表する練習を行っています。

近年、海外から多くの大学院生が入学するようになり、教職員の英語スキルについても向上させる必要があります。その一助として、週に一度さまざまな英語レベルの科学系教職員が参加できるイングリッシュランチの機会を提供しています。科学英語プログラムは、学生、教職員双方が研究を成功させるため、また今後ますます国際化が進む日本で必要とされる英語のスキルを高めるための手助けをすることを目指しています。

薬学部教室名および教員一覧　(カッコ内は大学院薬学研究院)

薬学科

生体機能薬学大講座

生化学分野 (生化学)	教授	竹内　英之
	准教授	高橋　忠伸
	講師	南　彰
	助教	紅林　佑希
衛生分子毒性学分野 (衛生分子毒性学)	教授	吉成　浩一
	講師	志津　怜太
	助教	保坂　卓臣
薬理学分野 (薬理学)	教授	石川　智久
	准教授	木村　俊秀
	講師	金子　雪子
	助教	山口　桃生
医薬生命化学分野 (医薬生命化学)	教授	浅井　知浩
	准教授	小出　裕之
	講師	米澤　正
身体運動科学分野	准教授	窪田　辰政
科学英語分野	准教授	ホーク　フィリップ (Philip HAWKE)

分子薬学大講座

生体機能分子分析学分野 (生体機能分子分析学)	教授	轟木　堅一郎
	助教	杉山　栄二
	助教	古庄　仰
医薬品製造化学分野 (医薬品製造化学)	教授	滝田　良
	准教授	吉村　文彦
	助教	大内 仁志
	助教	近藤　健
生薬学分野 (生薬学)	教授	渡辺　賢二
	准教授	佐藤　道大
	講師	岸本　真治
	助教	渡邉　正悟

医療薬学大講座

薬剤学分野 (薬剤学)	教授	尾上　誠良
	准教授	佐藤　秀行
	助教	山田　幸平
	助教	渡邉　桂佑
創剤科学分野 (創剤工学)	教授	近藤　啓
	助教	照喜名　孝之
分子病態学分野 (分子病態学)	教授	森本　達也
	講師	刀坂　泰史
	講師	砂川　陽一
	助教	浜辺　俊秀
生体情報分子解析学分野 (生体情報分子解析学)	教授	黒川　洵子
	准教授	坂本　多穂
	助教	清水　聡史
	助教	児玉　昌美

臨床薬学大講座

臨床薬剤学分野 (臨床薬剤学)	教授	賀川　義之
	准教授	宮嵜　靖則
	講師	内野　智信
	講師	大澤　隆志
臨床薬効解析学分野 (臨床薬効解析学)	教授	伊藤　邦彦
	准教授	井上　和幸
	講師	辻　大樹
医薬品情報解析学分野 (医薬品情報解析学)	特任教授	山田　浩
実践薬学分野 (実践薬学)	教授	内田　信也
	准教授	柏倉　康治
	講師	三浦　基靖
	助教	河本　小百合
薬局管理学分野(臨床薬剤学)	助教	谷澤　康玄

薬科学科

創薬科学大講座

医薬品化学分野 (薬化学)	教授	眞鍋　敬
	准教授	小西　英之
	講師	岩本　憲人
	助教	山口　深雪
生命物理化学分野 (生命物理化学)	教授	橋本　博
	准教授	原　幸大
	講師	菱木　麻美
	助教	渕上　壮太郎
医薬品創製化学分野 (医薬品創製化学)	教授	濱島　義隆
	准教授	江上　寛通
	准教授	稲井　誠
	助教	山下　賢二

生命薬科学大講座

統合生理学分野 (統合生理学)	教授	原　雄二
	助教	鈴木　美希
	助教	村上　光
免疫微生物学分野 (免疫微生物学)	教授	梅本　英司
	准教授	大橋　若奈
	助教	中西　勝宏

大学院付属施設

創薬探索センター	教授	浅井　章良
	准教授	澤田　潤一
	講師	小郷　尚久
	助教	村上　央
薬食研究推進センター	特任教授	山田　静雄
	講師	伊藤　由彦

寄附講座

薬学キャリアデザイン近藤寄附講座	客員教授	木下　俊也
	講師	南　彰(兼務)

薬学部令和4年度成績優秀者賞・岩﨑賞受賞

薬学科　成績優秀者賞

大学で学び、社会で活かす

株式会社うさぎ薬局
荻野加奈子
（薬学科　生化学分野　令和5年卒）

この度は成績優秀者賞という栄誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。この度の受賞は、熱心にご指導いただいた先生方、共に勉学に励み、支え合った友人、そしていつも温かく見守ってくれた家族の存在があってのものです。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

現在私は静岡県内の調剤薬局で薬剤師として勤務しております。勤務し始めてから5ヶ月余りであり、日々新たな知識を吸収している段階です。まだ社会人として歩き出したばかりではありますが、大学時代に得た知識や経験が様々な場面で活かされていると感じております。

大学生活で培った「物事に疑問を抱き、納得がいくまで追求する力」は、日々自分を成長させる大きな力となっています。様々なことにアンテナを張り、疑問を抱き、納得できる答えを導き出すことで、新しい知識が増えていくことが今は楽しくて仕方がありません。薬剤師として働き始めたばかりですが、様々なことで知識にはゴールがないことを実感しています。そのため、この先も日々学ぶ心を忘れずに成長していきたいと考えています。

また、大学時代には塾、飲食店、薬局、イベントスタッフ等のアルバイトをしてきました。この経験によって、幅広い世代の方々とのコミュニケーション力や広い視野で見る力を得ることが出来たと感じております。患者さんに寄り添う薬剤師になるためにも、この力を活かしていきたいと思います。

最後に、6年間の大学生活を通して、多くの素敵な方々と出会い、様々な経験が出来たことは、私の人生において大きな財産となりました。今後は、周りの方々への感謝を忘れずに、薬剤師として社会に貢献できるよう日々精進していく所存です。

薬学科　岩﨑賞

大学での学びと近況報告

日本新薬株式会社
山口和馬
（薬学科　医薬生命化学分野　令和5年卒）

この度は岩﨑賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。このような賞を頂けたのは、共に勉学に励んだ友人や、温かくご指導いただいた先生方、様々な面で支えてくれた家族のおかげであり、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

私の6年間の大学生活を振り返ってみますと、やはり研究室での時間が最も印象に残っています。研究室での生活では、実験の手技はもちろん、さまざまなことについて学ばせていただきました。特に、目的や結果の意義を意識するなど、常に「なぜ」を追求する姿勢の大切さ、また自分一人の考えだけでなく、周囲と積極的に議論し意思疎通を図ることの重要性は、研究活動を通じて身をもって学ぶことができました。また、研究発表の練習の機会が多かったため、簡潔にわかりやすく相手に伝えることの難しさとその必要性を身に染みて感じました。

私は現在、社会人として歩き出したばかりですが、大学で学んだこれらの意識や姿勢が活かされていると感じる場面が多くあります。企業での医薬品の研究に携わらせていただいていますが、日々上司やチームに進捗を報告する際に、要点を押さえた説明力が求められています。そのためには、行っている業務の目的や意味を深く理解することが非常に大切になります。自分で調べるという不断の努力を絶やさないように心がけることはもちろん、小さな疑問でも上司に相談したり、周囲に積極的に意見を求める姿勢は、大学で学んだ土台があったからこそ行動できることではないかと考えています。

このように、大学生活の中で将来につながる意識や姿勢を学ぶことができ、大きく成長することができました。共に励んだ仲間、そしてご指導いただいた先輩や先生方には感謝の念に堪えません。社会人としては未熟者ですが、今後も大学で得た経験を活かして日々精進してまいります。

薬科学科　成績優秀者賞

四年間を振り返って

博士前期課程1年　生化学講座
加藤光貴
（薬科学科　生化学分野　令和5年卒）

この度は成績優秀者賞という栄誉ある賞を頂き、大変光栄に思います。今回の受賞は、先生方、友人、家族と多くの方にご支援いただいたおかげです。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

4年間の大学生活を振り返ってみますと、友人や家族との日々が色濃く浮かびます。1年生の時はたくさんの人と出会い、毎日が刺激的で充実した日々を送ることが出来ました。特に所属したサッカー部の仲間と過ごす時間が多く、上食で腕立てをした日々は良い思い出です。2、3年生の時はコロナ禍で友人と会えない日々が続き、気持ちが閉鎖的になることもありました。しかし、姉が出産し、里帰りをしていた期間でもあり、0歳の新しい命に触れることで自然と生きる力が湧いてきました。コロナ禍は家族の存在の大きさを改めて学んだ期間でもありました。3年後期からは研究室配属に伴い一人暮らしを始めました。寝る間も惜しんで遊びに遊び、寝ることが好きな私が幸せな寝不足を感じる日々が続きました。研究室は現在も所属している生化学分野に配属され、熱心な先生方と明るくて優秀な先輩、同期、後輩に囲まれ、有意義な研究生活を送っています。4年生の最後に学会発表で訪れた北海道では先生方や同期との交流が一層深まり、とても良い思い出になりました。

大学4年間で得た出会いや経験は一生の財産です。何一つ取りこぼさないよう大事に抱え、さらなる成長のために日々精進していきます。まだまだ未熟者の私ですが、今後も謙虚さと感謝の気持ちを忘れず、多くの人々の笑顔と健康に貢献できるような人材を目指し、邁進していく所存です。

薬科学科　岩﨑賞

大学生活を振り返って

博士前期課程1年　医薬生命化学講座
又吉克樹
（薬科学科　医薬生命化学分野　令和5年卒）

この度は岩﨑賞という栄誉ある賞を賜ることができ、大変光栄に思います。本賞の受賞は熱心に指導して頂いた先生方、共に高め合いながら切磋琢磨してきた友人、そして支えてくれた家族のおかげであると思っております。この場をお借りして、ご支援いただいた全ての方々に感謝申し上げます。

そもそも、なぜ私が薬学を志したのかを考えると、化学と医学に興味があり将来的に新薬の開発に携わりたいという思いがあったからのように感じます。しかし、希望叶って薬学部に進学したものの、二年次より新型コロナウイルスの蔓延による活動制限を強いられました。その為、当時は充実した大学生活を送っている実感がわかず、漠然とした不安に駆られる日々を送っていました。しかし、そんな中でも先生方による様々な努力や工夫のお陰で、オンラインによる授業や学生実習が行われることとなり、徐々に充実した学生生活を送れるようになりました。コロナ禍において、学生のためにご尽力下さった大学関係者の皆様に改めて感謝申し上げたいと思います。また、三年次の後半より医薬生命化学教室へと配属され、現在も同教室で日々研究に励んでいます。研究ではこれまでの授業で修得した基礎知識の積み重ねが実験へと繋がり、ひいては新しい発見や応用へと繋がることを実感し、非常に感慨深く感じています。一方で、実験において思い通りの結果が得られないことも多く、その度に研究の奥深さを痛感します。今後の学生生活では、こういった問題に直面した時に適切に対処し、先生方や研究室のメンバーからのご鞭撻や刺激を受けながら日々成長していけたらと思います。

最後に、本賞を頂けた事を励みとして今後も真摯に研究に向き合っていきたいと思います。

在学生だより

5ヶ月の大学生活を通して

田代大翔
（薬科学科1年）

私がこの静岡県立大学薬学部に入り、早5ヶ月が経ちました。4月に入り、1年前期の授業が始まり、部活・サークルにも加入し、様々な新しいことに触れることができ、また新たな友人・仲間・先輩方などに出会うことができた充実した期間であったと実感しています。授業においてはこれからもっと専門的な勉強が始まるのだと思うと楽しみです。部活はバレーボール部に入り、人数が少ないこともあり、試合に出させてもらい、多くの経験をさせて貰いました。また、バイトも始め、仕事上での目上の方との関わり、自分で働いてお金をいただくという経験をする事ができました。本文章を執筆する上でこの5ヶ月を改めて振り返ってみて、本当にあっという間の5ヶ月であったように感じます。人生100年時代と言われている今、大学生活はそのうちのほんの一瞬に過ぎないと思いますが、この自分で何をするかを自由に決められるという期間は自分の時間を最も有意義に使える期間であるのではないかとも考えます。自分の将来を考え直し、今後の自分の人生をよりよいものにしていくこと・友人との時間を大切に、一緒に学び、目一杯遊ぶこと・部活やサークルを通して様々な経験をすることなど挙げだしたらきりがないですが、より多くのことを実行していきたいです。時間がたくさんあるからといってダラダラと時間を無駄にし、後悔をすることがないような大学生活を送ることができるようにしていきたいと思います。

様々な経験

藤井可怜
（薬科学科3年）

大学に入学して3年が経ちますが、この3年間を振り返るとあっという間に過ぎ毎日を忙しなく過ごしてきた記憶です。

入学直後の意欲とは裏腹に、毎日の授業やテストなどで目の前の課題を終わらせることに精一杯になってしまいました。そこで、先入観を持たずに色々なことに興味を持って楽しく過ごそうという目標も持つようになりました。

そのおかげか、東洋医学研究部の部長になりました。2年生まではコロナの影響でなかなか活動ができず、いきなり部長になったのでしっかり引き継げているか、活動を行えているか心配なのですが、何とかなるだろう精神で友達、先生に支えられながら行えています。夏休みには、子ども会を招いて薬草園見学を行いました。地域の方々との関わりはとても貴重な経験でした。深く考えずに部長を引き継いだので、当初は不安で本当に引き継いでよかったのかと悩んでいましたが、色々な人と関わることで刺激をもらえているので、今では引き継いでよかったと思っています。

また、私は調剤薬局でアルバイトをしています。そこでは薬剤師、MRといった製薬会社の方との関わる機会があります。実際に現場で働いている様子を見ることで自分に適するのはどういった職業なのか、興味を持つ仕事はどのようなものなのか考えることができ、さらには知らなかった職種を知ることができるので将来の選択肢が増え、より勉学への意欲が高まります。

今後は研究室に配属され、実際に研究に取り組んだり、学会に参加したりと今まで経験してこなかったことをたくさん行うようになると思います。これからも積極的に様々なことに取り組み、視野を広げていきたいと思います。

友人と　一番右が本人

コロナ禍を乗り越えて

生川誉紹
（薬学科６年）

新型コロナウイルス感染症の拡大により、学生生活は大きく様変わりしました。対面での講義はリモートや動画視聴へ切り替わり、部活動も中止に。一日中人と話さない日もあり、無為に日々を過ごす時もありました。そのような中でも今後の為にと勉学に取り組み、無事希望する研究室への配属が決まりました。

研究室では主に「緑茶」に関する研究に取り組んでいます。コロナ禍の２０２１年12月からは学生を対象とした臨床試験を実施しました。対面での説明会などが難しい中、教授および大学院生の方と共に試行錯誤し、また研究室の方々の協力を得て無事臨床試験を終えることができました。研究結果を複数の学会で発表し、第38回茶学術研究会では有難いことに奨励賞を受賞することができました。関わった全ての方に感謝いたします。また本年７月には株式会社伊藤園中央研究所静岡相良工場へ見学に行き、緑茶についてより深く学ぶことができました。

部活動では、活動時間に制限がかかり、特に吹奏楽部ということで様々な対策が必要とされました。３年次は吹奏楽コンクールや定期演奏会が中止となり、人前で演奏する機会を失ったのは非常に残念でした。制限が徐々に解除されるにつれ、少しずつ以前のように人前で演奏する機会が戻り、演奏する楽しさを再認識できました。そして本年９月に行われた吹奏楽コンクール東海大会では出場した８つの大学中４位という好成績を収めることができました。

コロナ禍で様々苦労はありましたが、今振り返ってみれば一つの思い出と言えるのかもしれません。国家試験対策や卒論発表会などありますが、残り半年を切った学生生活も悔いなく過ごしていきたいです。

研究室一同とともに　左から２人目が本人

私の大学院生活

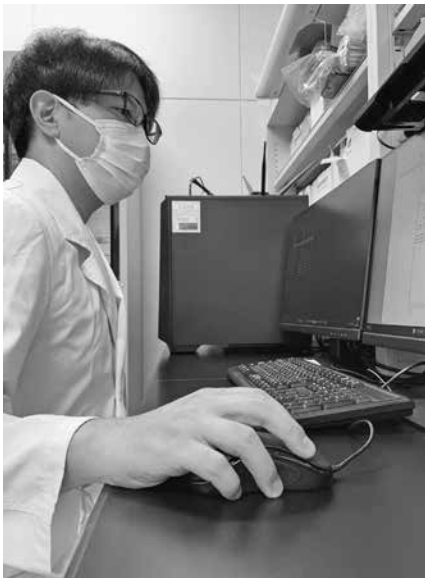
室伏琢磨
（薬学専攻　博士４年）

大学院生として、普段は浜松医科大学医学部附属病院にて日々の研究を行っています。大学からは離れているため県大の学生との交流機会は非常に少ないですが、病院薬剤部の方々と交流を持ちながら非常に良い環境で研究活動ができています。また薬剤師として週に数回調剤薬局で勤務しながら、薬剤師の職務でもある日々の研鑽も欠かさず実施しています。浜松での生活も1年以上が経過し、環境にも十分慣れてきました。

元々は大学院への進学は考えておらず、卒業後に病院へ就職してそのまま働き続けようと考えていました。しかし様々な仕事に就く中で考え方の未熟さや力不足を痛感し、改めて自分自身の実力や将来のキャリアを考えたときに行き着いた答えが大学院進学でした。大学院で過ごす時間は今の自分を見つめ直す良い機会であり、またこれから先の人生を決める上での大事な期間でもあると位置づけています。

在学期間中は分野問わず積極的に多くの活動に参加し、1つでも多くの経験をすることを目標にしています。入学後すぐにコロナ禍という大変苦しい状況ではありましたが、これまでに大きな学会での発表、『くすりｍａｔｅ』という法人活動への参加、学生向け活動の運営などに携わりました。県大以外の学生や社会人とも繋がりを持ち、自分の視野や知見がかなり広くなったと実感しています。

今年度で大学院は修了となる予定ですが、今後は薬剤師として多くの人に頼られる存在になることを目指して業務や研究に邁進していきたいと思います。また自らの経験を活かして薬剤師の地位向上や薬学生向けの活動もしていきたいと考えています。


研究中の様子（筆者）

菅野裕一朗先生を偲んで

衛生分子毒性学分野　教授　吉成浩一

菅野裕一朗先生

２０２２年10月26日、衛生分子毒性学分野講師の菅野裕一朗先生がご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

菅野先生は、単身赴任で大学近近のアパートに住まれていましたが、25日の夜、菅野先生が病院に救急搬送されたと私のところに電話がありました。少し前まで研究室でディスカッションをしていたので信じられませんでしたが、翌日そのままこの世を去られてしまいました。41歳の若さでした。

菅野先生は、２０２０年５月１日に、東邦大学薬学部から当研究室の講師として着任されました。ご存知のように当時は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、様々な行動制限があったため、歓迎会もできず、一部の学生とはオンラインの研究室セミナーで初めて会うような状況でした。時折冗談で「歓迎会をしてもらっていないんだよね」などと言われていたことを思い出します。

私は１９９８年に学位取得後、米国国立環境衛生科学研究所（ＮＩＥＨＳ）に留学し、薬物代謝酵素誘導を担う核内受容体ＣＡＲの研究を開始しました。２００１年に本学薬学部臨床薬品学教室（現生体情報分子解析学講座）に助手として着任してからも研究を続け、２００２年の薬学会で研究成果の一部を発表しました。その際、特に熱心に議論させていただいた方のお一人が、菅野先生の恩師であり、上司でもあった井上義雄先生でした。

菅野先生は、２００２年３月に東邦大学薬学部を卒業されてそのまま進学し、２００７年３月に井上先生のご指導により博士（薬学）の学位を取得されましたが、学位論文のタイトルは「核内レセプターConstitutive androstane receptorのシャトル機能に関する研究」でした。私の薬学会での発表タイトルは「ＣＹＰ２Ｂ遺伝子発現に関与する核内受容体ＣＡＲの細胞質複合体の解析」であり、菅野先生は、私がポスドク時代に行っていた研究と、おそらく世界中で最も近い研究をされていたのではないかと思います。当研究室においても「核内受容体とがん」をメインテーマに研究を進められていました。

私が菅野先生と初めてお会いした時期を正確には覚えていませんが、様々な学会で井上研究室からの発表を見ていましたので、いつの間にか菅野先生を認識していたのだと思います。菅野先生をご存知の方はその風貌も思い出されるかと思いますが、記憶に残ることは確かです。彼が東邦大学に所属していた際、ある学会シンポジウムで一度一緒に講演したこともありました。

菅野先生の研究室での生活で印象に残っていることはいくつもありますが、一番は、他の教員や学生に対して研究・実験のことを非常に楽しく話していたことです。今となっては分かりませんが、彼の研究のモットーは「自分が楽しいと思う研究をすること」だったかもしれません。残念ながら、指導をしていた学生の卒業論文発表を見届けることはできませんでしたが、彼が研究テーマを楽しそうに話していたことは指導学生の心に残っているものと思います。

菅野先生はまた「核内受容体マニア」、「実験マニア」でしたので、いろいろなテーマ、実験手法について彼と話をすることは、私にとっても非常に楽しい時間でした。短い間でしたが、菅野先生と一緒の研究室で研究をする機会が得られたことを嬉しく思います。菅野さん、考える時間が沢山できたと思うので、ゆっくりと実験のアイディアを考えてください。そして、良いアイディアがあればぜひ教えてください。私達が証明してみようと思います。

本部だより

一般社団法人静薬学友会　令和４年度第２回理事会報告（要旨）

日　時：令和４年９月10日（土曜日）15：00～17：00
開催場所：本部会議室（静岡県静岡市駿河区谷田52－１）
（代表理事安倍道治（会長）、理事賀川義之（副会長）は本部会議室にて出席。他理事はＺｏｏｍを用いたオンライン会合により出席）
出席者：理事13名、監事２名、顧問１名
安倍道治、賀川義之、浅井知浩、岩﨑年史、大木明代、岡野幸次、木下俊也、黒羽子孝太、清水広介、仲谷博明、永吉翼、前田徹、南彰（以上理事）、伊藤由彦、若林敬二（以上監事）、横倉輝男（以上顧問）
欠席者：理事６名、顧問１名
髙橋千恵子、秋山欣三、近藤隆、鈴木隆、瀧祐介、渡邉学（以上理事）
木苗直秀（以上顧問）

理事の出席13名、欠席６名であり、出席が過半数を超えることから、本理事会が成立する旨、説明があった。

理事会に先立ち、賀川理事より報告事項があった。

賀川理事：臨床検査技師の受験資格が今年４月から改訂され、病院での９週間程度の実習が必須となった。６年制では検討中であるが、４年制薬科学科では受験資格を引き続き維持できている。ただ予算が数千万かかるので学内での検討が必要である。薬学部で臨床検査技師が取れるのは全国で３校しかないので、これを本学の強みにしていきたいと考えている。

議題

【報告事項】

1．新代議員・新役員について

代議員37名（学生７名・地区30名）が選出された。任期は令和４年の総会から４年後の令和８年の総会終了時までが任期となる。

また、新たな理事が選出された。大澤理事が退任し、新たに瀧理事が加わった。このメンバーで令和６年の総会までが任期となる。

2．令和４年度薬学生涯研修講座について

若林監事：今回の生涯研修講座のタイトルは感染症の動向とその予防と治療をテーマにと考えている。開催方法はハイブリット、会場は静岡県立大学の小講堂または看護棟にて、基調講演は感染性ウイルスの動向とワクチンと治療薬開発の実態というタイトルで鈴木隆先生に、一般講演として、行政・病院薬剤部・調剤薬局の立場から感染症の実態についての講演やデスカッションを行いたいと考えている。行政は静岡県健康福祉部の鈴木孝典氏にお願いする。

3．静薬学友会報第90号について

コロナ関係が続いたので、少し方向を変えて思い出などに関する内容を執筆していただいた。

4．令和４年度前期薬学キャリアデザイン近藤寄附講座について

木下理事：

・今年度は学生たちと顔を合わせて講義をすることができた。

・コロナで中断していた学術研究支援も再開する。但し国内のみとする。

・進路相談会は、卒後の薬学キャリアに役立つ調査・研究会という名称で剣祭にて行う。二部制にして第一部では学生が聞きたいと希望のあった大手製薬企業の人材採用担当の方（藤田氏）にお話をしてもらうこととなった。第二部は今までの対面による進路相談会の内容で行い２時間で終わる予定。ここ２年は対面の剣祭がなかったので、１～２年生は剣祭の内容を知らない。期待して多くの学生が来てくれると思っている。

5．静岡県立大学同窓会連合会について

木下理事：毎月Ｚｏｏｍでの会議を行っている。現時点で10月29日の剣祭の当日に会合を行う予定。決まり次第学友会のＨｐにも掲載予定である。

6．学生有志との意見交換について

7．静薬学友会についての在学生の認知度等調査について

安倍会長：

６月30日に幹部と学生有志で意見交換会を行った。学生９名、理事会側５名が参加した。学友会として在学生に対し様々な活動をしていることを伝えると学生からそんなに活動してくれているとは知らなかったとの話があり、有意義な会議だった。定期的な会議の場を持つことに学生が賛成してくれた。

また認知度調査に対する意見交換を行った。それに基づき、アンケート調査表を作成した９月下旬にガイダンスがあるのでそこで調査票を配布し回収を得る。調査項目については、学友会の認知度や寄附講座の認知度であり、初めての試

みなので基本的なことにした。何年かに1回行うことで、認知度が上がれば、それは学友会の行っていることの成果だと考えられる。

賀川理事：アンケートの回収率を上げるため、教授会で周知を図る。

薬学系学生キャリア支援サポーター制度について

伊藤監事：大学でのキャリア支援がどうなっているのか調査をしている。そことのすりあわせを考えた内容に変えていきたいと考えている。名簿システムの監修はすぐできるとのことなのでホームページの会社とも検討して学生への広報の仕方など、ＯＢと学生のマッチングの方法について今年度中には検討する。

8．本年度の地区同窓会支援金について

安倍会長：今年度の地区同窓会支援金は一定のルールで配布を行っている。その地区の会費納入割合をもとに算出。2万円をベースとして2割を上乗せする。上限が12万円とする。ほぼ前年度並みとなっている。納入会費総額の約4分の1が地区同窓会支援金となっている。

9．SYGコーポレーションについて

安倍会長：昨年7月に発足した会社だが、現時点では事業報告ができない状態である。事業内容については1月の理事会には報告したいと思う。

10．事務職員の人事について

安倍会長：現在3名体制だが、1名が退職することになった。新しい事業が増えれば事務職員の仕事も増えるので効率化も検討したい。新しい職員が決まればあらためて報告する。

11．その他

地区同窓会、同門会、同期会について

来年6月4日に関西地区同窓会総会をＺｏｏｍで開催予定。また、薬造のＺｏｏｍ同門会が阿知波先生を囲んで来週の9月18日に行われる。

仲谷理事：関東はまだ対面で行うのは難しい。今回の報告事項は役員の改選なので会報を利用しての決定事項の報告をもって総会を考えている。同門会は、薬品資源学が今年もクリスマスパーティーという形でホテルグランヒルズにて対面で行う予定である。

前田理事：東海地区も例年は12月の前半に総会を行うが、対面ははばかられるので何らかの形では行いたいと思っている。具体的な話はこれから詰めていく。

【審議事項】

1．委員会の担当について

安倍会長から説明。

総務委員会の役割については正副会長で相談して分担案を作成した。学生窓口は鈴木隆理事から木下理事に主担当を変更したこと、新しく瀧理事が入ったので生涯学習の担当とした事が変更点である。

本議題については特に反対意見はなく承認された。

2．顧問の継続について

前会長横倉輝男様、元学長の木苗直秀様に顧問として次の2年間も引き続き協力いただきたい。

本議題については特に反対意見はなく承認された。

3．その他

安倍会長：Ｚｏｏｍを今後使用することが多いと思うが何か注意事項はあるか。

伊藤監事：今までと基本的には変わりないがセキュリティの関係でパスワードが必要になる場合がある。パスワードの送付のためにグーグルアカウントが必要となる場合がある。取得方法についてはチラシを作製したので参考にしてほしい。ただ、どういう場合が必要かはわからないので、その際には、事務局に問い合わせいただきたい。

岡野理事：就職の関係で報告があったことはそれでいいと思うが、生活科学検査センターも薬剤師や臨床検査技師が必要なので、その情報を届けたいと思っている。小さな事業所でも人材を希望しているところもあるので、そういうところも説明の機会があればよいと思う。

一般社団法人静薬学友会　令和4年度第3回理事会報告（要旨）

日　時：令和5年1月28日（土曜日）15：00～17：00

場　所：本部会議室（静岡県静岡市駿河区谷田52－1）

（代表理事安倍道治（会長）、理事賀川義之（副会長）は本部会議室にて出席。他理事はＺｏｏｍを用いたオンライン会合により出席）

出席者：理事14名、監事2名、顧問1名

安倍道治、髙橋千恵子、賀川義之、秋山欣三、浅井知浩、岩﨑年史、大木明代、岡野幸次、木下俊也、清水広介、瀧祐介、永吉翼、南彰、渡邉学（以上理事）

伊藤由彦、若林敬二（以上監事）

横倉輝男（以上顧問）
欠席者：理事5名、顧問1名
黒羽子孝太、近藤隆、鈴木隆、仲谷博明、前田徹（以上理事）
木苗直秀（以上顧問）

理事の出席14名、欠席5名であり、出席が過半数を超えることから、本理事会が成立する旨、説明があった。

議題

【報告事項】

1．令和4年度薬学生涯研修講座の予定について

若林監事：令和5年2月19日（日）13時から小講堂およびオンラインによるハイブリッド開催。テーマとして「近年の感染症の実態とその予防、及び治療の課題―薬学が果たす役割―」。現時点で百数十名の参加の予定。

2．静薬学友会についての在学生の認知度調査について

安倍会長：資料に従い、アンケート結果を説明した。回答率は学部学生のほとんどの学年で80％以上。アンケート結果を踏まえて検討していきたい。

3．コロナ禍における地区同窓会活動について

安倍会長：新型コロナウイルス感染症も5類扱いになることで、対面での同窓会の開催を検討している地区も増えると思われる。

4．薬学キャリアデザイン近藤寄附講座について

木下理事：アンケートの結果を見る限り、1部2部ともに開催は好評だったと思われる。次回も継続して開催したい。

5．SYGコーポレーションについて

安倍会長：どういう事業を行っていくか検討を進めている。「人材（財）育成と地域医療への貢献」をキーワードとして、何ができるかできるだけ早いタイミングで結論を出したい。

6．静岡県立大学同窓会連合会について

木下理事：1月15日にZoomで会合があったが、特に報告事項はなし。

7．事務職員の人事について

安倍会長：これまで3人体制で行ってきたが、4人体制（2人体制／日）となった。

退職：浅川佳美（昨年退職を申し出）
新任：後藤由香里（昨年11月から週2回）、片井涼子（寄附講座を担当しているが、今年から週1回学友会事務を担当）

【審議事項】

1．一般社団法人静薬学友会第6回定時総会について

安倍会長から説明。令和5年6月18日（日）に静岡県立大学の小講堂にて対面及びオンラインのハイブリッドでの開催を予定。懇親会も開催を予定。

本議題については、特に反対意見はなく、承認された。

2．令和5年度事業計画（案）

安倍会長から説明。

大木理事：他の学部に関して、入会式のようなものはあるか。また同窓会連合会と連携するなどの話はないか。剣祭のOB・OGによる進路相談会に関して、薬学部生以外の興味はどうか。

木下理事：他の学部に関してどのようになっているかはわからない。また先日の同窓会連合会のZoom会議でも特に何か行うような話はなかった。令和4年度に行った進路相談会に関しては、もし他学部の学生が来るようであれば受け入れる予定であったが、誰も来なかった。

大木理事：アパートの賃貸料など学生実習へのサポートは学友会から何かできないか。

賀川副会長：学生実習に関しては薬学部後援会から補助がある（令和元年度の資料によると一人あたり約7万円の自己負担）。

髙橋副会長：金額にもよるが、後援会のようなサポートをしても良いと思われる。出資に関して学友会、寄附講座どちらが適しているか。

木下理事：寄附講座としては学術研究的な事業へのサポートはできるが、学生実習に関しては厳しいかもしれない。

安倍会長：学友会の財政状況を見ながら今後検討していきたい。

本議題については、特に反対意見はなく、承認された。

3．令和5年度収支予算（案）

伊藤監事から説明。

本議題については、特に反対意見はなく、承認された。

一般社団法人静薬学友会　令和5年度第1回理事会報告（要旨）

日　時：令和5年5月20日（土曜日）午後3時～5時
開催場所：本部会議室（静岡県立大学はばたき棟3階　特別会議室）
静岡県静岡市駿河区谷田52－1
開催形式：ハイブリッド

（代表理事安倍道治（会長）、理事髙橋千恵子（副会長）、理事賀川義之（副会長）は本部会議室にて出席、他理事は本部会議室またはＺｏｏｍを用いたオンラインでの出席）

出席者：理事15名、監事2名、顧問1名

安倍道治、髙橋千恵子、賀川義之、岩﨑年史、木下俊也、黒羽子孝太、清水広介、瀧祐介、永吉翼、渡邉学（以上対面／理事）浅井知浩、大木明代、岡野幸次、鈴木隆、仲谷博明（以上オンライン／理事）

伊藤由彦（対面／監事）、若林敬二（オンライン／監事）

横倉輝男（オンライン／顧問）

欠席者：理事4名、顧問1名

前田徹、南彰、秋山欣三、近藤隆（以上理事）

木苗直秀（以上顧問）

理事の出席は15名、うち会場出席は10名、Ｚｏｏｍは5名、欠席は4名であり19名中15名の理事の出席で理事会が成立する旨の説明があった。また監事のうち2名出席、顧問1名出席、顧問1名欠席の報告があった。

今回はハイブリットにより開催され、互いに的確な意見交換ができることを確認した後、議事に入った。

議題

【報告事項】

1．一般社団法人静薬学友会第6回定時総会について

安倍会長より説明

開催日：令和5年6月18日（日曜日）13時30分～19時10分（懇親会終了）

報告事項は前回の理事会と変わりないが、特別講演の講師が確定した。

特別講演の講師は静岡県立大学薬学部創剤科学分野教授の近藤啓先生、座長は浅井先生にお願いしたい。

浅井理事：お受けする。

安倍会長：総会の司会は黒羽子先生にお願いしたい。

黒羽子理事：了解した。

安倍会長：総会で石川薬学部長には10分くらいのご挨拶をお願いする。

議事録作成は南理事にお願いしたい。署名人は副会長（高橋・賀川）の2名にお願いしたい。閉会のあいさつは髙橋副会長にお願いしたい。

懇親会は県立美術館1階レストラン「ロダンテラス」にて立食形式で行う。開催時刻は17時10分からに変更し、進行役は木下理事、乾杯は賀川副会長にお願いしたい。

2．令和4年度薬学生涯研修講座について

若林監事より報告

令和5年2月19日に開催した。タイトルは近年の感染症対策とその予防で、会場は県立大学小講堂とＷｅｂのハイブリット、会場参加者が30名、Ｗｅｂが170名で計200名が参加した。県外からの参加者は60名、非会員の参加者は60名だった。また今回から日本薬剤師研修センターの単位が取得可能となったが、取得者は121名だった。講演をしていただいた鈴木隆先生はじめご協力いただいた方に感謝したい。ハイブリットは県外の人も参加できるので有用と思われる。来年も同様なスタイルで行いたいと思っている。

仲谷理事：ハイブリットでやってもらったので貴重な講演を聞けて良かった。来年以降も同様な方法でやっていただけるとのことなのでありがたい。

3．薬学系就職説明会２０２３について

岩﨑理事より報告

仲谷理事に代わり今回、岩﨑理事が就職説明会を担当した。2月初旬から準備に動いた。就職説明会を対面で行うのは4年ぶりだった。

2回は中止、2回はリモートで行ったので、いろいろ試行錯誤しながら行った。事務局とも相談し、事前にＯＢ・ＯＧのプロフィールを作り、全学生に配布したことで学生も親しみやすくなり、参加し易かったかと思う。きちんとスケジュールも作ったので来年以降の参考にしていただきたい。

4月22日の午後2時から4時、薬学生対象の就職説明会を行った。会場は学生ホールと講堂の2か所で参加団体は95で参加学生は170名近くだった。ＯＢ・ＯＧブースは一番良い場所に設置して頂けたので良かった。ＯＢ・ＯＧは全部で8名参加した。ブースには70名くらい来てくれて待ちの学生もいた。ガイダンスでの宣伝効果も大きかったと思う。協力いただいたアドバイザーの方も若い方が多かった。アンケートも取ったので剣祭の参考になると良い。また春と秋の2回に説明会を行える形になるもの良いかと思う。その際に学友会をもっと宣伝することも良いかと思う。今回の説明会は成功裏にて終了した。

木下理事：多くの方が来てくれた。賀川先生が資料を作ってくれて学生に説明してくれたのが良かったと思う。

賀川副会長：全体の参加者数は174名であった。コロナ前は200名を超えていたので、それと比べれば、盛会であったとまでは言えない。内訳はＭ2と6年生の参加が少なかった。以前はＭ2と6年生がほぼ100％参加

していたが今は就職戦線が前倒しになっていてもう内定をもらっている学生もある。5年生とM1の参加はよかった。

安倍会長：剣祭との関係はどうなっているのか。

賀川副会長：剣祭は木下理事のご担当である。

渡邉理事：日病薬の希望もあり病院のブースを出すことができて良かった。また検査課のブースも出すことができ、臨床検査技師を目指す学生さんが話を聞きに来てくれた。いろいろなニーズに答えることができて良かった。

安倍会長：剣祭の進路相談会と就職説明会の役割分担を検討するため、後日、担当理事同士で話し合う場を設け、どのように内容を分けるか、軸足をどちらに置くかなどを検討していただきたい。

瀧理事：病院などでブースを出しているところは今年の就職を期待しているところもあるのでもし可能であればもう少し早い時期が良いと思っている。

4．令和4年度成績優秀者賞及び岩﨑賞の決定について

賀川副会長より報告

成績優秀者賞は教養科目も含めてすべての成績で最も優秀な者を、岩﨑賞は薬学部の専門課程において最も成績の優秀な者を選ぶ。副賞として学友会から記念品（商品券）を贈呈。

今年度受賞者は薬学科で成績優秀者賞を荻野さん、岩﨑賞を山口さん、薬化学科で成績優秀者賞を加藤さん、岩﨑賞を又吉さんに授与した。彼らには学友会報に感想を寄せてもらう。

5．第3回静薬学友会賞について（静薬学友会賞規定、募集要項案）

安倍会長より説明

静薬学友会賞は今まで2回、4年に1回の頻度で授与している。来年が選定年なのでこれから募集を始めたい（募集要項参照）。募集の締め切りは令和5年11月末で、本年度の募集分野は「①薬剤師の職能向上に大きく貢献した活動」または「②社会に大きく貢献するものを提供した研究成果」とする。それぞれ1名ずつ2名を決定したい。応募方法はホームページに掲載する。受賞者の受賞講演は6年度の総会で行い、会報に紹介することを考えている。

6．キャリアデザイン近藤寄附講座　事業報告、事業計画、会計報告

安倍会長：寄附講座は開設から4年が経過した。その間木下理事にはいろいろと尽力していただいて感謝している。事業報告／計画、会計報告までお願いする。

木下理事より報告

・講義　90分1コマの講義を7コマ、薬学部卒業生を講師として12名を招聘した。今年度は対面での開催とした。

・進路相談会　剣祭に各界で活躍する卒業生をアドバイザーとして招聘し、講演会および進路相談会を行った。また「卒後のキャリアに役立つ調査・研究会」と称して第一部・第二部に分けて対面およびZoomのハイブリットで講演会を行った。第一部は講師として大正製薬の藤田大祐氏を招聘しエントリーシートの書き方など企業側に立った内容を講義していただいた。第二部はOB・OGを12名招聘し、進路相談会を行った。参加学生は第一部59名、第二部153名だった。2時間を予定していたが時間が足りないくらいだった。

・国内外への短期留学・研修等の学術研究に係わる支援の実施

募集をかけたが応募者はいなかった。

・令和5年度講義・講師招聘

資料の内容で講師を招聘し、予定を立てている。

事業計画

・講義

6月19日の病院編ではがんセンターの梁瀬先生をお招きしている。OBではないが臨床検査技師なので現場での具体的なお話をしていただけることで学生にとっても良い講義ではないか。

・国内外の短期留学・研究等の学術研究に係わる支援

今年度は実施する予定である。募集期間は9月1日から9月30日の1回目と1月中に2回目の2回を予定している。

・卒業生による講義および進路相談会の実施

今年も剣祭の折に開催するように準備を進めている。

・収支

近藤寄附講座は14，100，000円で始まって、それぞれ令和元年は学術支援でほぼ満額使用した。2年度3年度はコロナで学術支援がなかったので100万、4年度は150万円くらい支出があった。4年度は対面で行ったため交通費がかかり少し金額が多くなった。残金は740万円である。今年はこれでスタートする。

渡邉理事：日病薬から大学に対して情報発信して欲しいと言われている。病院薬剤師会としても講師の派遣等で協力をしたいと思っているのでよろしくお願いしたい。

木下理事：検討させて頂く。

大木理事：４月の就職説明会と剣祭の進路相談会のすみ分けについて打ち合わせをする場が必要と思うが、今後どのようにしていくのか？

木下理事：今後担当者同士で検討して行きたい。

安倍会長：木下理事・岩﨑理事・仲谷理事ですみ分けについては後日相談してもらう。

7．ＳＹＧコーポレーションについて

安倍会長より報告

今年の1月になり、静岡がんセンターが処方箋を発行するので敷地内薬局の公募を行うこととなり、ＳＹＧコーポレーションとしてこれに応募することにした。その結果、幸いにも第一位の優先交渉権を取得することができた。

課題はあるが一つ一つクリアしていきたい。会社設立の目的は医療の地域貢献であり、人材育成やファルマバレーなどの一員として役に立てるのではないかと考えている。

会社が動き出すまで時間を要したが、これからも進捗状況を適宜報告しながらやっていく予定である。

高橋副会長：これからもご協力を願いたい。利益を得るための組織というよりも人材育成の場として考えている。東部の医療田園都市構想というものもあるので、地域や県全体と協力してやっていきたいと思っている。また、大学とのコラボで研究の場としても考えているし、学生の研修の場として考えている。

ただ、最低限の採算は取れないとできることもできないので、皆さんの協力を仰ぎながらやっていきたいと思っている。

安倍会長：薬局の場所は、病院と駐車場の間のスペースに4階建ての建物を立てることになる。1～2階が薬局のスペースになる予定である。構造設備としては患者の視点に立ったものとしたい。2階を談話室や地域の研修を行う場所としても考えている。

大木理事：この建物はＳＹＧコーポレーションが建てるのか、病院側が建てて薬局に貸し出すのか。

高橋副会長：県が建て、薬局が借りる形になる。

大木理事：敷地内薬局は地域薬剤師会の理解を得ないといけない案件である。地域薬剤師会とは今後話し合っていくのか。

高橋副会長：優先交渉権を得たときに県薬会長や専務理事にはお話してある。また沼津薬剤師会の会長にもお話はしてある。今後交渉が具体化してくれば地域の要望も入れながら作っていきたい。がんセンターの意見もあるので、調整しながら交渉をしていきたい。大手調剤チェーンがやるのではないという形を示せるように、様々な人たちとコラボしながらやっていきたいと思っている。

安倍会長：静岡県では県立総合病院や浜松医大が敷地内薬局を作っている。私達は、地域の拠点薬局となり、地域の薬局とともに成長できる薬局を目指している。地元の薬剤師会ともよく相談していきたいと思っている。

渡邉理事：ＳＹＧは地元の企業でもあるので地元を選んでもらったという意味ではありがたい。県内には高度医療機関連携薬局がないので、ぜひそれを目指してもらえばと思う。

8．その他

安倍会長：委員会の業務分担について

賀川薬学部長が3月で退任され、少し時間に余裕ができたと思われるので会報委員会のお手伝いをお願いしたところ快諾を得た。黒羽子先生が県大から名城大学の准教授として異動されたが、任期の途中なので続けて会報委員会の委員長を担当頂けるとのことである。

黒羽子理事：県大のほうには客員教授として残り名城大学の准教授として異動する。会報の委員会はオンラインで参加可能である。

地区同窓会総会について

安倍会長より説明

地区同窓会は年内に4地区同窓会が行われ、対面で行われる地区も3つある。

【審議事項】

1．学生代議員の新規就任について（就任　1年　田代大翔　様）

安倍会長：学生代議員の入れ替わりがあった。6年生が卒業し、新しく薬学科1年生の田代大翔さんが代議員に推薦された。6年間頑張ってくれた学生代議員の宮国大介様には学友会としてお礼を伝えたいと考えている。

本議題については、特に反対意見はなく、承認された。

2．令和４年度事業報告

安倍会長より説明

3．令和４年度決算報告

伊藤監事より説明

財産目録のとおりで流動資産が約4千万、関係株式はＳＹＧコーポレーションへの出資である。貸借対照表に記載の総資産は４７，５５８，４４４円とな

る。今年度から正味財産増減計画書（予算対比）を付けた。昨年度に比べて45万円増えている。会費納入額が若干下がってきている。同期、同門に声掛けいただき納入額を増やしていかないといけないと思われる。入会金については変動なし。支出に関しても大きく変動なし。昨年度は理事会も総会もＷｅｂで行っているが、就職説明会などは対面で行っているため交通費などで若干支出が増えてきている。ただ全体として大きく財産に変更なし。近藤基金・災害予算は動きなし。

会計監査も正しく行われている。計算書については税理士に作成してもらったものであることを付け加えさせていただく。

安倍会長：年会費の10年会費や終身会費はどういう扱いになっているのか。

伊藤監事：その年に入った分をそのまま入れている。

安倍会長：承認いただいてよいか。

本議題については、特に反対意見はなく、承認された。

4．令和５年度事業計画（１月の理事会で承認済み）

安倍会長より説明

１月の理事会後に新たに変更になった個所だけ報告する。総会の後の演者が決定した。地区同窓会の予定が入った。学生代議員と話をした。年に１回くらいは意見交換の場を設けたいと提案したところ、賛成を得られた。剣祭の場を利用して意見交換会を検討してはどうだろうか。改めて別の機会を作るのも大変かと思う。

木下理事：昨年の剣祭時に参加した学生代議員は半分であった。剣祭でなくても別に日時を決めてやったほうが学生代議員は集まりやすいかもしれない。

安倍会長：剣祭の説明会は代議員との会合の場ではなく一般学生のために行ったので、代議員も出席しなかったかと思われる。事前に話し合いの場を設けたいと連絡しておけば剣祭でもいいのではないか。

賀川副会長：以前行っていた教授会とのＺｏｏｍ懇談会の再開を今後検討いただいたほうが良いと思う。

安倍会長：そういう機会があれば良いと思う。

鈴木理事：来年度以降に検討してほしい。

なお、以前から地区同窓会に若い人の参加者が非常に少ないとのことである。在学中に地区同窓会とのつながりを学友会の方で作れないかと考えている。入学式の時に学友会の説明をし、記念品を渡しても学友会がどういうものか概念的にとらえられていない気がする。以前、入学式の後１週間後に学生ホールで地区ごとに分かれて懇親会を行っていた。その時に学生代議員の立候補者が出て、代議員になれなかった学生もコラボレーターとして学友会に関わってくれた。剣祭の時にも彼らが積極的に動いて学友会の説明会も行ったと思う。それが今の就職説明会につながっている。次回は、出身地区の先生も参加することで卒業後も学友会とのつながりを意識できるのではないかと思う。そんな風に地区の学生が結びつくことを検討してほしい。

安倍会長：コロナも終わったので検討したい。学友会の認知度も高めたいし、そのような活動を行っていきたいと思っている。

本議題については、特に反対意見はなく、承認された。

5．令和５年度収支予算（１月の理事会で承認済み）

安倍会長：１月の理事会で承認されているが、何か付け加えることはあるか。

伊藤監事：承認のとおりで変更はない。

安倍会長：大学行事援助費や生涯学習費などが令和３年度の決算に比べて予算額が大きく違うがこれはどうしてなのか。承認はされているので良いとは思うが。

伊藤監事：大学行事援助費は記念品を３年分まとめて買っている。在庫のバランスでこうなっている。

本議題については、特に反対意見はなく、承認された。

6．その他

安倍会長：すべての審議事項は以上で終了した。その他何かあるか。

渡邉理事：３月末に厚生労働省から薬剤師偏在指標が発表されている。薬剤師の勤務状態を実態調査したものだが静岡県は薬剤師の充足率が全国ワースト８位でかなり悪い。県や病院薬剤師会が何とかしなければと動き出している。地元の薬学部に対しても何らかの協力をお願いしたいという話が出るかもしれない。

仲谷理事：就職説明会に関して以前学生がＯＢ／ＯＧから話を聞くのに年間を通してそういう機会を設けてほしいという要望があった。学生から企業の話を聞きたいという希望があればＯＢ／ＯＧを紹介する仕組みを充実させるという話があったが、その後どうなっているのか伺いたい。

安倍会長：薬学系学生キャリア支援サポーター制度は、引き続き具体的な検討を進めていきたい。

清水理事：日本薬学会総会が対面で行われた際は、学友会の会員が結構集まっていた。懇親会にも結構人が集まっていた。県人会などは結構つながりが強いのでそういうものをサポートしながら人とのつながりを作るのはいいのかなと思った。九州人会などは結構頑張っている。

鈴木理事：コロナで途切れたが、以前は、学生が入学直後に出身者同士が交流を持てるような集まりを行っていた。九州人会や北海道人会が頑張っていた。

黒羽子理事：出身者同士の繋がりを、学生さんを巻き込んで復活させていけたらいいし、学友会からもサポート出来たら良いかと思う。

安倍会長：最後に、第3回学友会賞の選考委員の賀川先生・浅井先生・鈴木隆先生には応募があった後の対応として学友会賞受賞者の選定をお願いする。担当委員の先生方には、よろしくお願いしたい。

以上により終始不都合なくZoomを用いたオンライン会合による理事会は終了した。

一般社団法人静薬学友会　第6回定時総会報告（要旨）

日　時：令和5年6月18日（日曜日）13：30～15：00

場　所：本部会場（静岡県立大学　小講堂）

開催形式：ハイブリッド

理事 安倍道治（代表理事）、理事 髙橋千惠子（副会長）、理事 賀川義之（副会長）は会場にて出席、代議員および他理事は会場またはZoomを用いたオンラインでの出席

出席者：

【代議員23名】会場での出席7名、Zoomでの出席16名

多田義孝、中村和重、松浦大輔、内田信也、大木明代、清水広介、池田潔

〔以上会場〕

田代大翔、五十嵐千乃（学生代議員）、水島教之、三坂眞元、本島玲子、加藤彩香、佐藤泰士、勝山善彦、益岡尚由、石井めぐみ、田中喜久夫、田中大智、星野有吾、河本光宏、岩﨑綾乃、井上泰秀〔以上Zoom〕

【理事16名】会場での出席14名、Zoomでの出席2名

安倍道治、髙橋千惠子、賀川義之、浅井知浩、岩﨑年史、大木明代、岡野幸次、木下俊也、黒羽子孝太、清水広介、瀧祐介、永吉翼、南彰、渡邉学〔以上会場〕

仲谷博明、前田徹〔以上Zoom〕

【監事2名】会場での出席2名　伊藤由彦、若林敬二

【顧問】Zoomでの出席1名　横倉輝男

【会員】瓦屋秀治（S53卒）、水野真吾（1年生）

欠席者：

【代議員14名】

熊谷拓也、猪又健吾、秋田直杜、山田遥香、城泰暉、中村和重、杉井邦好、

石原由美、内田貴啓、高橋忠伸、松崎雅英、笠井智代、松田通明、中山大輔

【理事3名】

秋山欣三、近藤隆、鈴木隆

【顧問1名】

木苗直秀

本総会は、ハイブリッドにより行われ、出席者が一堂に会するのと同等に司会の黒羽子理事より、オンライン参加者が適時・的確な意見表明が互いにできる状態となっていることが確認され、議事に入った。

安倍代表理事より、代議員37名中、出席は23名、うち会場での出席は7名、Zoomでの出席は16名であり出席が過半数を超えることから、本総会が成立する旨説明があった。代議員の欠席は14名であった。

開催にあたり、安倍代表理事、および石川智久薬学部長より挨拶があった。

総会議題

司会を黒羽子理事、議事録作成を南理事、議事録署名人を賀川理事、及び髙橋理事が担当することについて、特に反対意見はなく、了承された。

【報告事項】

1．令和4年度事業報告

安倍代表理事より令和4年度の事業報告があった。

本議題については、特に反対意見はなく、了承された。

2．令和5年度事業計画

安倍代表理事より令和5年度の事業計画の報告があった。

本議題については、特に反対意見はなく、了承された。

3．令和5年度収支予算

伊藤監事より令和5年度の収支予算の報告があった。

本議題については、特に反対意見はなく、了承された。

4．薬学キャリアデザイン近藤寄附講座

木下理事より薬学キャリアデザイン近藤寄附講座の令和４年度事業報告、令和５年度事業計画、令和４年度会計に関する報告があった。

本議題については、特に反対意見はなく、了承された。

5．その他

⑴　静薬学友会賞について

安倍代表理事より、静薬学友会賞の授与に関する今後の計画について報告があった。具体的には、静薬学友会賞を授与する機会を４年に一度設けており、来年が４年目の年に当たるため受賞者を募集することや、「薬剤師の職能に寄与した方」、「社会に大きく貢献する研究成果を挙げた方」を対象として各１名、計２名に授与する計画が報告された。募集要項は本総会終了後にＨＰやメール、会報等で周知することや、締め切りは11月末を予定していること、年度内には受賞者を決定し来年度の総会において受賞講演を行うこと、などの予定が報告された。

本議題については、特に反対意見はなく、了承された。

⑵　ＳＹＧコーポレーションについて

安倍代表理事より、ＳＹＧコーポレーションのこれまでの活動や今後の運営方針と計画について報告があった。

具体的には、ＳＹＧコーポレーションは、大学と学友会の交流を超えて地域医療との関りを深めることを意図して、静薬学友会と、わかくさ調剤薬局を運営する髙橋副会長とが２０２１年７月に共同で設立したことや、ＳＹＧは静薬学友会の略であることなどが紹介された。地域医療に貢献するために、今後のＳＹＧコーポレーションの事業展開として薬局経営が一つの選択肢に挙げられることや、医薬分業に伴う薬局の高い充足率に十分に配慮した上で既存薬局との差別化を図り、薬剤師会との連携を基盤とした地域医療の向上に資するものでなくてはならない旨説明があった。このような視点に立ち、薬局開設について検討を重ねていたところ、本年１月に静岡がんセンターが敷地内薬局を公募することとなり、非常にチャレンジングな課題となるが、これに応募したところ、幸いにも第１位の優先交渉権を得た。

続いて、髙橋副会長より、現在契約に向けて交渉を行っていることや、静岡がんセンターや薬剤師会、大学、ファルマバレーセンターと連携して地域医療や薬剤師の資質向上に貢献できる薬局を作る方針が説明された。

河本代議員より、ＳＹＧコーポレーションについて、教育に対する期待と地域薬局に対する配慮について問い合わせがあった。

安倍代表理事より、薬局開設の目的の一つに人材育成があり、具体的には大学との連携を取りながら学生を受け入れることや、卒業生をレジデントとして本薬局で受け入れ薬物治療等を学ぶ機会を提供する等を考えている旨、説明があった。地域薬局と異なる点として、研修会の場を地域の薬剤師に提供し、がん薬物治療のノウハウを提供することや、無菌室の共同利用を考えていることが説明された。また、地元の薬剤師会と十分な協議の上で処方箋を独占することなく、地域の拠点薬局の役割を目指す方針が説明された。

本議題については、特に反対意見はなく、了承された。

【審議事項】

1．令和４年度決算報告

伊藤監事より令和４年度決算報告書案について説明があった。

河本代議員より、受取入会金が計画より少ない理由について問い合わせがあった。伊藤監事より、受取入会金の額は入学者数に応じたものであり、ほぼ全員が入会している旨説明があった。

安倍代表理事より、37名全代議員から事前に議決権の行使が行われ、全員の承認をいただいている旨、報告があった。

本議題については、特に反対意見はなく、承認された。

2．その他

安倍代表理事より、静薬学友会の活動について要望や意見が参加者に求められたが、特に参加者からの発言は無かった。

閉会にあたり、髙橋副会長より挨拶があった。

以上により終始異常なくハイブリッドによる総会は終了した。

☆報告の詳細を知りたい方は、静薬学友会のホームページをご覧ください

決　算　報　告　書

第　5　期

自　令和4年 4月 1日

至　令和5年 3月31日

一般社団法人　静薬学友会

静岡県静岡市駿河区谷田５２番地１

貸　借　対　照　表

一般社団法人　静薬学友会
全事業所

［税込］（単位：円）
令和5年 3月31日 現在

	《資産の部》		
【流動資産】			
（現金・預金）			
現　　金	5,903		
普通　預金	39,552,541		
現金・預金 計	39,558,444		
流動資産合計		39,558,444	
【固定資産】			
（投資その他の資産）			
関係会社株式	8,000,000		
投資その他の資産　計	8,000,000		
固定資産合計		8,000,000	
資産合計			47,558,444
	《負債の部》		
【流動負債】			
未　払　金	243,896		
預　り　金	6,368		
未払法人税等	71,000		
流動負債合計		321,264	
負債合計			321,264
	《正味財産の部》		
前期繰越正味財産		46,786,009	
当期正味財産増減額		451,171	
正味財産合計			47,237,180
負債及び正味財産合計			47,558,444

財　産　目　録

一般社団法人　静薬学友会　　［税込］（単位：円）
全事業所　　令和5年 3月31日 現在

《資産の部》			
【流動資産】			
（現金・預金）			
現　　金	5,903		
普通　預金	39,552,541		
静岡銀行　草薙支店　0934106	(9,451,299)		
郵便局　二三八　5637782	(289,271)		
清水銀行　美術館前　2192429	(637,325)		
郵便振替口座	(452,045)		
静岡銀行　無利息型　0963316	(26,780,540)		
住信SBIネット銀行	(1,942,061)		
現金・預金 計	39,558,444		
流動資産合計		39,558,444	
【固定資産】			
（投資その他の資産）			
関係会社株式	8,000,000		
投資その他の資産　計	8,000,000		
固定資産合計		8,000,000	
資産合計			47,558,444
《負債の部》			
【流動負債】			
未　払　金	243,896		
預　り　金	6,368		
未払法人税等	71,000		
流動負債合計		321,264	
負債合計			321,264
正味財産			47,237,180

正味財産増減計算書

［税込］（単位：円）
一般社団法人　静薬学友会　　自 令和4年 4月 1日　至 令和5年 3月31日

	一般会計	近藤基金	災害支援基金	総合計
【経常収益】				
【受取会費】				
正会員受取会費	3,644,000			3,644,000
受取入会金	5,480,000			5,480,000
【受取寄付金】				
受取寄付金	10,000			10,000
【その他収益】				
受取　利息	97		6	103
雑　収　益	120,000			120,000
経常収益　計	9,254,097	0	6	9,254,103
【経常費用】				
【事業費】				
広報名簿事業費	700,711			700,711
会報発行費	1,460,699			1,460,699
退官記念事業費	100,050			100,050
大学行事援助費	650,548			650,548
生涯学習費	415,847			415,847
就職説明会参加費	322,830			322,830
慶弔費	42,000			42,000
渉外費	65,120			65,120
会員支援活動費	605,000			605,000
事業費　計	4,362,805	0	0	4,362,805
【管理費】				
（人件費）				
給料　手当	2,892,762			2,892,762
法定福利費	8,552			8,552
人件費計	2,901,314	0	0	2,901,314
（その他経費）				
会　議　費	475,543			475,543
通信運搬費	91,175			91,175
消耗品　費	274,231			274,231
水道光熱費	32,144			32,144
地代　家賃	3,690			3,690
新聞図書費	8,150			8,150
租税　公課	1,650			1,650
支払手数料	581,230			581,230
その他経費計	1,467,813	0	0	1,467,813
管理費　計	4,369,127	0	0	4,369,127
経常費用　計	8,731,932	0	0	8,731,932
当期経常増減額	522,165	0	6	522,171
【経常外収益】				
経常外収益　計	0	0	0	0
【経常外費用】				
経常外費用　計	0	0	0	0
税引前当期正味財産増減額	522,165	0	6	522,171
法人税、住民税及び事業税	71,000			71,000
当期正味財産増減額	451,165	0	6	451,171
前期繰越正味財産額	11,367,600	34,781,090	637,319	46,786,009
次期繰越正味財産額	11,818,765	34,781,090	637,325	47,237,180

静薬学友会中国地区同窓会総会・講演会開催のお知らせ

会員の皆様方にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は静薬学友会の活動にご理解・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。さて、下記の通り、中国地区同窓会総会を開催いたします。この機会に地域や世代間の交流を図り、再び静薬学友会の絆を深められたら幸いです。皆様お誘い合わせの上ご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

日　時：令和５年11月12日（日）12時30分～17時00分
会　場：広島ガーデンパレス　JR広島駅から徒歩約５分

＜総　会＞12時30分～13時00分

「静薬学友会の近況」　安倍道治　一般社団法人静薬学友会会長（昭和46年卒）
「静岡県立大学の近況」　山田静雄　静岡県立大学薬学研究院付属薬食研究推進センター長／特任教授　（昭和46年卒）
「中国地区の活動について」　池田　潔　中国地区同窓会代表（昭和54年卒）

＜講演会＞13時00分～15時00分

講　師：静岡県立大学薬学研究院付属薬食研究推進センター長／特任教授
山田静雄先生（昭和46年卒）
演　題：「総合医療と機能性食品」
講　師：広島国際大学薬学部　教授　中島正光先生（漢方医・西洋医）
演　題：「１時間でわかる漢方：天気病は漢方で素人でも治せるんだ！知らなかった」
（家族親戚、友人に、薬局で、病院で使える知識）
講演会終了後　質疑応答

＜懇親会＞15時30分～17時00分

参加費：4,000円（当日集めてさせていただきます。※お子様無料）
【懇親会割引特典】
●会員さんをもう１人連れてきてくれたら割引：6,000円（お二人で）
●ご夫婦割引：6,000円（お二人で）
ご参加いただける方は静薬学友会ホームページより令和５年11月５日（日）までにお申込みください。
※メールにてお申し込みも受付ております。①名前　②卒業年次　③在住地区　④懇親会参加の有無　⑤メッセージ等をご記入ください。E-mail：ikeda@hirokoku-u.ac.jp

★問い合わせ先
中国地区同窓会代表：池田　潔
広島国際大学薬学部薬学科
TEL・ＦＡＸ：0823-73-8936
★一般社団法人静薬学友会
TEL 054-265-8763　FAX 054-265-8769
事務在室時間　月～金曜日 10時～15時
（在室時間以外は留守番電話にて対応いたします）
E-mail：shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp
一般社団法人静薬学友会ホームページ　http://shizuyaku.jp

静薬学友会関東地区同窓会主催
「懇親とネットワーキングの集い」のお知らせ

関東地区同窓会では、日本薬学会第144年会の最終日に、関東地区在住・在勤に限らず、**どなたでも**ご参加いただける懇親会を企画しました。薬学会に参加されている現役教員や旧教員、あるいは関東在住の退職された先生方にも広く参加をお願いし、恩師や研究室の仲間と旧交を温めるとともに、新たな出会いや、ちょっと得する情報を得られる場となるよう準備を進めています。
薬学会が開催されるパシフィコ横浜はもちろん、商業・観光施設にも近い会場をご用意しています。
薬学会に参加するかたも、参加予定のないかたも「来てよかった」と思っていただける集いにいたしますので、皆さまお誘いあわせのうえ、奮ってご参加ください！

【日時】 2024年３月31日（日）16:30～19:00（予定）
※16:00～16:30に関東地区総会を開催予定です。

【場所】 TKPガーデンシティPREMIUM みなとみらい（予定）
（横浜市西区みなとみらい3-6-3 MMパークビル５階
みなとみらい線　みなとみらい駅４a 出口より徒歩１分）

【対象】 静岡薬科大学・静岡県立大学薬学部の同窓生、大学生・大学院生および現役教員・旧教員

【会費】 5,000円（大学生・大学院生に限り2,000円）※当日、受付で頂戴します。
※子どもの同伴可（高校生までは無料）

【申込】 最終締め切りは３月15日を予定しておりますが、参加者数の事前把握のため、まずは静薬学友会ホームページに掲載した参加予約フォーム、または右のQRコードより11月30日までにご登録ください。
※静薬学友会ホームページ　http://shizuyaku.jp

【問い合わせ先】 関東地区同窓会代表　本島 玲子
E-mail kantouchiku@mbr.nifty.com

※詳細や最新情報は学友会ホームページに掲載していきますので必ずご確認ください。

第３回 静薬学友会賞 候補者募集について

静岡県立大学薬学部同窓会（静薬学友会）では、会員相互の親睦と学識及び職能の向上を図るとともに、静岡県立大学薬学部及び大学院薬学研究院の発展に貢献し、併せて社会に寄与することを目的に、会員の顕著な功績を表彰し、今後の活躍を奨励する「静薬学友会賞」の候補者を下記の要領で募集します。

募集要項

１．資　　格

⑴　原則として令和６年４月１日現在で５年間以上継続して（静岡県立大学薬学部または大学院薬学研究科（院）に在籍していた期間も含む）静薬学友会の会員であること（自薦・他薦可）。

⑵　令和６年４月１日現在で静薬学友会の理事に相当する者が応募する場合、本賞の表彰選考委員会から除外する。

⑶　本応募時に、静薬学友会の会費を納入した会員であること。

２．対象とする業績

個人またはグループ（募集資格に該当する者に限る）に対して、薬学、薬事に関連した分野またはその他の分野に関して優れた業績を表彰する。本年度の募集分野は「①薬剤師の職能向上に大きく貢献した活動」または「②社会に大きく貢献するものを提供した研究成果」とする。

３．応募方法

下記応募書類を書留便で、下記の本会事務局までお送りください。

⑴　本会所定の応募申請書　１部

⑵　募集分野に関する主たる業績（学会誌、業界紙、学術雑誌の論文、報告、記事、メディア報道など）の別刷およびその参考となる資料のコピー　最大５つまで　各１部

⑶　応募書類の継続５年以上の本会会員である欄にチェックしてください。

４．審査方法

当会で設置した表彰選考委員会において選考し、理事会で決定する。

５．締　　切：令和５年11月末日（消印有効）

６．受 賞 件 数：２件程度（賞状、副賞）

７．受賞者の決定：令和６年１月

８．授　賞　式：令和６年度　静薬学友会　総会（６月）

９．受 賞 講 演：令和６年度　静薬学友会　総会

10．そ の 他

⑴　応募申請書は静薬学友会ホームページからダウンロードしてください。応募申請書を郵送希望の場合は切手140円分を添えて下記連絡先まで請求してください。

⑵　応募書類の送付、照会は下記連絡先にお願いします。

⑶　応募書類は、返却しません。

⑷　受賞者の氏名、受賞テーマは本会のホームページに掲載します。

⑸　受賞者には、静薬学友会　総会（６月）にて開催される授賞式への出席ならびに受賞講演をお願いしております。また、静薬学友会報への原稿執筆をお願いします。

連絡先

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1　静岡県立大学内　一般社団法人静薬学友会
Mail：shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp　電話（054）265-8763　FAX（054）265-8769

一般社団法人静薬学友会　代議員（37名）

地区別50音順　敬称略
※　地区代表を兼ねる

氏　名	卒業・修了年(学生は学年)	地　区	氏　名	卒業・修了年	地　区
田代　大翔	薬科学科1年	学生	杉井　邦好 ※	昭和55年	静岡県
城　泰暉	薬学科2年	学生	伊藤　めぐみ	平成15年	静岡県
熊谷　拓也	薬科学科3年	学生	石原　由美	昭和57年	静岡県
山田　遥香	薬学科4年	学生	内田　信也	平成5年	静岡県
秋田　直杜	薬学科5年	学生	内田　貴啓	平成25年	静岡県
五十嵐　千乃	博士前期課程	学生	大木　明代	昭和62年	静岡県
猪又　健吾	博士後期課程	学生	清水　広介	平成13年	静岡県
水島　教之 ※	昭和54年	北海道	高橋　忠伸	平成11年	静岡県
三坂　眞元 ※	平成16年	東北	田中　喜久夫	昭和59年	静岡県
本島　玲子 ※	昭和58年	関東	田中　大智	平成28年	静岡県
加藤　彩香	平成26年	関東	星野　有吾 ※	平成13年	東海
佐藤　泰士	平成5年	関東	松崎　雅英	昭和60年	東海
関本　征史	平成8年修了	関東	笠井　智代	平成18年	東海
多田　義孝	平成1年	関東	松田　通明 ※	平成2年	関西
中村　和重	平成4年	関東	河本　光宏	昭和57年	関西
松浦　大輔	平成1年	関東	岩﨑　綾乃	平成4年	関西
勝山　善彦 ※	昭和57年	長野県	池田　潔 ※	昭和54年	中国
益岡　尚由 ※	平成15年	北陸	井上　泰秀 ※	昭和59年	四国
			中山　大輔 ※	平成8年	九州・沖縄

一般社団法人静薬学友会　役員（23名）

50音順　敬称略

氏　名	卒業年	役　職	氏　名	卒業年	役　職
安倍　道治	昭和46年	代表理事　会長	清水　広介	平成13年	理　事
髙橋　千恵子	昭和51年	副会長	鈴木　隆	昭和54年	理　事
賀川　義之	昭和58年	副会長	瀧　祐介	平成12年	理　事
秋山　欣三	昭和56年	理　事	仲谷　博明	昭和45年	理　事
浅井　知浩	平成9年	理　事	永吉　翼	平成12年	理　事
岩﨑　年史	昭和46年	理　事	前田　徹	昭和61年	理　事
大木　明代	昭和62年	理　事	南　彰	平成12年	理　事
岡野　幸次	昭和57年	理　事	渡邉　学	平成7年	理　事
木下　俊也	昭和53年	理　事	伊藤　由彦	平成14年	監　事
黒羽子　孝太	平成8年	理　事	若林　敬二	昭和46年	監　事
近藤　隆	昭和46年	理　事	横倉　輝男	昭和40年	顧　問
			木苗　直秀	昭和40年	顧　問

編集後記

１９８３年卒（27期生）の賀川です。当薬学部の教員をしています。一昨年、サッカー部の山田滋久先輩が突然亡くなられました。たまに静岡に来られた際に食事をご一緒しましたが、お元気そうだったので驚きました。山田さんには学生向けに臨床開発に関する講義をお願いする予定でしたが、叶わず残念でなりません。山田さんの逝去後、コロナ禍で追悼会を開催できずにいましたが、今年になってコロナ感染も一段落した3月にサッカー部有志で追悼会を行いました。1年後輩の野中稔さんが事務作業をすべて引き受けてくれ、先輩・後輩に連絡を取ってくれたおかげで北海道から兵庫県まで15人が集まり、みんなで生前を偲びました。生前を偲ぶと言っても、サッカー部の2次会に使っていた北海苑という焼肉屋に集まり、ワーワー・ガヤガヤと当時の想い出を語りながら、楽しく明るく山田先輩を見送りました。山田さんは大阪人で、楽天的で「まあ、ええやんか」とチームの調子が悪いときでもポジティブにサッカー部を引っ張ってくれました。山田さんの4年次には、強面の朝比奈由和先輩、破壊力満点の瀬戸博幸先輩、ヤンキーな鈴木直人先輩と見事な対照をなし、関西薬学連合（関薬）を準優勝に導いていただきました。決勝戦で初めて味わった草薙サッカー場の芝生グラウンドの感触は今も忘れません。また、当時から40年以上経ちますが、北海苑は当時のマスターとおかみさんが今も現役で経営しておられ、タイムスリップしたような感じになりました。時間経過を忘れ、楽しいひとときを過ごすことができました。ただ、当時と大きく変わったのは、我々の髪の毛の量です。40年前、サッカー部でパンチパーマが流行っていましたが、私を含め何人かは今では髪の量が少なくパンチパーマは無理でしょう。

さて、コロナ禍の影響で人と直接接する機会が少なくなりましたが、現役の学生にはクラブ・サークル活動などを通して人とのふれ合いを深め、生涯忘れられない想い出を作ってもらいたいと思います。

最後になりましたが、学友会報の発行にあたり、ご尽力賜りました編集担当の黒羽子孝太委員長、並びに静薬学友会事務局の方々に厚くお礼申し上げます。

会報編集委員　賀川義之（昭和58年卒）

ご寄付のご報告

太田善三　様（昭和三十三年卒　元東北支部長　令和元年7月逝去）
一万円
故太田善三様のご遺族様（奥様）よりご寄付を頂きました。

訃　報

次の方が逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

味村　登　様（静岡県立大学名誉教授）　令和三年十一月十四日　逝去
鈴木　健介　様（元静薬学友会会長　昭和三十三年卒）　令和四年十二月五日　逝去
山崎　泰志　様（昭和四十七年卒）　令和五年一月二十八日　逝去
久米澤正樹　様（昭和四十五年卒）　令和五年三月二十六日　逝去
大澤　勝一　様（元静薬学友会理事　昭和五十九年卒）　令和五年九月十六日　逝去

会報担当
委員長　黒羽子孝太（平成8年卒　理事）
委　員　賀川　義之（昭和58年卒　理事　薬学部　臨床薬剤学分野）
委　員　浅井　知浩（平成9年卒　理事　薬学部　医薬生命化学分野）
委　員　南　彰（平成12年卒　理事　薬学部　生化学分野）
委　員　伊藤　由彦（平成14年卒　理事　薬学部　薬食研究推進センター）
委　員　大木　明代（昭和62年卒　理事）
委　員　安倍　道治（昭和46年卒　代表理事／会長）

静薬学友会報　第91号　令和五年十月一日発行
発行者　一般社団法人静薬学友会
〒422-8526　静岡市駿河区谷田五二―一
TEL　〇五四―二六五―八七六三
FAX　〇五四―二六五―八七六九
メールアドレス　shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp
ホームページアドレス　http://shizuyaku.jp

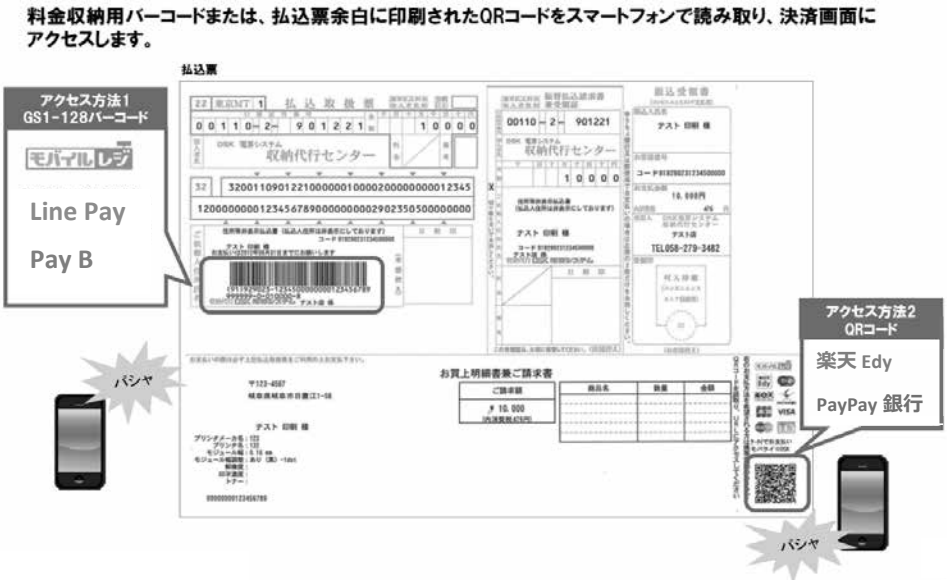
正会員の皆様へ　会費納入のお願い

一般社団法人静薬学友会の運営は皆様の貴重な年会費で賄っております。具体的には、静岡県立大学薬学部の教育研究に対する支援事業、会員の住所管理や HP の運営、生涯研修の実施、会報発行、地区同窓会活動への支援など、多岐にわたる同窓会活動に使用させていただいております。しかしながら、近年納入率が 20%台にとどまっており、法人といたしましては今後一層事業の拡大を図るためにも、皆様のさらなるご理解とご協力をお願いする次第です。本部としましては、毎年の納付手続きが不要な１０年会費や終身会費の納入をお勧めいたします。また、寄付金(一般)につきましても、金額の多少にかかわらず、謹んでお受けいたしますので、ご意志のある方は静薬学友会事務局までご連絡下さい。

（問い合わせ先　静薬学友会 事務局 電話 054-265-8763、Ｅメール shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp）

【会費の納入方法】

1. **クレジットカード決済**
   静薬学友会ホームページ（http://shizuyaku.jp）の「マイページ」（会費支払・各種お申込み）から納入していただけます。
2. **郵便局から振込用紙を利用して納入**
   同封の振込用紙にて郵便局窓口および郵便ＡＴＭから納入していただけます。
   ※10 年会費および終身会費は、振込金額を二重線で訂正することにより郵便局窓口にて納入していただけます。
3. **コンビニエンスストアから振込用紙を利用して納入**
   同封の振込用紙にてコンビニエンスストアから年会費を納入していただけます。（納入期限 令和６年３月 31 日）
4. **モバイル決済**
   同封の振込用紙に印字されたバーコードおよびＱＲコードにて、年会費を納入していただけます。
   （納入期限 令和６年３月 31 日）



		会費の種類		
		年会費（2,000 円）	10 年会費（20,000 円）	終身会費（50,000 円）
納入方法	１．クレジットカード決済	○	○	○
	２．郵便局	○	○	○
	３．コンビニエンスストア	○	×	×
	４．モバイル決済	○	×	×

大石 崇秀
大川 知子
大月 昭子
10年 尾形 和美
尾形 有規
終身 岡本 典子
喜好 昭彦
栗田 晃伸
小代田 宗一
島田 和彦
榛葉 亜由美
鈴木 啓子
終身 鈴木 太嘉栄
鈴木 登紀子
住井 直美
竹入 章
谷本 倫子
終身 築本 美喜子
長尾 明美
（修士） 長澤 晋吾
中薗 裕子
終身 中村 和重
新田 茂彦
福原 実
福原 裕子
藤江 直人
終身 藤本 勝博
増崎 詞子
（修士） 三澤 江里子
終身 望月 由木子
平成5（1993）年卒
安部 紳一
10年 阿部 庸江
終身 磯部 雄司
植田 喜一郎
終身 内田 信也
大道 克裕
小澤 紀子
影山 知子
梶田 剛
河島 知子
10年 佐藤 泰士
終身 神野 文宏
（修士） 杉本 憲昭
高本 英治
中村 光博
中村 理子
終身 名和 秀起
西村 慎也
本多 達也
平成6（1994）年卒
終身 飯田 海保
池谷 祐児
大城 まゆみ
櫻井 幹也
高井 奈美
終身 富永 民雄
仲地 剛
西島 秀明
野澤 美保
終身 山中 章弘
渡邉 学
渡邉 佳子
平成7（1995）年卒
青 太己子
内田 恵
終身 梶山 史康
終身 川口 典子
川崎 由紀
終身 木村 冬樹
小西 宏治
茅野 大介
終身 滑川 加織
水口 英明
終身 村尾 英俊
終身 山本 裕一
10年 横山 由斉
吉田 友子
渡邉 啓子
渡邉 学
平成8（1996）年卒
10年 石渡 潮路
終身 川合 真由美
終身 黒羽子 孝太
終身 佐久間 文誉
終身 塩澤 みさ江
終身 清水 千晴
10年(修士)関本 征史
竹村 純子
中山 大輔
終身 丸山 健
（博士） 三浦 進司
平成9（1997）年卒
浅井 知浩
石井 祐香
大谷 直美
小林 正典
終身 佐久間 宏行
終身 佐藤 扶由子
関 由希子
終身 丹治 麻希
中田 智雄
山下 和香子
終身 山本 恵子
平成10（1998）年卒
終身 大久保 志保
終身 大澤 美由紀
木村 芳子
後藤 こま希
10年 出羽 歩美
終身 野寄 秀明
終身(修士)林 秀樹
10年 山崎 亮
平成11（1999）年卒
浦上 武雄
栗田 拓朗
小林 由紀子
清水 忠司
高橋 忠伸
深津 英人
終身 福田 達也
村田 周子
村田 隆之
横田 崇
平成12（2000）年卒
10年 石川 裕子
終身 板持 雅恵
終身 大久保 努
（修士） 柏木 健司
菊池 保正
終身 関口 祐史
10年 瀧 祐介
終身 長瀬 邦彦
10年 中西 美智
10年 永吉 翼
仁尾 泰徳
堀 靖代
終身 南 彰
村瀬 良朗
平成13（2001）年卒
石川 智之
岩坪 沙奈恵
終身(修士)勝又 孝
終身 清水 広介
高橋 麻由子
田川 真由
星野 有吾
山田 由香
吉田 梨沙
若尾 晃一
平成14（2002）年卒
10年 浅川 倫宏
伊藤 由彦
川合 大介
久保田 陽子
笹 靖昇
真野 英里子
村本 千尋
平成15（2003）年卒
伊藤 めぐみ
稲垣 芳文
終身 大西 真央
10年 緒方 亜希子
終身 刀坂 泰史
終身 清水 直美
10年 正野 厚子
終身 鈴木 寛
終身 高久 修司
中島 聡子
10年 中村 ほなみ
林 豪士
平野 裕子
10年 益岡 尚由
山岡 麻衣子
山本 麻里子
平成16（2004）年卒
終身 岡崎 浩一
奥山 大輔
終身 小黒 聡史
終身(修士)北尾 有樹子
米谷 節代
終身 瀧 優子
終身 永吉 旭土
疋田 智也
三坂 眞元
平成17（2005）年卒
高木 友里
平井 啓太
10年 本多 正樹
松岡 温名
村上 涼子
10年 村田 敏拓
平成18（2006）年卒
井上 直樹
10年(修士)上原 裕
河村 美香
栗原 孝昌
千葉 健人
富田 比菜
（博士） 林 哲男
茂木 大地
平成19（2007）年卒
終身 世戸 孝樹
10年 田中 紫茉子
終身 鶴田 修
10年 根建 悠希
兵頭 正員
10年 総崎 克哉
終身 和久田 浩一
渡邉 歩
平成20（2008）年卒
相曽 健一
終身 天野 祥吾
終身(博士)今中 宏真
岩田 皓生
終身 内本 武亮
遠藤 康平
終身 尾崎 園子
鎌田 修二
10年 佐藤 秀行
佐藤 紘彰
鈴木 早江子
高倉 惇
田野井 隆
10年 藤原 理恵
平成21（2009）年卒
岩佐 陽介
宇都宮 崇広
終身 遠藤 良佑
紅林 佑希
椎野 甲斐
終身 新庄 慧
終身 中西 勝宏
平成22（2010）年卒
（修士） 青木 裕希子
終身 大内 仁志
終身 髙田 俊介
新谷 亮
平成23（2011）年卒
井出 和希
終身 山口 桃生
終身(修士)横山 智紀
平成24（2012）年卒
終身 内田 淳
川岸 佐和子
終身 坪井 絢香
終身(修士)豊泉 樹一郎
終身 長澤 豊
終身 成島 悠太
終身 三浦 基靖
終身 矢吹 晴一郎
平成25（2013）年卒
終身 内田 貴啓
終身 大滝 俊也
竹下 由布子
時任 正和
終身 中川 由紀子
終身 福田 達也
藤山 みなみ
森 敬介
渡邉 雄一
平成26（2014）年卒
井上 祐希江
上原 将士
（博士） 柏倉 康治
終身 加藤 彩香
終身 外山 真衣
終身 成田 雄大
若宮 紀子
平成27（2015）年卒
終身 小山内 崇人
10年 佐藤 晶彦
鈴木 美帆
終身 古谷 恵理
水野 春花
横田 将史
平成28（2016）年卒
（博士） 加島 宗
終身 清水 聡史
田中 大智
終身 鶴田 聡志
西尾 隆佑
終身 丹羽 智紀
終身 福田 匡貴
藤田 将司
終身 山田 友香
平成29（2017）年卒
川崎 温子
鈴木 光路
終身 曽根 早織
終身 前田 久美子
南 哲平
10年 横井 茉里
平成30（2018）年卒
天池 優斗
公文 皆成
杉本 光輝
終身 沼子 将大
山田 幸平
平成31（2019）年卒
江間 千裕
加藤 良浩
佐々木 孝彰
鈴木 結衣
田部 美紗子
多良 勇輝
終身 平井 奈々
令和2（2020）年卒
木村 爵
坂井 宥哉
清水 大雅
終身 芹澤 環
田平 浩祐
恒松 弘基
終身 中川 篤毅
西家 侑生
萩原 諒也
（博士） 平澤 亙
増田 彩香
令和3（2021）年卒
鎌田 淳史
終身 菊池 理保子
（博士） 齋藤 昌良
外松 沙依
高田 慎一朗
東 徹
古畑 龍
（博士） 宮本 浩平
令和4（2022）年卒
粟飯原 りりか
安部 由記
天野 滉基
天野 美歩
有賀 紫乃
井内 彩乃
池谷 裕光
（修士） 石田 敬士
石塚 美帆
市川 理恵子
今江 陽
（修士） 上野 芳敬
海野 瑞紀
大瀧 日向子
大竹 佑
大坪 海波
片平 実沙
勝又 千裕
加藤 里菜
川口 茉莉香
河田 紗和
菊間 史也
木下 静菜
木下 希
古賀 勇輝
小谷 拓也
小玉 千佳
佐野 歩
椎名 琴女
嶋 美月
（修士） 進藤 貴裕
杉山 右京
鈴木 和佳奈
砂川 由香理
髙田 真子
高橋 日菜子
高安 峻矢
槌谷 佳那子
角田 賢哉
坪井 絵乃
寺尾 龍哉
中井 研壱
永井 日菜
永田 季穂
終身 中村 優佑
（修士） 西島 公佳
野村 慶太
畑 知利
濱田 大地
林 勇寿
春田 愛
平地 遼
（修士） 吹田 祐介
藤田 真依
藤田 璃々香
藤原 優希
古林 周
（修士） 北條 泰成
松浦 咲季
松浦 早希
松下 哲也
水野 渚
村上 大地
10年(博士)森谷 樹
森山 陵
矢部 晴海
山下 大輔
山田 美帆
横山 翔太

令和5（2023）年3月卒の皆さんの支払い済の会費は、令和5年度の会費に充当させていただきます。

酒井 博
佐合 徳穂
10 年 佐藤 英二
柴田 光子
清水 みち子
清水 安恵
鈴木 信雄
鈴木 幸男
高井 優
多田 文樹
田中 豊
中川 久司
鍋田 由美子
西原 京子
服部 幸男
馬場 克行
原田 恵子
二見 真理子
堀内 拓
前田 真悟
松林 重幸
溝口 雅子
山下 清美
芳澤 正士
昭和 49（1974）年卒
石川 愼一
石川 優子
石原 幸子
宇佐美 ふさ枝
宇野 勝次
大石 稔
北川 俊朗
10 年 河野 洋子
駒木 玲子
佐藤 重一
佐藤 礼子
篠田 礼子
杉山 清
鈴木 達始
竹内 和代
立松 瑞子
内藤 恵子
仲野 慶子
西園 憲郎
終身 新田 正道
法月 壽美子
服部 久美子
終身 久江 信雄
深江 志津子
終身 渕上 賢二郎
増田 美保子
松島 須美
三重野 きの江
終身 三上 栄一
宮 三保
山田 玲子
山本 豊
渡辺 和樹
渡辺 ちづ子
綿引 喜志郎
昭和 50（1975）年卒
淺場 知恵子
網蔵 雄三
新井 昌彦
石原 弘子
10 年 井戸 康子
稲葉 良生
大塩 雪江
10 年 川口 順子
河口 進次
北内 末子
北内 政弘
10 年 喜納 美枝
小池 洋子
小杉 智子
小長井 晴美
佐倉 有紀
三瓶 由美子
白鳥 和子
（修士） 鈴木 清
瀬戸山 亨
高井 容子
立松 克己
10 年 中村 清治
野口 祐子
野中 則孝
服部 知恵子
終身 福田 葉子
星野 忠男
槇 裕子
村越 正典
10 年 望月 雅史
湯沢 昌子
脇田 久美子
渡邊 裕美子
昭和 51（1976）年卒
赤坂 喜孝
井川 悦男
石井 康子
伊藤 あゆみ
10 年 今井 公江
今井 譲
終身 海野 けい子
小野 公江
加藤 珠江
川上 典子
北島 裕子
玄 寿美
小島 克子
小平 郁子
小林 進
五味 和代
斎藤 由美子
相良 美企子
篠塚 和正
島田 友子
清水 明
杉山 和美
関根 英市
芹澤 重男
芹澤 房子
10 年 高橋 千恵子
武田 初実
立花 有美子
田村 敬子
近森 由美
千葉 和美
千葉 直子
10 年 内藤 睦子
永川 弘子
中林 啓子
服部 隆夫
服部 訓子
浜本 延哉
古谷 泰治
牧田 寿男
松本 順子
三輪 良雄
百瀬 佳寿子
八木 怜子
米山 美鈴
10 年 涌澤 伸哉
終身 和田 まり子
昭和 52（1977）年卒
市橋 純子
伊藤 茂子
上田 恵子
10 年 遠藤 哲也
大石 真由美
10 年 大橋 光代
10 年 神谷 公子
古西 清司
坂本 達一郎
三部 千恵子
10 年 柴本 浩典
杉崎 しのぶ
杉山 富士江
染谷 伸子
高橋 由紀子
竹之内 敏弘
10 年 土屋 益美
戸塚 順子
戸塚 実
中島 典子
中島 美智子
西村 利恵
橋爪 崇
波多野 力
10 年 牧野 栄一
丸山 久美子
村橋 桂子
村橋 均
終身 柳原 幸子
山浦 久美子
終身 山本 藤輔
昭和 53（1978）年卒
井浦 教子
10 年 石岡 政子
岩本 明彦
岡田 澄子
岡本 まり子
荻野 浩一
10 年 瓦谷 秀治
10 年 木下 俊也
工藤 武施
栗田 祐子
佐藤 和彦
曽布川 和則
田内 里美
武田 厚司
10 年 竹本 訓子
終身 寺田 美智子
久嶋 道広
福沢 知子
藤井 きょうこ
堀江 久美子
前田 典子
終身 正木 典子
山本 啓二
昭和 54（1979）年卒
在原 早苗
在原 登
安藤 公一
10 年 池田 潔
池本 長司
市橋 透
海野 一美
岡本 法暁
加藤 泉
北村 俊夫
木村 美子
桑原 尚子
坂井 節子
坂井 俊則
栄田 達夫
佐々木 敏郎
10 年 鈴木 隆
服部 宏明
花村 祥子
林 真人
平野 玲子
堀田 豊子
牧田 智津子
10 年 水島 久美
10 年 水島 教之
宮城島 正枝
村上 博子
望月 都
山崎 芳枝
吉田 静生
吉田 敬
終身 吉田 昌史
昭和 55（1980）年卒
石川 和正
岩堀 玲子
梅垣 敬三
10 年 老田 明子
岡田 宜彦
勝丸 由美子
10 年 金森 久美子
久保田 ふじ江
終身 後藤 利宏
終身 後藤 美重子
10 年 小林 才世子
是永 ひさ子
榊原 幹生
佐々木 洋子
佐々木 龍介
佐藤 和裕
篠塚 朋子
杉井 邦好
終身 鈴木 みどり
終身 高橋 俊博
谷 重喜
内藤 弘
内藤 縁
橋爪 隆江
終身 福田 忠明
10 年 山下 瑞江
10 年 山田 昌樹
結川 宏子
終身 渡辺 文孝
昭和 56（1981）年卒
秋山 欣三
石田 さとみ
石間 街子
上坂 一行
内田 玲子
勝又 陽子
北川 日佳子
久保田 清
10 年 小池 弘子
10 年 近藤 明子
齋藤 優
佐藤 佳余子
10 年(修士)杉山 裕茂
10 年 鈴木 直人
10 年 高木 由紀
高松 美保子
竹中 康晴
立川 富子
終身 辻 善春
土肥 佳史
中村 享
10 年 丸山 徹也
終身 本島 久也
10 年 山下 和夫
渡部 由紀子
昭和 57（1982）年卒
朝比奈 由和
有賀 美津子
10 年 石原 由美
石間 強
磯貝 光孝
今井 信行
上田 春美
（博士） 大軽 靖彦
大島 勝
岡野 幸次
終身 小栗 由弥子
10 年 乙田 ゆかり
終身 角田 真澄
勝山 善彦
終身 門脇 真
終身 河本 光宏
倉澤 由美子
小久保 宏恭
下田 宗人
杉岡 典子
杉村 敦子
杉村 壮一
谷口 哲也
千葉 敏郁
10 年 塚田 秀夫
永田 実
名倉 百合子
古橋 美佳子
松浦 智子
松永 正之
松本 正敏
美濃部 淳子
諸田 和子
諸田 隆
昭和 58（1983）年卒
終身 石川 日出美
石原 夕美
小川 恵
終身 賀川 義之
（修士） 加藤 善久
終身 鹿野 昇
終身 高橋 秀明
中井 清三
那須田 好男
終身 南部 佳代子
服部 直美
服部 大
終身 藤井 史恵
終身 間中 友季子
終身 本島 玲子
谷田貝 浩三
昭和 59（1984）年卒
終身 浅野 広志
芦川 裕子
石井 勇司
終身 石川 元章
10 年 稲葉 厚弘
井上 泰秀
終身 海野 敬乃
終身 大石 美満
10 年 大澤 勝一
片山 富彦
黒澤 豊彦
終身 越田 晃
10 年 堺谷 研嗣
終身 須賀 正美
高橋 浩二
田中 喜久夫
筒井 康英
10 年 長尾 康博
中里 初美
野中 稔
橋本 佳己
平野 桂子
深澤 由紀子
古川 真郎
堀之内 英樹
前沢 正和
前田 浩
森信 智子
矢島 ゆか
終身 山本 知代子
山本 通代
吉田 千佳代
和田 久仁恵
渡辺 詩織
（修士） 渡辺 徹志
昭和 60（1985）年卒
10 年 秋山 晋一郎
池田 雅彦
市田 敏宏
10 年 伊藤 治美
10 年 太田 昭二
終身 長内 尚子
終身 坂部 倫男
櫻井 のり子
清水 千賀子
終身 清水 宣秀
終身 砂川 京子
高橋 寿
土屋 正彦
10 年 長尾 智子
凪 貴史
平野 千恵
松崎 雅英
宮崎 多恵
本山 千津代
昭和 61（1986）年卒
石橋 健治
終身 枝野 敏行
久保 浩之
瀧澤 法子
中野 浩美
野崎 洋子
原田 晴司
前田 徹
牧野 尚美
昭和 62（1987）年卒
終身 枝野 恵子
終身 大木 明代
小口 真実
小田原 富士夫
金子 孝司
木村 正伸
終身 児玉 直美
小林 俊子
白倉 栄子
10 年 原田 喜充
松田 正樹
森本 生衣
横田 仁恵
昭和 63（1988）年卒
井上 千佳恵
10 年 伊吹 裕子
10 年 大城 雅章
小澤 久仁子
10 年 影山 牧生
笠毛 浩彦
10 年 神谷 京子
川瀬 一朗
川瀬 直子
中村 龍太
藤本 司
堀田 博美
牧草 由紀夫
平成元（1989）年卒
安藤 一郎
石綿 紀久
10 年 今津 佳子
大田 直樹
10 年 栗村 宗明
（修士） 小西 伸一郎
多田 義孝
長尾 美宏
兵庫 淳志
10 年 松浦 大輔
松岡 洋明
松原 久雄
平成 2（1990）年卒
終身 岡田 美和
小田 雄司
久保 美恵
窪田 実恵
小島 房子
佐藤 哲
下尾 貴宏
須原 のり子
須原 義智
竹内 時世
田中 真寿美
林 勇
平野 晃子
松田 通明
松丸 直美
望月 正栄
平成 3（1991）年卒
猪俣 千香子
岩田 直子
10 年 海野 吉美
加藤 ひかり
10 年 川嶋 寿
櫻井 孝司
下澤 浩美
終身 鈴木 由美子
多田 明弘
長野 敬
長野 有美子
中原 佳子
中原 努
終身 日比 貴子
（修士） 福原 正博
松木 いつ子
終身 渡邊 哲史
平成 4（1992）年卒
池田 美保
岩崎 綾乃

令和４年度 会費納入者一覧（敬称略）

終身：終身会費納入者　　10 年：10 年会費納入者

（修士）：修士修了年　　（博士）：博士修了年

昭和 20（1945）年卒
三村 治子
昭和 21（1946）年卒
児玉 光子
昭和 23（1948）年卒
小竹 京子
昭和 24（1949）年卒
土村 保子
米澤 宜子
昭和 25（1950）年卒
安間 俊子
川村 幸子
木口 隆子
武藤 幸子
渡辺 喜久代
昭和 28（1953）年卒
細田 興子
室伏 すみ子
昭和 29（1954）年卒
大西 安子
10 年　小野 郁夫
杉本 敬一
10 年　平野 信三
平林 和子
渕野 恒雄
正木 ミツエ
10 年　増田 令子
山下 友子
昭和 32（1957）年卒
青山 健一
10 年　秋山 矩子
泉 安子
稲名 一枝
梅村 隆久
太田 斐子
開発 邦男
河西 健
酒見 圭子
10 年　杉浦 暢
須崎 守康
辰己 好美
中谷 貴美子
林 貞子
平野 昌子
増井 幸子
松岡 淑子
三谷 倫一
森谷 甫美
10 年　山村 美智彦
昭和 33（1958）年卒
青山 仁
縣 貴江
石田 佳子
伊庭 治子
右近 洋英
大桑 滋之
太田 保
大坪 千恵子
小原 博光
片山 克彦
塩谷 勝夫
杉本 多喜子
田村 重継
中島 信子
中村 てる子
中村 迪子
野呂 和子
深津 昭
藤井 博
風里谷 歌子
前田 祐子
村井 晶子
村井 勉
昭和 34（1959）年卒
飯島 千穂子
逸見 絹代
伊藤 典子
伊藤 玲子
太田 英子
大村 二三夫
神谷 大三郎
神田 礼子
西郷 功
10 年　酒井 光江
柴田 幸子
長倉 久美子
溝口 しづ
村上 圭子
矢沢 光子
山口 修
山本 昭野
昭和 35（1960）年卒
10 年　有田 政彦
市中 洋子
宇都 宗長
宇都 仁子
遠藤 伸江
小川 高子
奥村 太一
小栗 信彦
尾崎 克子
角田 藤子
金子 暁子
小林 弘子
小林 富二男
10 年　杉山 豊美
鈴木 千枝
鈴木 正子
百々 紗世子
鳥居 暁
中嶋 イチ子
鍋谷 勤
10 年　林 正康
10 年　星 由利子
松永 義明
溝口 謙吾
山下 恒子
10 年　山田 とし子
昭和 36（1961）年卒
朝木 はる子
井上 隆子
大塚 信子
岡 鐵雄
小堤 公子
金井 修躬
河谷 浩子
木下 幸子
佐藤 美也子
渋谷 けい子
10 年　高木 操
田中 正幸
中川 豊子
仲道 述夫
福島 俊郎
古田 尚平
松永 純一
丸山 晃
丸山 利依子
森 正彦
山崎 宏子
山崎 雅江
山下 敏夫
山本 擴
10 年　渡辺 亜沙子
昭和 37（1962）年卒
奥田 允子
亀井 興
川合 頴子
河村 信弘
工藤 弘子
蔵本 和彦
桑原 伊玖子
小西 一宏
近藤 静男
笹田 庸子
佐藤 朝子
白井 千恵子
10 年　鈴木 智彦
大長 美穂子
平良 武男
田中 恒夫
松岡 千恵子
松原 民子
吉岡 はま
昭和 38（1963）年卒
石島 弘明
上杉 史代
小栗 瑠璃子
風間 舜介
川口 和子
五島 廉輔
佐藤 寛子
志村 孝
鈴木 清
砂本 勝
土屋 尚子
寺田 章男
中川 淳
野口 英世
野未 一茂
野呂 忠敬
古畑 喜博
10 年　森 元邦
吉田 信正
渡辺 直則
昭和 39（1964）年卒
10 年　浅海 英子
新 邦夫
有光 とし子
飯塚 優規子
石原 さち子
岩本 浩代
小沢 敬子
開発 雅子
河原畑 二郎
左納 通正
竹上 英男
田中 洋子
辻 邦郎
西澤 伸行
林 英文
深沢 彰
本田 貫十郎
三浦 勇二
宮本 正紀
望月 達之
八鍬 恭子
昭和 40（1965）年卒
秋山 喜彦
足立 一彦
池田 正章
石原 廣男
井手吉 範久
岩村 晋
大塚 坦造
奥村 淑恵
角 淑子
河合 秀和
岸野 文治
木苗 直秀
河野 悦子
五島 綾子
小西 みゆき
齋下 光宏
佐合 武
志村 洋子
高橋 圭子
谷澤 久之
手塚 勇
中 寿美
中川 いく子
長沢 淑子
永野 隆夫
藤井 尚子
本多 洋子
松浦 美恵子
宮本 靖夫
村上 みね子
村上 雄厚
村越 信義
山口 正代
山下 紘子
終身　横倉 輝男
昭和 41（1966）年卒
阿部 千恵子
石上 幸司
稲垣 忠
大場 浩
片岡 睦
木下 孝夫
金原 昌臣
斎藤 慎一
清水 義允
杉山 葉子
鈴木 義則
高橋 郁子
高濱 佳世子
田辺 智弘
谷澤 康子
手塚 雅勝
10 年　中村 好志
成田 愈尚
糠谷 東雄
野田 弘子
服部 徳子
板東 信夫
古木 昭夫
味知 恵子
森田 俊夫
山崎 悦孝
山中 矩子
渡邊 能子
昭和 42（1967）年卒
上西 明子
内田 隆
内田 文代
興津 馨
小澤 久子
後藤 正典
斉藤 紀恵
白橋 美智子
芹沢 嘉子
高田 トシ子
高柳 法康
田村 八宏
土屋 久美子
長島 紀子
糠谷 ミツル
長谷川 進彦
長谷川 米子
船山 和彦
望月 知嘉子
若宮 忠弘
鷲巣 昭弘
鷲巣 幸子
渡辺 武明
昭和 43（1968）年卒
浅岡 公江
植松 正吾
大谷 淑郎
大庭 均
小笠原 純子
片桐 且正
川口 彰
北原 功久
北村 久代
木俣 六司
向後 勝成
斎藤 正子
佐藤 美代子
鈴木 登志子
鈴木 ふみ子
高橋 久美子
（修士）　高山 修一
辻 静子
中 公子
長岡 彰子
永野 博正
終身　仁科 美代子
野沢 千鶴子
深沢 伸之
藤井 武教
本間 文夫
前田 文子
丸山 博三
村松 鐸治
山上 寿子
山田 幸子
終身　山本 武司
昭和 44（1969）年卒
安藤 亮司
岩城 節子
植田 悦子
大石 悦子
終身　桐浴 静江
佐藤 正基
杉山 恭子
鈴木 勝雄
武田 隆幸
藤井 真
増田 昌子
宮武 忠司
10 年　村松 郁延
望月 笙子
森本 正信
山本 栄子
若尾 直司
昭和 45（1970）年卒
青木 興治
有本 博雄
市尾 義昌
伊藤 徳雄
稲葉 藤子
10 年　内神 啓子
内田 早苗
浦野 治明
小楠 和彦
小股 和裕
金月 一夫
10 年　熊谷 直人
桑山 雅枝
後藤 守男
小林 政幸
櫻田 照男
佐野 満昭
柴田 揚子
清家 功
高山 雅子
富坂 修
仲谷 博明
終身　新里 光子
法月 正善
廣田 勇夫
堀内 淳司
増田 恒夫
増田 義典
望月 利郎
山崎 正敏
山下 健二郎
和田 澄子
藁科 利夫
昭和 46（1971）年卒
青木 行雄
終身　安倍 恵子
終身　安倍 道治
井出 知子
10 年　伊東 俊雄
入江 俊夫
入江 洋子
岩﨑 年史
海野 忠市
小川 光子
10 年　小木曽 俊夫
桶川 修
鎌田 裕子
木苗 恵子
久保田 美恵子
熊谷 猛
熊谷 房子
坂上 むつみ
田中 隆子
長倉 章夫
中村 芳正
野路 久仁子
長谷川 良夫
廣田 孝之
堀川 正
前田 勝代
前田 利男
前田 稔
10 年　松井 静雄
松島 三重子
水野 茂
味知 博泰
村岡 孝子
望月 智子
山城 實子
山田 静雄
吉田 元
終身　若林 敬二
昭和 47（1972）年卒
相坂 力
秋山 岳士
石川 雅章
稲葉 正治
宇野 恵美子
大庭 茂樹
岡谷 栄三
金田 恵美子
川田 礼子
河村 博
北田 善三
北村 洋子
木下 俊子
10 年　熊谷 ますみ
小瀬 俊裕
坂本 忠勝
坂元 洋一郎
佐塚 純子
澤田 栄二
芝 和子
鈴木 典子
高橋 俊二
田村 義男
田村 りつ子
寺田 佳織
永野 明美
広瀬 信長
福田 陽子
堀川 隆道
真野 由里子
村上 名都子
10 年　望月 美枝
茂籠 英晴
柳川 英幸
終身　矢野 千恵
昭和 48（1973）年卒
安部 精一
安藤 知世
10 年　伊藤 久男
牛川 務
終身　大井 利夫
大橋 洋次
終身　大村 洋一
加藤 てい子
金田 徹
10 年　川原 利春
絹村 厚幸

令和５年度薬学生涯研修講座

情報化社会における薬学及び薬剤師の将来ビジョン

主催/一般社団法人静薬学友会・静岡県立大学薬学部

日　　時：令和 6年 2月18日（日） 13：00～16：40

開催場所：静岡県立大学　小講堂

開催方法：集合研修及びオンラインでの配信によるハイブリット方式

後　　援：静岡市薬剤師会 静岡県薬剤師会 静岡県病院薬剤師会（予定）

プログラム

【開会挨拶】13：00　一般社団法人静薬学友会会長　安倍　道治
静岡県立大学薬学部長　石川　智久

【特別講演】13:10～14：20

「ビッグデータ解析から見る薬学及び薬剤師の将来像」
東京理科大学 薬学部薬学科　臨床薬剤情報学研究室
教　授　真野　泰成

【一般講演】14:30～16：20

「デジタル化する薬剤業務」

1. 調剤業務のオートメーション化、ICT活用
株式会社ユヤマ　学術部長　森　和明

2. 保険薬局におけるDX, ICTの活用
薬樹株式会社　常務取締役
株式会社トモズ　取締役　町田　剛

3. 病院―薬局間の地域連携におけるICTの利活用
株式会社日立製作所　ひたちなか総合病院
TQM統括室経営支援センター長　関　利一

4. 電子処方箋の導入等
地方独立行政法人広島市立病院機構　広島市立北部医療センター
安佐市民病院　薬剤部部長　宮森　伸一

【閉会挨拶】16：40

参加定員：集合研修80名、ウェブ利用研修300名

★集合研修、ウェブ利用研修とも日本薬剤師研修センター研修認定単位2単位が交付されます（予定）

参 加 費 ：無料　会員以外もご参加いただけます

参加方法：静薬学友会ホームページよりお申込ください（http://shizuyaku.jp）

令和5年度薬学生涯研修講座運営委員会　委員長　若林敬二
問い合わせ・参加申込/一般社団法人静薬学友会
〒422-8526静岡県静岡市駿河区谷田52-1
TEL：(054)265-8763 FAX：(054)265-8769
Eメール：shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp

会員専用Webサービスご利用の手引き

http://shizuyaku.jp

静薬学友会 検索

スマートフォンからもご利用いただけます。

Web名簿システムログイン

画面右上のマイページをクリックしてください。「会員ID/パスワード」を入力後、ログインをクリックしてください。

初回ログイン時には、メールアドレスと生年月日の登録が必要になります。

＊ご自身のID／パスワードを確実に保管していただきますようにお願いいたします。

パスワードを忘れた方

万一、変更したパスワードを忘れてしまった場合は、画面のパスワードを忘れた方より、登録済のメールアドレスと生年月日で即時に再発行を受けることができます。

一度もログインしたことがない方で、パスワードがお分かりにならない場合は、事務局にお問い合わせください。パスワードを再発行いたします。

ご自身の登録情報の確認と変更

- 住所、勤務先などの情報はご自身でご変更いただきますようお願いいたします。
- 登録情報を会員にどの程度公開して良いか、ご自分で設定してください。「全同窓生に開示」「同門同年卒に開示」「非開示」の設定ができます。

会費のお支払い各種お申し込み

- 年会費、終身会費、10年会費のお支払いができます。
- 薬学生涯研修講座のお申し込みができます。（お申し込み期間中のみ表示されます。）

同窓会名簿の閲覧

卒業・修了年、氏名、住所、勤務先等を検索し、本人が公開を許可した情報を閲覧できます。